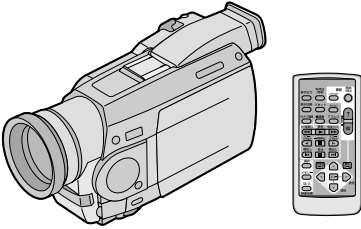
Panasonic

デジタルビデオカメラ
取扱説明書

品番 **NV-C7**

保証書別添付

このたびは、デジタルビデオカメラをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

この取扱説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。そのあと保存し、必要なときにお読みください。

保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

MultiMediaCard™

安全 安全上のご注意

使う前に 使う前の知識と準備

撮る 見る 撮影／再生の基本操作

多彩な機能 応用的な操作

その他の情報 知っておきたい情報

VQT8836-2

インターネット上にパナソニックビデオ / ビデオカメラのホームページを設けています。アクセスをお待ちしています。
Panasonic VIDEO HOME PAGE
http://www.panasonic.co.jp/avc/video/

もくじ (すぐに撮って、見たい方は、安全の項目をお読みの後、☜いますぐ使う印の項目をお読みください)

安 全

使 う 前 に

撮る　見る

多彩な機能

多彩な機能

撮影系演出

再生系演出

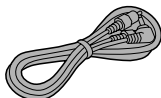
カード

編集

その他の情報

付属品をお確かめください。

リモコン
N2QAFC000003
コイン電池
CR2025

映像 / 音声コード
(ミニジャック対応)
K2KC4CB00001

S 映像コード
VJA1120

レンズキャップ
VYP7803
レンズキャップひも
VGQ5138

ショルダーベルト
VFC3506

デジタルビデオ用
ヘッドクリーナー
VFK1449S

記載の品番は2000年6月現在のものです。

安全上のご注意 必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

表示	内容
⚠ 危険	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う危険が切迫して生じることが想定される」内容です。
⚠ 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠ 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。(下記は絵表示の一例です)

絵表示	内容
⚠	このような絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。
⊘	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
●	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

「安全上のご注意」はビデオカメラに共通のものです。記載されているビデオカメラの図は、実物と多少異なりますがご了承ください。

⚠ 危険

バッテリーの充電は、専用の充電器を使う

機器の形状が同じでも性能が異なると、バッテリーの液もれ・発熱・発火・破裂につながります。

● バッテリーを指定以外の機器に使わないでください。

バッテリーを分解、加工(はんだ付けなど)、加圧、加熱、火中投入などをしない

禁 止

液もれ・発熱・発火・破裂につながります。

● 不要(寿命)になったバッテリーについては、140ページをご参照ください。

⚠危険

バッテリーの端子部(⊕と⊖)に金属物(ネックレスやヘアピンなど)を接触させない

禁止

液もれ・発熱・発火・破裂につながります。

●ビニール袋などに入れ、金属物と接触させないようにしてください。

バッテリーを炎天下(特に真夏の車内)など、高温になるところに放置しない

禁止

液もれ・発熱・発火・破裂につながります。

⚠警告

煙が出ている、異常に熱い・におい・音がするときなどは使うのをやめ、電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

火災・感電につながります。

●バッテリーで使っている場合は、バッテリーを外してください。
●販売店にご相談ください。

内部に水や異物などが入ったときや外装ケースが破損したときは、使うのをやめ、電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

火災・感電につながります。

●バッテリーで使っている場合は、バッテリーを外してください。
●販売店にご相談ください。

⚠ 警告

電源プラグのほこりなどは取る

湿気などでショートや絶縁不良となり､火災・感電につながります。

●プラグを抜き、乾いた布でふいてください。
●プラグは時々点検してください。

電源プラグは、根元までしっかりと差し込む

接触不良で火災・感電につながります。

●いたんだプラグやゆるんだコンセントは、使わないでください。
●プラグは時々点検してください。

内部に金属物や燃えやすいものなどを入れない

禁止

火災・感電・故障につながります。

●乳幼児にご注意ください。

交流100ボルト～240ボルト以外では使わないまた､配線器具の仕様をこえる使いかたをしない

禁止

たこ足配線などの場合も、過電流で発熱し、火災・故障につながります。

ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定なところに置かない

禁止

落下すると、けがや製品の故障につながります。

⚠警告

水をかけたり、ぬらしたりしない

水ぬれ禁止

内部に水が入ると、火災・感電・故障につながります。

●水が入ったときは、販売店にご相談ください。
●雨天、降雪中、海岸、水辺など水がかかりやすいところで使うときは、ぬらさないようにご注意ください。

分解や改造をしない

分解禁止

火災・感電・故障につながります。
●修理や内部の点検は、販売店にご相談ください。
●お手入れ時で、部品の取り外しや取り付けなどが必要な場合は、説明書の指示に従ってください。

不安定な状態で使わない

禁 止

転落すると、死亡や大けがにつながります。

●安定した足場、安定した体勢を確保してください。

電源コードやプラグを破損させない

禁 止

無理なねじり、引っ張り、加工、重いものの下敷きなどは、コード破損の原因となり、火災・感電につながります。

●破損したときは、使うのをやめ、販売店にご相談ください。

コイン電池は、乳幼児の手の届くところに置かない

禁 止

誤って飲み込むと、身体に悪影響を及ぼします。

●万一飲み込んだと思われるときは、すぐに医師にご相談ください。

⚠ 警告

自動車など、乗り物を運転しながら使わない

禁 止

事故の誘発につながります。

●歩きながら使うときも、周囲の状況、路面の状態などに十分ご注意ください。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

ぬれ手禁止

感電につながります。

●必ず、乾いた手で持ってください。

雷が鳴り出したら、本機の金属部やACアダプターなどの電源プラグにふれない

接触禁止

落雷すると、感電につながります。

⚠ 注意

高温になるところに放置しない

禁 止

特に真夏の車内、車のトランクの中は、想像以上に高温(約60°C以上)になります。カセットテープやビデオカメラ、バッテリー、アダプターなどを絶対に放置しないでください。熱で外装ケースが変形し内部部品が破損すると火災・感電のおそれがあります。

レンズやファインダーを太陽や強い光源に向けたままにしない

禁 止

集光により、内部部品が破損し、火災のおそれがあります。

カセット入れ口に指をはさまれないように注意する

指に注意

けがをするおそれがあります。

●乳幼児にご注意ください。

⚠注意

本機の上に重いものを置いたり、乗ったりしない

重量で外装ケースが変形し、内部部品を破損すると、火災・感電・故障のおそれがあります。

音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

飛行機内で使うときは、航空会社の指示に従う

本機が出す電磁波などにより、飛行機の計器に影響を及ぼすおそれがあります。

●病院などで使うときも、病院の指示に従ってください。

充電中や使用中は、機器の上に布などをかぶせない

熱で外装ケースが変形し内部で発熱すると、火災・感電・故障のおそれがあります。

お手入れの際や長期間使わないときは、安全のため、電源プラグを抜く

誤って内部にふれると、感電するおそれがあります。また、通電状態で放置、保管すると、絶縁劣化、漏電などにより、火災につながるおそれがあります。(テープ保護のため、カセットも取り出しておいてください)

⚠ 注意

油煙、湯気、湿気、ほこりなどが多いところ、振動が激しいところで使わない

禁 止

水やほこりが入ったり、振動などで内部部品が損傷すると火災・感電のおそれがあります。

- 3 年に一度ぐらいは、販売店に点検をご相談ください。(特に湿度が高くなる梅雨期の前に点検をすると、効果的です)
- 費用についても、そのときお確かめください。

コイン電池は、⊕・⊖を確かめ、正しく入れる

間違えると、液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、けがをするおそれがあります。

コイン電池を分解、加工(はんだ付けなど)、加圧、加熱、火中投入などをしない

禁 止

液もれ・発熱・発火・破裂のおそれがあります。

指定以外の電池を使わない

禁 止

指定以外を使うと、液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、けがをするおそれがあります。

コイン電池の⊕・⊖部に金属物(ネックレスやヘヤピンなど)を接触させない

禁 止

液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、けがをするおそれがあります。

- ビニール袋などに入れ、金属物と接触させないようにしてください。

液もれしたときは：

- 万一、液もれが発生し、液が手や衣服に付いたときは、水でよく洗い流してください。
- 液が目に入ったときは、失明のおそれがあります。目をこすらずに、すぐにきれいな水で洗ったあと、医師にご相談ください。

使う前に

まずお読みください！
事前にためし撮りをしてください。
大切な撮影(結婚式など)は、必ず事前にためし撮りをし、正常に撮影(録画)や録音されていることを確かめてください。

撮影内容の補償はできません。
本機およびカセット(テープ)、カードの不具合で撮影(録画)や録音されなかった場合の内容の補償についてはご容赦ください。

著作権にお気を付けください。
あなたが撮影(録画)や録音したものは、個人として楽しむ以外は、著作権法上権利者に無断では使用できません。個人として楽しむ目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでお気を付けください。

カードの画像について
他機で記録、作成した画像の本機での再生、本機で記録した画像の他機での再生はできない場合がありますので、あらかじめお確かめください。

本書内の写真 / イラストについて
本書内の写真は、説明のためスチル写真から合成しています。また、本書内の製品姿図・イラストは、実物とは多少異なりますが、ご了承ください。

参照ページについて
参照いただくページを(P00)で示しています。

本機で使用できるカセットは
Mini DV マークの付いたデジタルビデオカセットテープです。

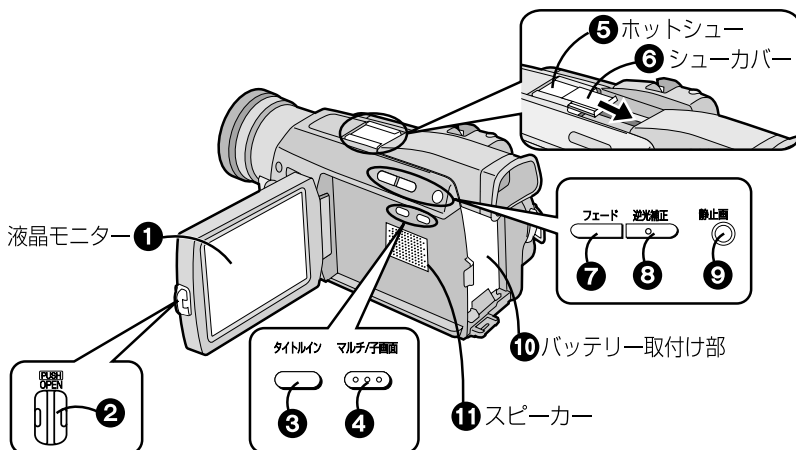
本機で使用できるカードは
マルチメディアカードと SD メモリーカードです。

本機用のアクセサリーキット（別売）は以下の２種類です。

1. VW-PDC7
- ●AC アダプター
  - ・電源コード
  - ・DC コード
- ●バッテリーパック
- ●16MB マルチメディアカード

2. VW-PPSD1
- ●AC アダプター
  - ・電源コード
  - ・DC コード
- ●バッテリーパック
- ●8MB マルチメディアカード
- ●デジタルフォトプリンター

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

各部の名前と働き～本体～

❶ 液晶モニター(P26 、132)

❷ 液晶開くボタン
液晶モニターを開くときに使います。(P26)

❸ タイトルインボタン
映像にタイトルを入れるとき、消すときに使います。(P102)

❹ マルチ / 子画面ボタン
マルチ画面表示や子画面表示するときに使います。(P72 ～77、80 ～87)

❺ ホットシュー
ビデオフラッシュなどをつけるところです。(P143)

❻ シューカバー
ホットシューを使うときはファインダーを引き出してから、シューカバーを矢印の方向にずらして取り外します。(上図)

❼ フェードボタン
フェード効果に使います。(P70)

❽ 逆光補正ボタン
逆光補正します。(P60)

❾ 静止画ボタン
カメラからの映像をデジタル静止画にします。(P36)

❿ バッテリー取付け部(P20)

⓫ スピーカー(P48)

⓬ フォーカスリング
手動でピントを合わせるときに使います。(マニュアルフォーカス)(P60)

⓭ レンズフード(P143)

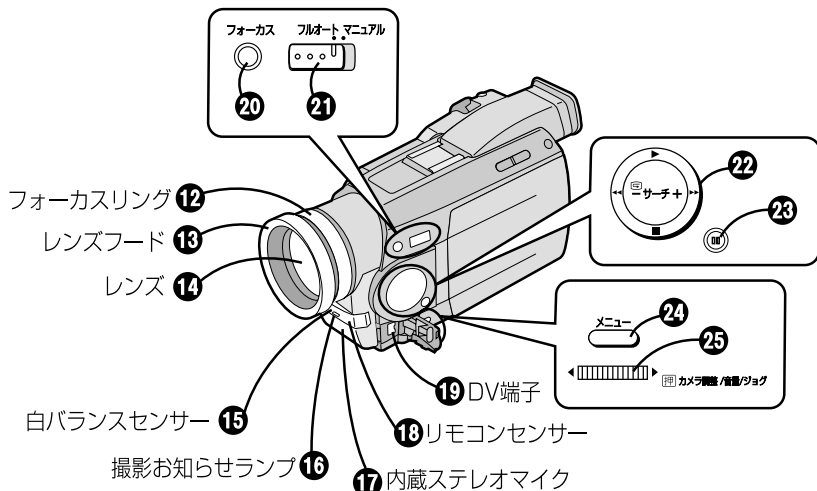
⓮ レンズ

⓯ 白バランスセンサー
白バランスを自動的に切り換えるセンサーです。(P62)
指などでふさがないでください。

⓰ 撮影お知らせランプ
撮影中に点灯して、撮影していることを知らせます。(P35)
リモコン受信時は、点滅します。

⓱ 内蔵ステレオマイク

⓲ リモコンセンサー
リモコンからの信号を受けるセンサーです。(P28)
指などでふさがないでください。

⓳ DV 端子(i/i.LINK)
デジタル信号の入出力用端子です。
DV端子(i.LINK端子)を持つデジタルビデオ機器やパソコンと接続します。
(P115 、118 、122、124)

⑳ フォーカスボタン
手動でピントを合わせるときに使います。(マニュアルフォーカス)(P60)

㉑ フルオート･マニュアル切換えスイッチ
フルオートとマニュアルを切り換えます。(P60～66)

㉒ サーチ / 早送り(▶▶)/ 巻戻し(◀◀)/ 撮影チェック( )ボタン
撮影：　カメラサーチ(P56)、撮影チェック(P34)をします。
再生：　早送り・早送り再生、巻戻し･巻戻し再生します。(P48 、50)
カード再生：カードのメモリー画像や音楽データを送り / 戻しします。(P96、106)

再生ボタン(▶)
再生：　再生をします。(P48)
カード再生：カードのメモリー画像をスライド再生します。(P96)
音楽データを再生します。(P106)

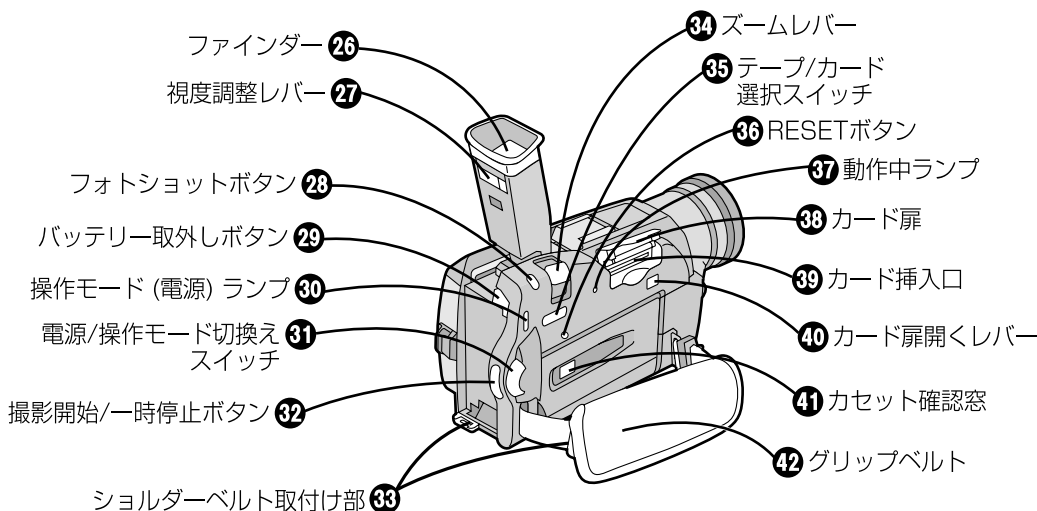
停止ボタン(■)
再生：　テープ走行を停止します。(P48)
カード再生：カードのメモリー画像のスライド再生を停止します。(P96)
音楽データの再生を停止します。(P106)

㉓ ▯▯ ボタン
再生：　静止画再生します。(P52)
カード再生：スライド再生や音楽再生を一時停止します。(P96、106)

㉔ メニューボタン
メニューを表示します。(P127～131)

㉕ マルチプッシュダイヤル
- メニューの項目選択･設定(P32)
- 白バランスの選択・設定(P62)
- 電子シャッター、絞り / ゲインの選択・設定(P64)
- 音量調整(P48)
- 再生時のジョグ操作(P52)
- 可変速サーチの速度調整(P50)
- マルチ画面の画像を選択(P86 、96、102、108)

各部の名前と働き～本体～(つづき)

ファインダー ㉖
視度調整レバー ㉗
フォトショットボタン ㉘
バッテリー取外しボタン ㉙
操作モード (電源) ランプ ㉚
電源/操作モード切換え スイッチ ㉛
撮影開始/一時停止ボタン ㉜
ショルダーベルト取付け部 ㉝
㉞ ズームレバー
㉟ テープ/カード 選択スイッチ
㊱ RESETボタン
㊲ 動作中ランプ
㊳ カード扉
㊴ カード挿入口
㊵ カード扉開くレバー
㊶ カセット確認窓
㊷ グリップベルト

㉖ ファインダー

液晶モニターを閉じたときに、映像を見るところです。(P26 、132)
対面撮影時はファインダーにも映像が映ります。(P46)

㉗ 視度調整レバー

視力に合わせてファインダーを調整するときに使います。(P26)

㉘ フォトショットボタン

㉟が「テープ」のとき：
- フォトショット画像をテープに記録します。(P36)
- カードのメモリー画像をテープに記録します。(P98)

㉟が「カード」のとき：
フォトショット画像をカードに記録します。(P92)

㉙ バッテリー取外しボタン

バッテリーを取り外します 。

㉚ 操作モード(電源)ランプ

操作モード(撮影 / 再生 / カード再生)のランプが点灯します。(P27)

㉛ 電源 / 操作モード切換えスイッチ

- 電源の「入」「切」操作をします。
- 上にずらすごとに操作モードが切り換わります(P27)

㉜ 撮影開始 / 一時停止ボタン

撮影を始めるとき、一時停止するときに使います。(P34)

㉝ ショルダーベルト取付け部(P30)

㉞ ズームレバー

ズーム操作に使います。(P40)

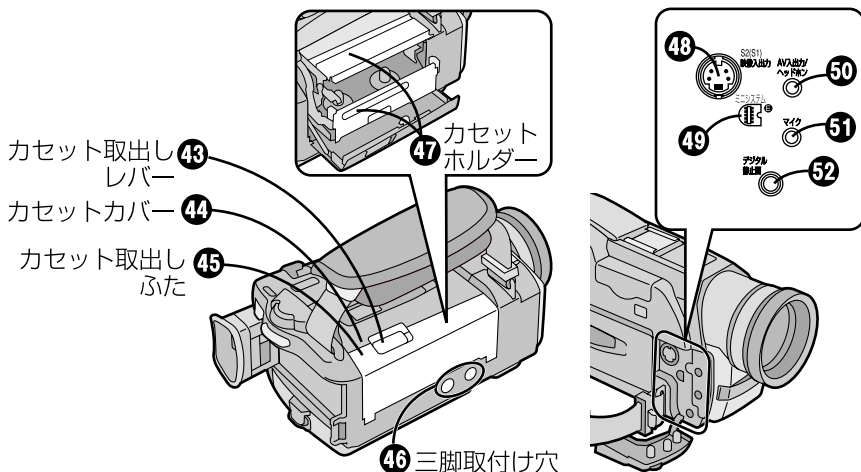
㉟ テープ / カード選択スイッチ

フォトショット画像をテープ、カードのどちらに記録するか選択します。
(P36 、92)

㊱ RESET ボタン

電源が入っているのに操作できないなど、トラブルがおこったときに、先の細いもので押してください。(P155)

㊲ 動作中ランプ

カードのデータにアクセスしているときに点灯します。(P91)

㊳ カード扉
カードを入れてカード扉を閉じると、カードを使用できるようになります。(P90)

㊴ カード挿入口
ここからカードを入れます。(P90)

㊵ カード扉開くレバー(P90)

㊶ カセット確認窓
カセットが入っているかを確認する窓です。

㊷ グリップベルト
手の大きさに合わせて調整できます。(P30)

㊸ カセット取出しレバー
カセット取出しふたを開くときに使います。(P24)

㊹ カセットカバー
カセットを入れたあと、ここを閉じます。(P24)

㊺ カセット取出しふた
「カチッ」と音がするまで開くと、カセットホルダーが出ます。(P24)

㊻ 三脚取付け穴

㊼ カセットホルダー
ここにカセットを入れます。(P24)

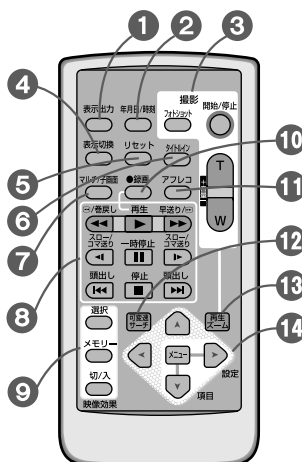
㊽ S2(S1)映像入出力端子
テレビの映像を見るときやダビングするときなどに使います。(P54 、114)

㊾ ミニシステム Ⓔ 端子
ビデオプリンターや編集コントローラーと接続するときに使います。(P120 、122、123)

㊿ AV 入出力 / ヘッドホン端子
テレビで映像を見るとき、アフレコ、ダビングをするときや、ヘッドホンで音声を聞くときなどに使います。(P48 、54 、112)

51 マイク端子
外部マイクなどをつなぎます。(P112)

52 デジタル静止画端子
パソコン静止画キット(別売)を使って、パソコンに画像を取り込むときに使います。(P125)

各部の名前と働き～リモコン～

❶ 表示出力ボタン
撮影 / 再生 / カード再生：
画面の機能表示をテレビに表示させます。
(P55)

❷ 年月日／時刻ボタン
年月日、時刻を表示させます。(P49)

❸ 撮影操作／音量調整部
フォトショットボタン(P37、93)
ビデオカメラ本体のボタンと同じ機能です。

撮影開始／停止ボタン(P35)
ビデオカメラ本体の「撮影開始 / 一時停止ボタン」と同じ機能です。

ズーム／音量ボタン
撮影：　ズーム操作に使います。(P41)
再生：　内蔵スピーカーの音量を調整するときに使います。(P49)
再生ズームの倍率を変えるときに使います。(P88)

❹ 表示切換ボタン(P134)
カウンターモードを切り換えます。

❺ リセットボタン(P149)
（リニア）カウンターの値がゼロになります。

❻ タイトルインボタン(P102)
ビデオカメラ本体のボタンと同じ機能です。

❼ マルチ / 子画面ボタン
(P72～77、80～87)
ビデオカメラ本体のボタンと同じ機能です。

❽ 再生操作部
巻戻しボタン(◀◀)
(P35、49、51、97)
ビデオカメラ本体のボタンと同じ機能です。

早送りボタン(▶▶)(P51、97)
ビデオカメラ本体のボタンと同じ機能です。

再生ボタン(▶)
再生：　再生をします。(P49)また、録画ボタンと同時に押して、録画します。(P114、118)
カード再生：カードのメモリー画像を約5秒ごとにスライド再生します。(P97)
音楽データを再生します。(P106)

スロー／コマ送りボタン(◀Ⅰ、Ⅰ▶)
再生：　再生中に押すと、スロー再生、一時停止中に押すと、コマ送り再生になります。(P52)
(◀Ⅰは逆方向、Ⅰ▶は正方向です)

頭出しボタン(I◀◀、▶▶I)
再生：　撮影した映像を頭出しします。(P58)
(I◀◀は逆方向、▶▶Iは正方向です。)

停止ボタン(∫)
再生：　テープ走行を停止します。(P49)

カード再生：カードのスライド再生や音楽データの再生を停止します。(P97、106)

一時停止ボタン(❚❚)
再生：　静止画再生します。(P52)
カード再生：カードのスライド再生や音楽データの再生を一時停止します。(P97、106)

❾ 映像効果部
選択ボタン(P78)
再生：　「デジタルセッテイ」メニューの「コウカセンタク」のモードを設定します。
メモリーボタン(P78)
再生：　「コウカセンタク」のワイプ、ミックス時のメモリー画像を決定するときに使います。
切 / 入ボタン(P78)
再生：　選択モードを一時解除するとき･有効にするときに使います。「コウカセンタク」のワイプ、ミックス効果を始めるときにも使います。

❿ 録画ボタン(●)(P114 、118)
再生：　再生ボタンと同時に押して、録画を開始します。

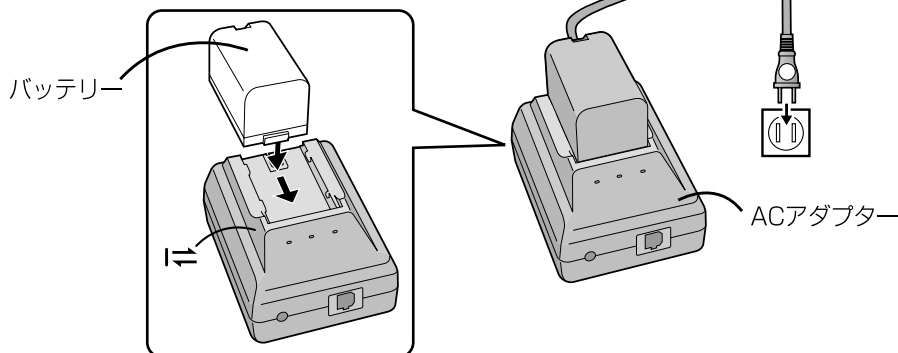
⓫ アフレコボタン(P112)
再生：　アフレコ操作に使います。

⓬ 可変速サーチボタン(P51)
可変速サーチモードになります。

⓭ 再生ズームボタン(P88)
再生：　再生映像を拡大するときに使います。

⓮ メニュー設定 / 再生ズーム操作部
メニューボタン
ビデオカメラ本体のボタンと同じ機能です。(P33)

方向ボタン
再生ズーム時、画面を上下左右に動かすことができます。
メニュー画面表示時は、メニュー内の項目や選んだ項目の値やモードを設定する設定ボタンに変わります。(P33)
▲▼ ボタンで、可変速サーチのサーチ速度を変更できます。(P51)

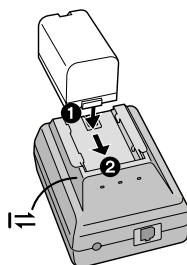
バッテリーを充電する
バッテリーを付ける

タイトル

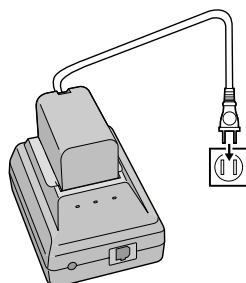
バッテリーを充電する

バッテリーは充電すると使えるようになります。
充電器は AC アダプターを使います。
「急速」ランプ点灯で、約１時間の連続撮影が可能になります。
(急速充電対応のバッテリー充電時)

AC アダプターとバッテリーは別売のアクセサリーキットに付属しています。

1

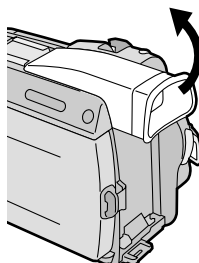
マークにそって、バッテリーを水平にのせ、押す

2

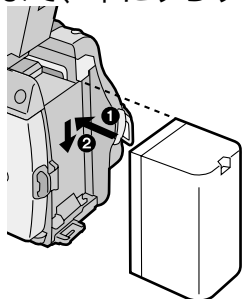
電源コードをつなぐ

タイトル

バッテリーを付ける

充電済みのバッテリーを付けると、ビデオカメラを操作できるようになります。

1

ファインダーを上げる

2

バッテリーをまっすぐ押しあて、「カチッ」と音がするまで、下にずらす

充電時間と撮影可能時間について

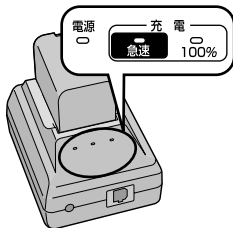
ファインダー使用時(( )内は液晶モニター使用時)

バッテリー品番	電圧/容量	充電時間	連続撮影可能時間	間欠撮影可能時間	急速ランプ点灯での連続撮影可能時間
アクセサリーキットに付属のバッテリー	7.2 V/1500 mAh	約1時間10分	約2時間50分(約2時間15分)	約1時間25分(約1時間10分)	約15分で点灯→約１時間撮影可能
VW-VBD21(別売)	7.2 V/800 mAh	約1時間	約1時間20分(約1時間5分)	約40分(約35分)	急速充電未対応
VW-VBD22(別売)	7.2 V/1400 mAh	約1時間30分	約2時間20分(約1時間50分)	約1時間10分(約55分)	約20分で点灯→約１時間撮影可能
VW-VBD33(別売)	7.2 V/1500 mAh	約1時間10分	約2時間50分(約2時間15分)	約1時間25分(約1時間10分)	約15分で点灯→約１時間撮影可能
VW-VBD25(別売)	7.2 V/2800 mAh	約2時間	約4時間50分(約3時間55分)	約2時間25分(約2時間)	約15分で点灯→約１時間撮影可能
VW-VBD5(別売)	7.2 V/5300 mAh	約4時間30分	約9時間10分(約7時間40分)	約4時間35分(約3時間50分)	急速充電未対応

●アクセサリーキットに付属のバッテリーはVW-VBD33と同等品です。

●上表は常温(温度２０ ℃/湿度６０%)での時間です。高温、低温時は充電時間が長くなります。めやすにしてください。

●上表の間欠撮影可能時間とは、撮影、停止などをくり返したときにテープに記録できる時間です。実際にはこれより短くなることがあります。

3
「100%」点灯で満充電完了

「急速」ランプ点灯で約１時間連続撮影できます。(急速充電対応のバッテリー使用時)

4
バッテリーを外す

お願い / ヒント

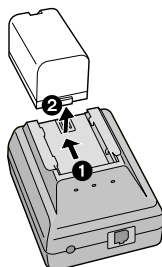
●**DCコードがACアダプターにつながっていると、充電できません。**

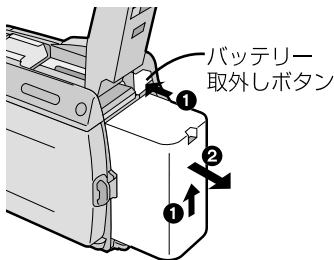
●アクセサリーキットの説明書もよくお読みください。

●ビデオカメラからバッテリーを外すときは、電源スイッチを「切」にしてから外してください。

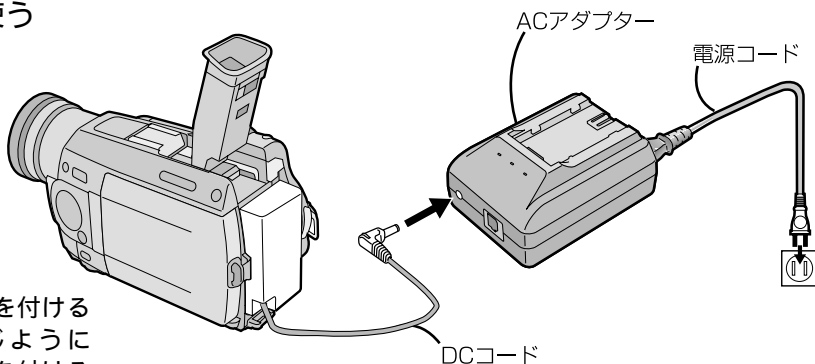
●使用後や充電後はバッテリーが温かくなります。また、使用中はビデオカメラ本体も温かくなりますが、故障ではありません。

●バッテリーの長期保管については、140 ページをご参照ください。

●急速充電対応のバッテリーをAC アダプターに付けると、「急速」ランプが点滅します。

バッテリーの外しかた

バッテリー取外しボタンを押しながら、上にずらして、外す

●バッテリーを落下させないように手で支えておいてください。

充電マーカーの利用

充電マーカーのあるバッテリーの場合、充電済みバッテリーのマーカー(●)が見えるようにしておくと、未充電のバッテリーと区別することができます。

● 電源コンセントにつないで使う

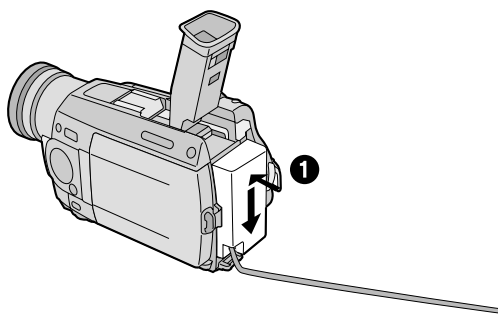
● 車で使う

タイトル

電源コンセントにつないで使う

AC アダプターを使って、電源コンセントにつなぐと、バッテリーの消耗を気にせず使えます。

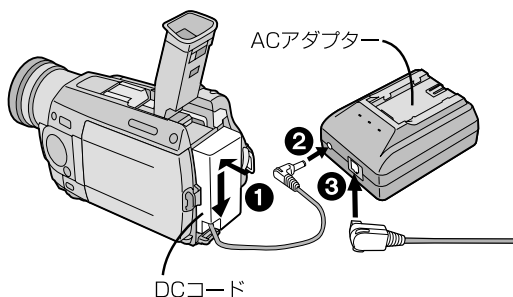
1

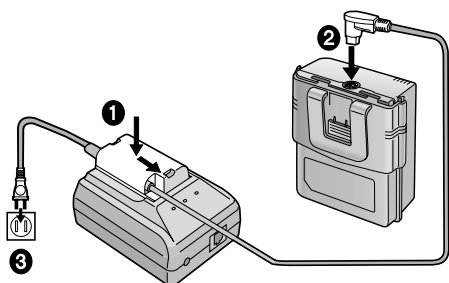
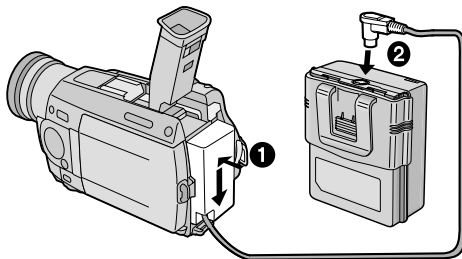
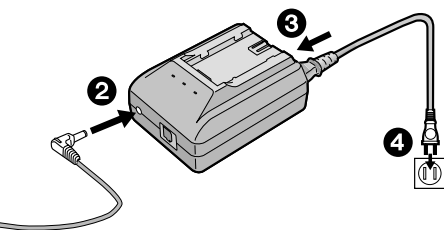
DC コードをつなぐ

タイトル

車で使う

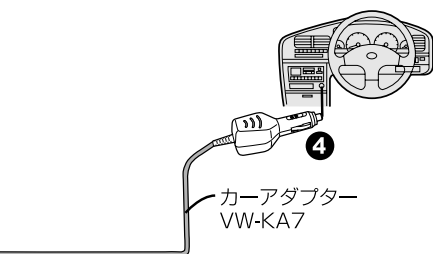
カーアダプター/VW-KA7(別売)を使うと、車のシガレットライターソケットから電源を供給できます。また、バッテリーの充電にも使えます。

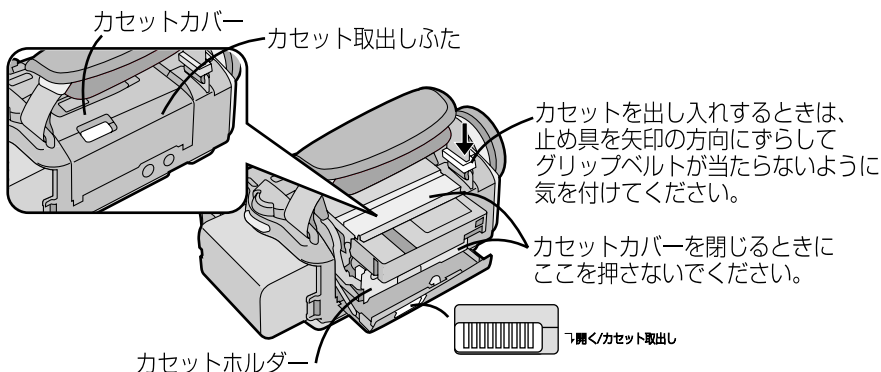
1

車のエンジンをかける

■ウエストホルダー(腰付け)型のバッテリー(VW-VBD5)を使う

別売のバッテリーパック(VW-VBD5)を使うと、1個のバッテリーで長時間撮影することができます。詳しくはバッテリーパックの説明書をお読みください。

2
電源コードをつなぐ

お願い/ヒント

- ACアダプターは、海外でも使うことができます。(P144)
- 電源を外すときは、電源スイッチを「切」にしてから外してください。
- **長時間使用すると、ビデオカメラ本体が温かくなりますが、故障ではありません。**
- アクセサリーキットの説明書もお読みください。

2
コードをつなぐ

お願い/ヒント

- カーアダプター、アクセサリーキットの説明書もお読みください。
- **使用後は、必ずシガレットライターソケットから外してください。**
- **カーアダプター使用時は急速充電できません。**
- エンジンをかける前に接続すると、ヒューズが切れるおそれがあります。
- DCコードはアクセサリーキットに付属のものをお使いください。
- 電源を外すときは、電源スイッチを「切」にしてから外してください。
- **長時間使用すると、ビデオカメラ本体が温かくなりますが、故障ではありません。**

タイトル

カセットを入れる

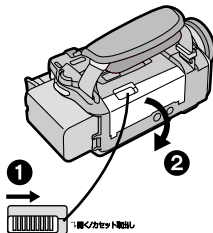
使用できる当社のカセット
(2000 年 6 月現在)

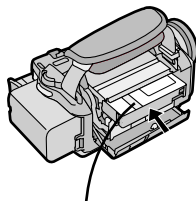
カセット品番	使用できる時間	
	SP	LP
AY-DVM30	30分	45分
AY-DVM60	60分	90分
AY-DVM80	80分	120分

SP ：Standard Play(スタンダードプレイ)(標準)の意味です。
LP ：Long Play(ロングプレイ)(長時間)の意味です。(P42)

●カセットは絶対に高温の場所に置かないでください。テープがいたんで再生時にモザイク状のノイズが出る場合があります。

1

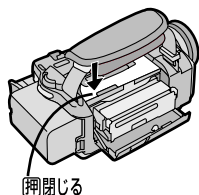
レバーをずらした状態で、「カチッ」と音がするまで水平に開く

2

カセットホルダーが開いてから、カセットを入れる

カセット窓がこの方向になるようにして、奥まで入れる

カセットの取出し

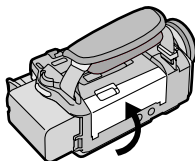
本機に電源が供給されていれば、本機の電源スイッチを入れなくても、カセットの出し入れをすることができます。

カセットをまっすぐに抜き取ります。

3
カセットカバーを押して閉じる

ここを押す

4
カセットホルダーが完全に納まってから、ふたを閉じる

誤消去防止つまみについて

撮影後は、誤って撮影内容を消さないために、カセットの誤消去防止つまみを「SAVE」側(開く)にしておくことをおすすめします。こうしておくと、撮影ができなくなります。「REC」側に戻すと、撮影が可能になります。

お願い / ヒント

カセットを出し入れするときは

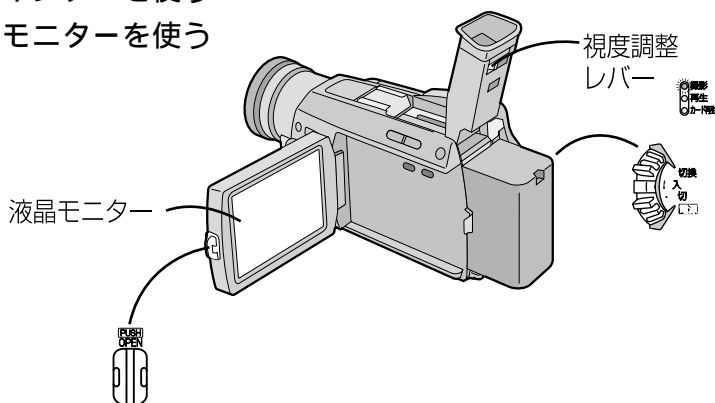
- カセットカバーを閉じるときは、グリップベルトやレンズキャップひもをはさみこまないように気を付けてください。
- グリップベルトが当たって、カセットホルダーが完全に開かないことがありますので、グリップベルトが当たらないように気を付けてください。
- カセットを入れるときは、方向をよく確かめ、最後まで確実に入れてください。
- 使用途中のカセットを入れたときは、カメラサーチ機能(P56)を使って、続けて撮影する部分をさがしておきましょう。特に、一度使用したカセットに重ね撮りする場合、必ず続けて撮影する部分をさがしてから、撮影してください。

カセットホルダーが納まらない場合は、以下の処置を行ってください。

- 「押閉じる」を押してカセットカバーを確実に閉じる
- 電源スイッチを入れ直す
- バッテリーが消耗していないか確認する

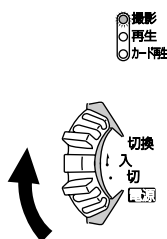
カセットホルダーが出てこない場合は、以下の処置を行ってください。

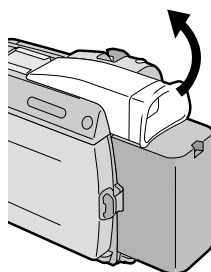
- カセット取出しふたを一度完全に閉じてから、再度開く
- バッテリーが消耗していないか確認する

ファインダーを使う
液晶モニターを使う

タイトル
ファインダーを使う

ファインダーを使う前に、視力に合わせてファインダー内の文字が一番よく見えるようにします。

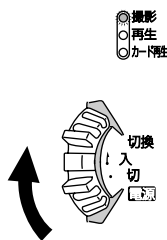
準備
液晶モニターを閉じておいてください。
液晶モニターが開いていると、ファインダーは点灯しません。

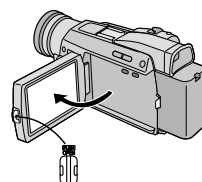
1
「入」にする

中央のボタンを押しながらずらします。

2
上げる

タイトル
液晶モニターを使う

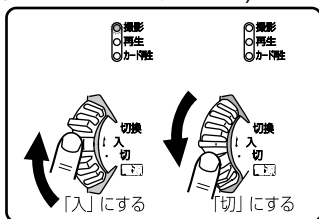
液晶モニターを見ながら撮ることもできます。

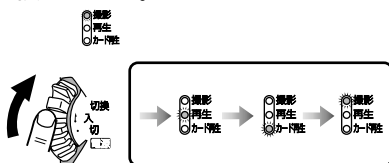
液晶モニターは、精密度の高い技術で作られていますが、液晶モニターの画面上に黒い点が現れたり、常時点灯(赤や青、緑の点)することがあります。これは故障ではありません。
【液晶モニターの画素については99.99%以上の高精度管理をしておりますが、0.01%以下で画素欠けや常時点灯するものがあります】

1
「入」にする

中央のボタンを押しながらずらします。

2
押して、開く

ファインダーが消灯します。

■電源 / 操作モード切換えスイッチの操作方法

中央のボタンを押しながら、「入」にすると、電源が入ります。
(撮影ランプが点灯します)

中央のボタンを押しながら、「切」にすると、電源が切れます

電源を「入」にした後、上にずらして操作モードを切り換えます。
ずらすごとに「再生」→「カード再生」→「撮影」と切り換わります。

●操作モードを切り換えるときは、切り換わったことを操作モード(電源)ランプで確認してから操作してください。

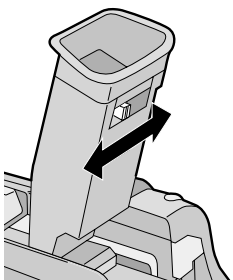
視度を調整する

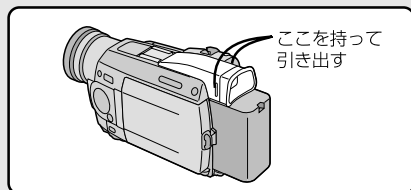
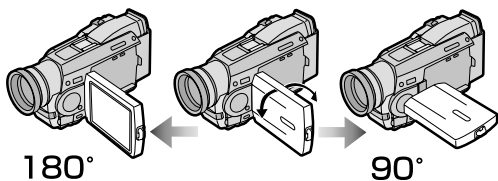
視度調整レバーを動かして調整する

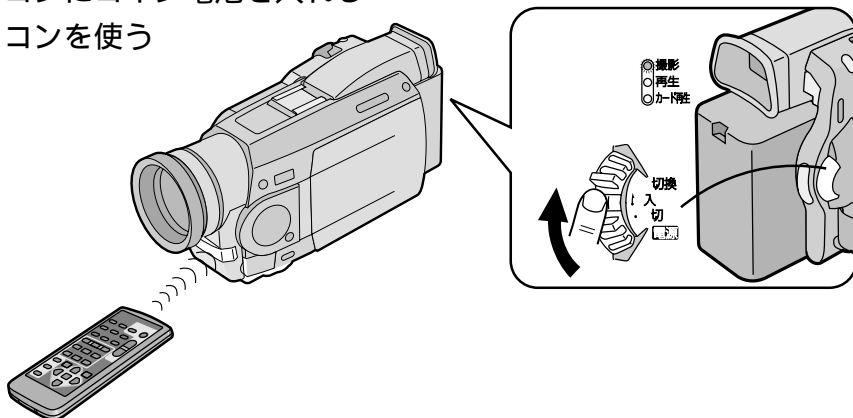
12:30:45
2001.10.15

角度を調整する

撮影する角度によって、液晶モニターの角度を調整する

レンズ方向に180°、手前方向に90°まで回転します。**それ以上に無理な力で回すと、本機の故障につながります。**

お願い / ヒント

●ファインダーを使うときは見やすい位置まで引き出してください。

●液晶モニターを閉じる時は「カチッ」と音がするまで確実に閉じてください。
●メニューでファインダーの明るさ、液晶モニターの色の濃さ、明るさが調整できます。(P132)
●液晶モニターをレンズ方向に180°回して閉じると、再生映像を見るときなどに便利です。

液晶モニターをレンズ方向へ回転させたとき(対面撮影時)は、ファインダーと液晶モニターが同時に点灯します。(P46)

- リモコンにコイン電池を入れる
- リモコンを使う

タイトル

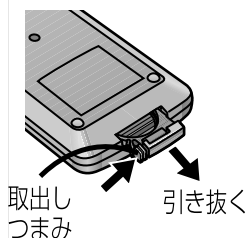
リモコンにコイン電池を入れる

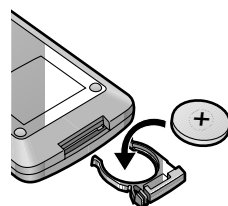
リモコンを操作する前に、付属のコイン電池をリモコンに入れておきます。

1

取出しつまみを矢印の方向に押しながら引き抜く

取出し
つまみ

引き抜く

2

⊕マークを上に向け、電池を入れる

タイトル

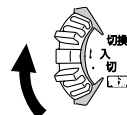
リモコンを使う

1

ビデオカメラに電源をつないでおく(P20 ～23)

2

電源を「入」にする

撮影
再生
カード再生

- 中央のボタンを押しながら、ずらします。
- 撮影ランプが点灯します。点灯後、ずらすごとに操作モードが切り換わります。(P27)

同時に 2 台のビデオカメラを使う場合のリモコンの設定

１台のビデオカメラとリモコンの設定を「VTR1」に、もう１台のビデオカメラとリモコンを「VTR2」に設定すると、２台の間でのリモコンの誤作動を防ぐことができます。(出荷時設定は「ＶＴＲ１」です。またコイン電池を交換すると、設定が「VTR1」になります。)

設定のしかた

リモコン側：　右図参照

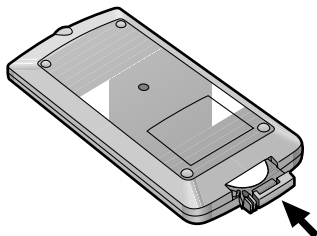
ビデオカメラ側：「ソノタセッテイ」メニューの「リモコン」の項目で設定（P32、129）

●ビデオカメラとリモコンの設定が違うときは、画面に「リモコン」と表示が出ます。電源を入れたあとの最初の操作時のみ「リモコンのセッテイをカクニンしてください」のメッセージが表示されます。（P137)

同時に押す VTR2 用の設定になります。

同時に押す VTR1 用の設定になります。

3

元に戻す

お願い / ヒント

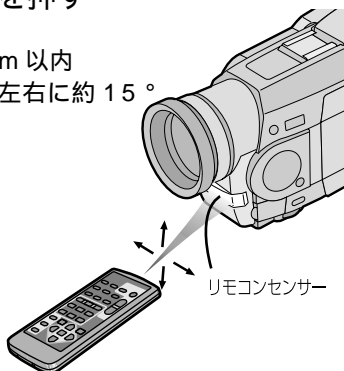
●電池の向きは、よく確認して入れてください。

●コイン電池が消耗した場合は、新しいコイン電池(CR2025)と交換してください。(電池の寿命は使用頻度にもよりますが、約１年です)リモコンを本機のリモコンセンサーの近くで操作しても動作しない場合は、コイン電池が消耗しています。

●**コイン電池は、幼児の手の届かないところに置いてください。**

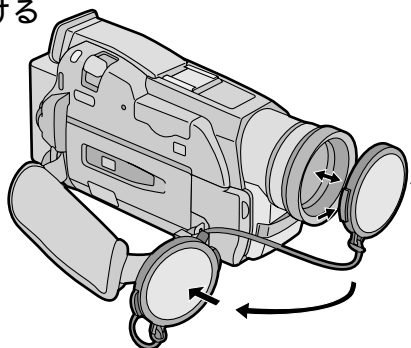
3

リモコンセンサーに向けてリモコンの操作ボタンを押す

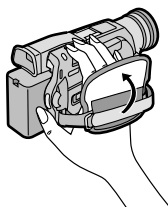
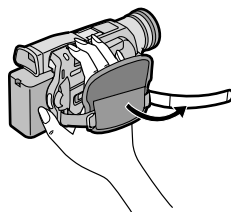
距離：約 5m 以内
角度：上下左右に約 15 °

お願い / ヒント

●リモコンの操作範囲は、室内で使用したときの値です。屋外やリモコンセンサー部に強い光が当たっているときは、この範囲内であっても操作できない場合があります。

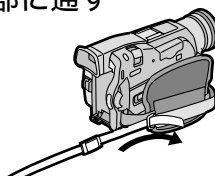
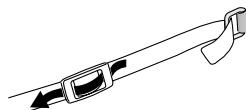
●近距離(約 1m 以内)で操作するときは、センサー横(液晶モニター側)からもリモコン操作ができます。

- グリップベルトを調整する
- ショルダーベルトを付ける
- レンズキャップを付ける

タイトル

グリップベルトを調整する

1 カバーをめくる

2 ベルトをめくる

タイトル

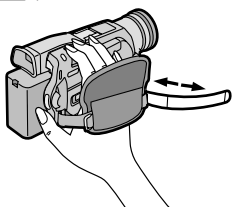
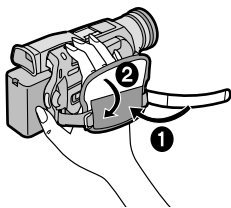
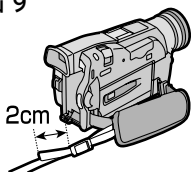
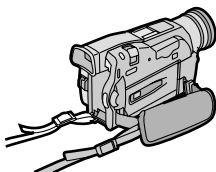
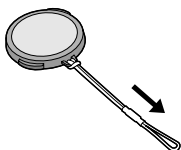
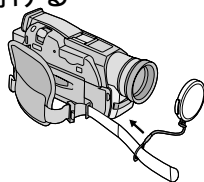
ショルダーベルトを付ける

1 ショルダーベルトの先端を取り付け部に通す

2 ベルトの先端を折り返して止め具の中を通す

タイトル

レンズキャップを付ける

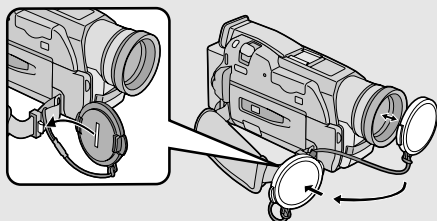
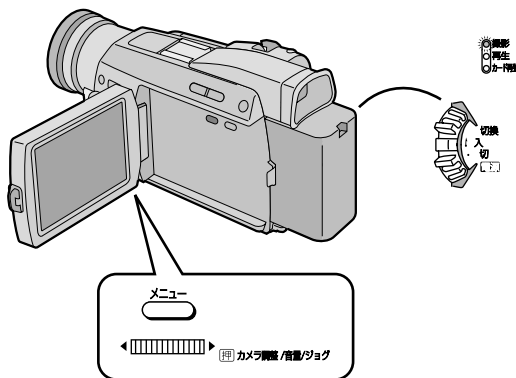
1 レンズキャップひもの先端をレンズキャップに通す

2 ひもの反対側をひもの輪の部分に通す

3
ベルトの長さを調整する

4
元に戻す

3
ベルトが外れないように 2cm 以上出す

4
もう片方も、同じようにして付ける

3
矢印の方向に引っぱる

4
レンズキャップをグリップベルトに付ける

お願い / ヒント

●カセットを出し入れするときは、グリップベルトが当たって、カセットホルダーが完全に開かないことがあります。グリップベルトが当たらないように気をつけてください。

レンズキャップについて

撮影をしないときは、付属のレンズキャップを付けて、レンズ面を保護してください。

レンズキャップはレンズキャップ取付け部に付けておくことができます。

タイトル

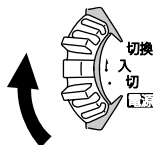
メニュー画面を操作する

メニューで本機の様々な機能を設定することができます。

1

「入」にする

中央のボタンを押しながらずらします。

2

操作したいモードを選ぶ

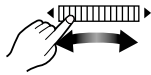
上にずらすごとに、操作モードが切り換わります。(P27)

5

押して、項目を表示させる

6

回して選び、押して設定する

(右記参照)

リモコンを使う場合

メニュー操作ができます。項目を選ぶときは、項目ボタン、設定するときは設定ボタンを使います。

3

押して、メニューを表示させる

メ ニ ュ ー

1 カメラキノウ
2 デジタルセッテイ
3 メモリキロク
4 マルチ&コガメン
5 キロクセッテイ
6 ヒョウジセッテイ
7 ソノタセッテイ
8 デモモード

おわる時はメニューボタン

4

回して、任意の項目を選ぶ

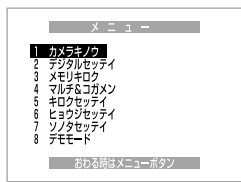
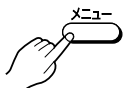
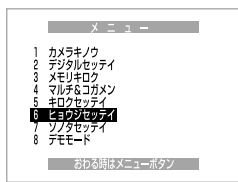
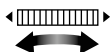
前のメニューに戻る

回して「まえのメニューに戻る」を選び、押す

メニューを終了する

押す

メニュー

メニュー画面が消えます。

お願い/ヒント

- 手順 6 の後にメニューボタンを押してメニュー画面を終了することができます。(手順 6 の設定は有効です)
- メニュー画面の各項目の説明については、「メニュー画面の表示」をご参照ください。(P127～131)
- 撮影中、録画中にメニューは表示されません。
- メニュー表示中は撮影操作、再生、カード再生操作はできません。
- 使えない項目は濃い青色で表示されます。

メニュー画面の動きかた(手順 6)

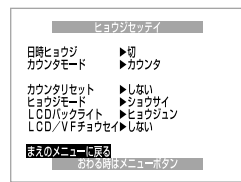
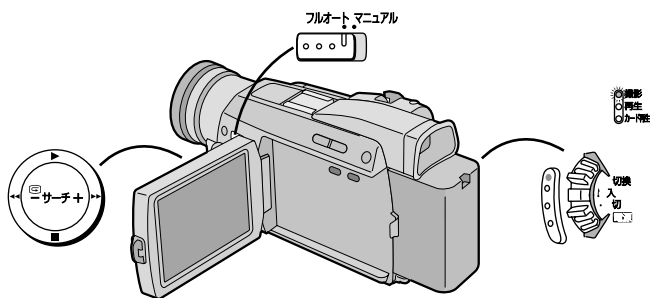
❶ **設定項目の移動**

回すと、下画面の①の矢印の順に項目が移動します。項目を移動すると、設定内容が表示されます。

❷ **設定**

押すごとに下画面の②の矢印の順に▶が移動します。

使う前に

メニュー画面を操作する

レンズキャップをして電源を入れると、オートホワイトバランス(P148)がうまく合わないことがあります。レンズキャップを外してから電源を入れてください。

タイトル

撮る

(撮影)

フルオート･マニュアル切換えスイッチを「フルオート」にすると、自動でピントや色合いを合わせて撮ることができます。

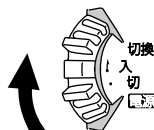
光源や撮る場面によっては、ピントや色合いが自動で合わない場合があります。そのようなときには、手動で調整する必要があります。
(ピント：P60、147)
(色合い：P62、147)

撮る前に

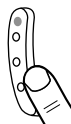
大切な撮影をする前には、以下の設定を確認してください。

- **SP /LP モードの設定**(P42 、149)
  後で編集、アフレコなどをする場合：「SP」
- **音声記録モードの設定**(P112)
  アフレコする場合：「12bit 」
- **シネマモードの設定**(P42)

1 「入」にする

中央のボタンを押しながらずらします。

撮影ランプが点灯します。

2 押す

撮影が始まります。

基本的な構えかた

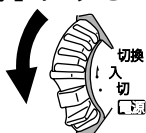
- グリップベルトに手を通す
- 両手で持つ
- 足を少し開く
- わきをしめる
- マイク部や白バランスセンサーに指で触れないようにする

リモコンを使う場合

撮影開始／一時停止操作、撮影チェックができます。

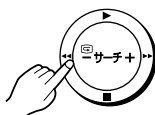
3

撮影を一時停止するには：
もう一度押す

撮影をやめるには：
「切」にする

中央のボタンを押しながらずらします。

撮影をチェックする

撮影の一時停止中にポンと押す

撮影した最後の部分を約２、３ 秒間再生します。

チェック後は撮影の一時停止に戻ります。

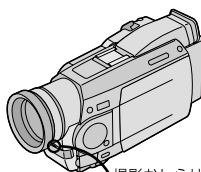
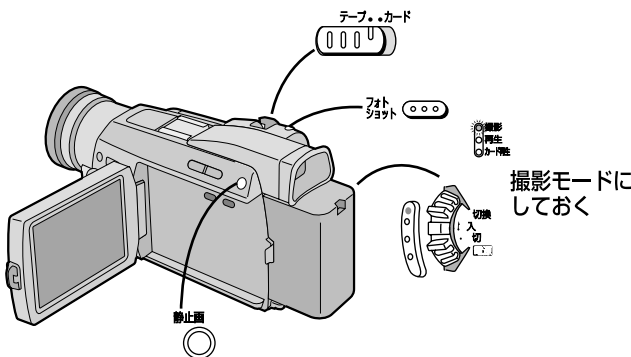
お願い / ヒント

- **撮影の一時停止状態が５分以上続くと、テープ保護とバッテリーの消耗を防ぐため、自動的に電源が切れます。再び撮るときは、電源スイッチを「切」にしてから再度、「入」にしてください。**
- 撮影中にテープフォトショット(P36)をすると、テープは停止します。
- 撮影チェックをするときには、撮影したモード(ＳＰ またはＬＰ)と同じモードでチェックしてください。モードが異なっているとチェック画面が乱れる場合があります。
- 「ソノタセッテイ」メニューの「おしらせブザー」を「切」にすると、おしらせブザーは鳴らなくなります。(P129)
- テープ/カード選択スイッチが「カード」側になっていると、テープへの撮影はできません。(P92)

撮影おしらせランプについて

撮影中に点灯します。
「ソノタセッテイ」メニューの「サツエイランプ」を「切」にすると、点灯しなくなります。(P129)
リモコン受信時は点滅します。

静止画を撮る
(テープフォトショット / 連写フォトショット / デジタル静止画)

撮影モードにしておく

タイトル

静止画を撮る

(テープフォトショット/連写フォトショット / デジタル静止画)

フォトショット機能やデジタル静止画機能を使って静止画を撮ることができます。
プログレッシブ機能を使うと、より高画質な静止画を撮ることができます。(P38)

●カードに静止画を撮ることもできます。(カードフォトショット)(P92)

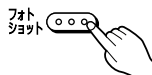
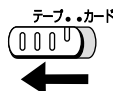
テープフォトショットについて

●フォトショット画像はフォトサーチ(P58、84)、自動プリント(P120)、画像伝送(P100)できます。ただし、連写フォトショットの画像はインデックス信号が記録されないので、フォトサーチ、自動プリント、画像伝送はできません。
●連写フォトショット時は、ボタンから指をはなしても1コマ多く撮れることがあります。
●ビデオフラッシュを使うと、連写フォトショットはできません。
●「カメラキノウ」メニューの「プログレッシブ」が「入」、「オート」の場合、連写フォトショットは使えません。

カードフォトショットについて(P92)

●カードフォトショット時は、「シャッターコウカ」は働きません。

テープフォトショット

❶「テープ」にする

❷ ポンと押す

約7秒間静止画を撮影して、撮影の一時停止になります。

デジタル静止画

❶ ポンと押す

静止画になります。

もう1回押すと元に戻ります

リモコンを使う場合

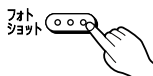
フォトショット操作ができます。

「ソノタセッテイ」メニューの「シャッターコウカ」を「入」にするとシャッター映像とシャッター音が記録されます。(P32)

❷ 撮る、またはフォトショットする

または

連続フォトショット

「シャッターコウカ」を「入」にして押し続ける

約0.7秒間隔で、連写フォトショットします。

赤目軽減機能

ビデオフラッシュ使用時に「ソノタセッテイ」メニューの「赤目ケイゲン」を「入」に設定すると、フラッシュ発光時に人物の目が赤く撮影されるのを軽減します。

●「赤目ケイゲン」を「入」に設定していると、「👁」が表示されます。

お願い / ヒント

ビデオフラッシュについて

ビデオフラッシュ VW-FLHDJ3(別売)をホットシューに付けると(P143)、暗い場所でのフォトショット撮影に便利です。
ビデオフラッシュは、光量を自動調整し発光します。電源は本機から供給します。

ビデオフラッシュ

●「ϟ」が点滅中は、ビデオフラッシュの充電中です。点灯するとフラッシュが発光できます。
●フラッシュの使用可能範囲(めやす)は暗い部屋で約1m～4mです。4m以上では暗く写ります。
●ビデオフラッシュの電源スイッチを「自動」にして、本機の電子シャッター、絞り / ゲインを調整すると「ϟ」が消え、フラッシュが発光しない場合があります。
●ビデオフラッシュ使用時は電子シャッター、絞り/ゲイン、白バランスは固定値になります。
●屋外や逆光などの明るいところでフラッシュを使用すると映像が白とび(色とび)する場合があります。
●逆光では、マニュアルで絞りを調整するか、逆光補正機能をお使いください。
●暗いところではピントが合わない場合がありますので、マニュアルでピント(フォーカス)を合わせてください。(P60)
●ビデオフラッシュの説明書もよくお読みください。

デジタル静止画について

●デジタル静止画の通常撮影ではフォトインデックス信号は記録されません。
●画面を静止画にしているときは、マルチ画面モード(P74、76)にはなりません。
●撮りたいところで、静止画ボタンを押して静止画にしてから、フォトショットボタンを押すことをおすすめします。
●テープ/カード選択スイッチを切りかえると、デジタル静止画は消去されます。
●ビデオフラッシュ装着時にデジタル静止画にすると、フラッシュが発光します。

タイトル

より高画質な静止画を撮る

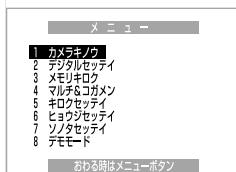
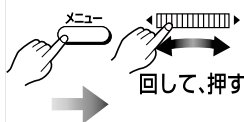
(プログレッシブ機能)

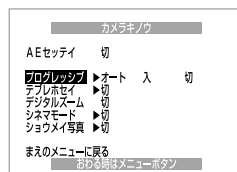
プログレッシブ機能を使うと、フォトショットやデジタル静止画をより高画質なフレーム静止画で撮ることができます。(P150)

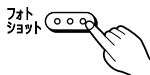
撮った静止画をプリントする場合は、プログレッシブ機能をお使いいただくことをおすすめします。

なお、メガピクセル設定時は「プログレッシブ」は「入」になります。

1

メニューで「カメラキノウ」を選ぶ(P32)

2

「プログレッシブ」を「オート」または「入」に設定する

プログレッシブフォトショット

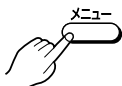
「プログレッシブ」を「オート」または「入」に設定してポンと押す

約7秒間静止画を撮影して、撮影の一時停止になります。

●**「プログレッシブ」が「オート」または「入」に設定されていると、連写フォトショットはできません。**

3

押す

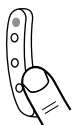
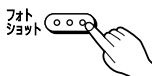
メニュー画面が消えます。

P マークが表示されます。(プログレッシブ機能が使えるときにP マークが表示されます)

プログレッシブ静止画

「プログレッシブ」を「オート」または「入」に設定して

❶ 押す

静止画になります。

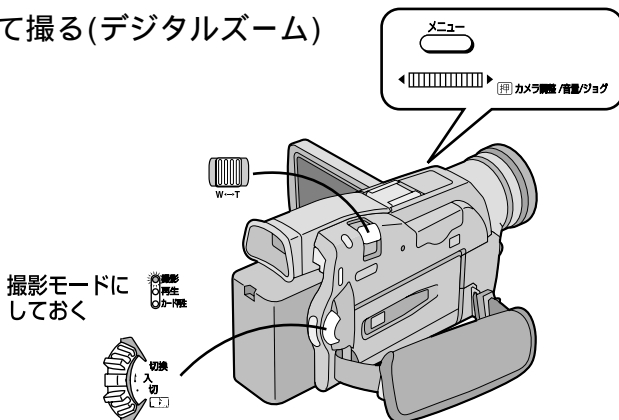
❷ 撮る

または

お願い / ヒント

●静止画になるときに、本機から「カチッ」音がしますが、故障ではありません。「カチッ」音が記録されないように、撮影の一時停止中にフォトショットボタンまたは静止画ボタンを押してください。(P150)

●スポーツモード、ポートレートモード時(P66)に映像の明るさが変わることがあります。

「プログレッシブ」を「入」にすると：
プログレッシブ機能が常に使えます。
ただし、以下の機能が使えなくなります。
●「デジタルキノウ」(P68～77)
●「デジタルズーム」(P40)
●電子シャッターの 1/750 以上(P64)

「プログレッシブ」を「オート」にすると：
以下のときにプログレッシブ機能が使えなくなります。(P マークが消えます。)
●ズーム倍率が約 10 倍以上のとき
●電子シャッターが 1/750 以上のとき
●「マルチ」、「コガメン」以外の「デジタルキノウ」設定時
●子画面が出ているとき
●マルチ画面が出ているとき

大きくまたは広く(広角に)撮る(ズームイン／アウト)
さらに拡大して撮る(デジタルズーム)

タイトル

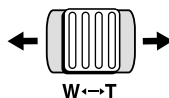
大きくまたは広く(広角に)撮る

(ズームイン／アウト)

遠くの人や物を大きく撮ったり、景色などを広角に撮ることができます。

1

広く撮るには(ズームアウト):W側へ押す

大きく撮るには(ズームイン):T側へ押す

●数秒間、倍率表示が出ます。

タイトル

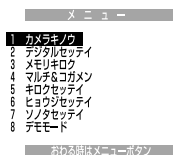
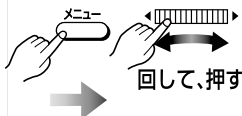
さらに拡大して撮る

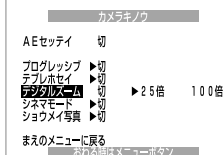
(デジタルズーム)

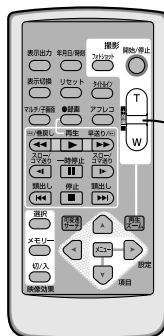
デジタル機能を使って、光学ズーム領域(10倍まで)よりさらに大きく拡大することができます。

最大100倍のズームインが可能になります。

1

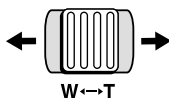
メニューで「カメラキノウ」を選ぶ(P32)

2

「デジタルズーム」を「25倍」または「100倍」に設定する

リモコンを使う場合

ズーム操作ができます。

ズームボタン

●押すことをやめても少しズームが動きます。

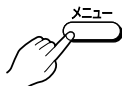
可変速ズーム機能

撮影の一時停止中に、ズームレバーを最後まで押し込むと、最速約 0.3 秒で、1～10 倍までズームできます。

●撮影中は最速約0.8秒で、1～10倍までズームになります。
●ズームレバーを動かす幅によって、ズーム速度が変わります。

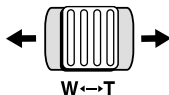
お願い / ヒント

●ズーム速度が速いと、ピントが合わないことがあります。
●T 側にして大きくしているときは、約 1.2m 以上でピントが合います。
●本機を手に持って拡大して撮るときは、手ぶれ補正機能を「入」にして使うことをおすすめします。(P44)
●ズーム倍率 1 倍では、レンズから約 35mm まで近づいて撮ることができます。(マクロ機能)

3

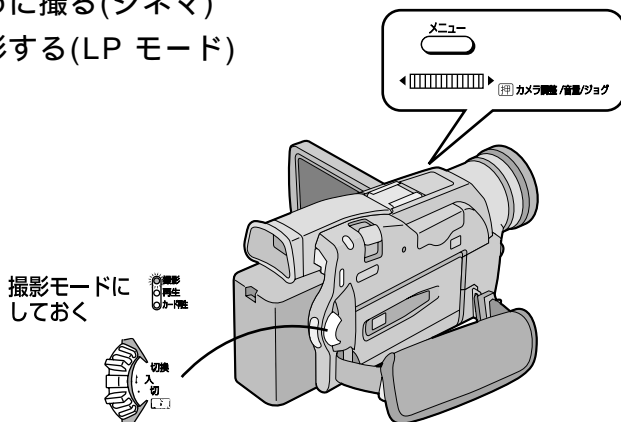
押す

メニュー画面が消えます。

4

ズーム操作する

ズーム倍率が 10 倍より大きいとき、デジタルズームになります。

お願い / ヒント

●設定時は「ズーム」表示が出ます。
●デジタルズームは、拡大するほど画質が悪くなります。
●デジタルズームを解除するには、手順2でメニューの「デジタルズーム」を「切」にしてください。
●プログレッシブ機能が「入」のときやメガピクセル設定時は、デジタルズームは使えません。(P38)
●プログレッシブ機能が「オート」時に、ズームを約 10 倍以上にすると、プログレッシブ機能は解除されます。
●ズームが 10 倍より大きいときは、白バランス(P62)の選択はできなくなります。

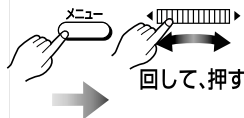
映画のように撮る(シネマ)
長時間撮影する(LP モード)

タイトル

映画のように撮る

(シネマ)

S2 映像端子のついたワイドテレビに対応した映像を撮ることができます。

1

メニューで「カメラキノウ」を選ぶ(P32)

2

「シネマモード」を「入」に設定する

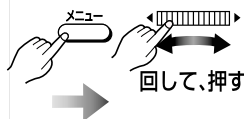
タイトル

長時間撮影する

(LP モード)

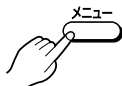
「LP」モードに設定すると、「SP」モードの1.5倍長く記録することができます。

1

メニューで「キロクセッテイ」を選ぶ(P32)

2

「キロクモード」を「LP 」に設定する

3

押す

メニュー画面が消えます。

画面の上下に黒い帯のある映像になります。

3

押す

メニュー画面が消えます。

お願い / ヒント

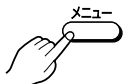
シネマについて

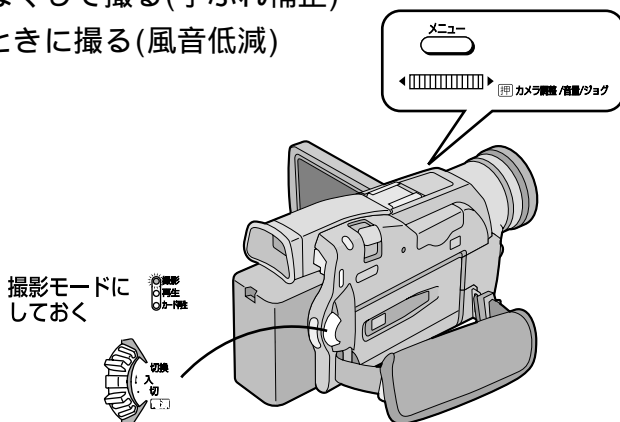
●メガピクセル設定時やマルチ画面表示中は、シネマモードの設定はできません。
●「シネマ」で撮ったテープの再生映像は、接続するテレビによって異なります。54ページをご参照ください。
●撮れる範囲が広がるわけではありません。
●タイトルを入れると(P102)、S2映像対応の信号が出力されなくなります。
●テレビに画像を映すと、日付表示が欠けることがあります。
●パソコンにシネマ画像を取り込むとき、ソフトウェアによっては簡易取り込み画像が正しく表示されない場合があります。

LPモードについて

●本機の性能を十分に生かすためにパッケージに「LPモード」表示のある当社製のカセットテープをおすすめします。
●アフレコ(P112)はできません。

LPモードで撮っても画質は劣化しませんが、以下の場合に、モザイク状のノイズなどが出たり機能が制限されることがあります。

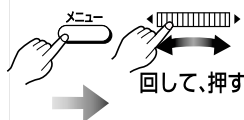
・他のデジタルビデオ機器で再生
・他のデジタルビデオ機器でLP録画したテープを本機で再生
・LPモードがないデジタルビデオ機器で再生
・スロー／コマ送り再生時(P52)
・カメラサーチ(戻し)時(P56)

ぶれを少なくして撮る(手ぶれ補正)
風の強いときに撮る(風音低減)

撮影モードにしておく

タイトル

ぶれを少なくして撮る

(手ぶれ補正)

手ぶれが起きやすい場面に使うと手ぶれが少なくなります。

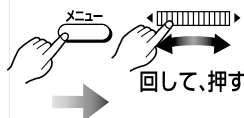
1 メニューで「カメラキノウ」を選ぶ(P32)

2 「テブレホセイ」を「入」に設定する

タイトル

風の強いときに撮る

(風音低減)

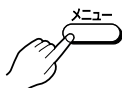
マイクに当たる風の音を低減します。

1 メニューで「キロクセッテイ」を選ぶ(P32)

2 「風音低減」を「入」に設定する

ぶれを少なくして撮る

撮る　見る

3

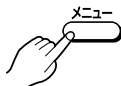
押す

メニュー画面が消えます。

お願い／ヒント

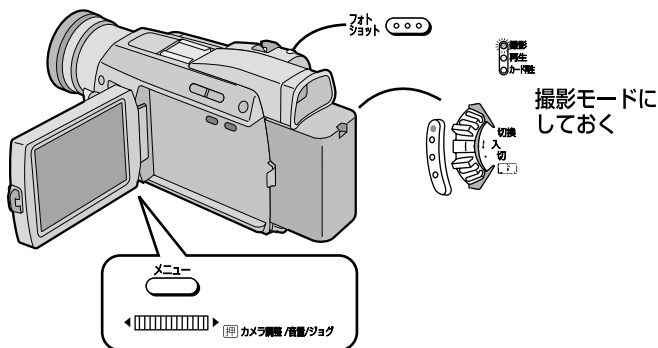
●ぶれが大きい場合、補正できないことがあります。
●三脚使用時は、「テブレホセイ」を「切」にすることをおすすめします。
●蛍光灯の下では、映像が明るくなったり、暗くなったりします。また、色も変化することがあります。
●「デジタルセッテイ」メニューの「デジタルキノウ」を「コウカンド」にしているときは手ぶれ補正は働きません。(「((✋))」が点滅します)
●メガピクセル設定時は、手ぶれ補正は使えません。

風の強いときに撮る

3

押す

メニュー画面が消えます。

お願い／ヒント

●風がマイクに当たる「ボツボツ」といった音を電気的に低減するため、同じような音域(低音部)の音質が少し悪くなります。

タイトル

自分を撮る

(対面撮影)

液晶モニターを見ながら自分自身を撮るときに使います。また相手にも撮影内容を見せながら撮るときに使うと便利です。

1

液晶モニターを開き、手前(レンズ側)に回転させる

回転させると、液晶モニターの映像が上下反転し、手前から見ても違和感なく映ります。

タイトル

証明写真サイズで撮る

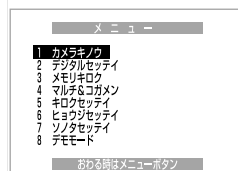
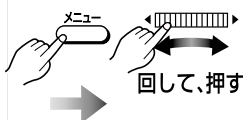
(証明写真機能)

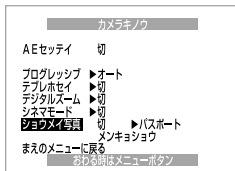
日本国内の免許証申請やパスポート申請用に証明写真サイズの枠を付けて撮れます。当社製のビデオプリンターでプリントし、枠にそって切ってお使いください。

各証明写真の枠は、めやすとして大きめにしておりますので、以下のサイズに合わせてお使いください。

●免許証　　：縦30x横24mm
●パスポート：縦45x横35mm

1

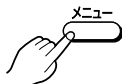
メニューで「カメラキノウ」を選ぶ(P32)

2

「ショウメイ写真」を希望の設定にする

ファインダーにも映像が映ります。

液晶モニターを開くと、ファインダーは消灯しますが、液晶モニターをレンズ側に回転させると、ファインダーにも映像が映ります。
ファインダーを見ながら撮影し、レンズ方向からも撮影内容を確認することができます。

お願い / ヒント

● 「ソノタセッテイ」メニューの「タイメンモード」を「ミラー」に設定すると、液晶モニターに映る画像が左右反転して、鏡を見ているような映像になります。
● 「ミラー」に設定していると、警告表示は「◦　」と表示されます。この場合は、液晶モニターを元に戻して、警告表示内容を確認してください。(P136)
● 「ソノタセッテイ」メニューの「タイメンモード」を「ノーマル」に設定すると、記録される映像と同じものが液晶モニターに映ります。モニターに映った文字を読むことができます。

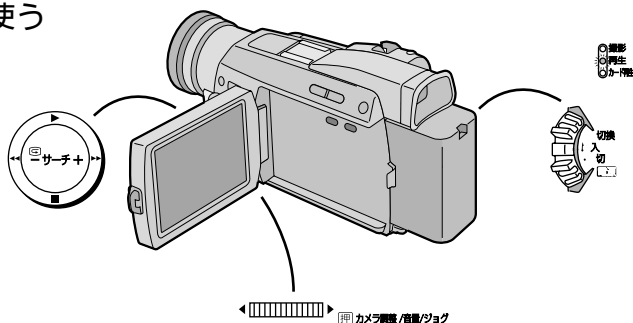
3
押す

メニュー画面が消えます。

4
撮る、またはフォトショットする

枠付きの画像が撮れます。

お願い / ヒント

●プログレッシブ機能を使うと、より高画質に撮ることができます。(P38)
●証明写真は枠内の顔の位置、背景など撮影条件が決まっています。またプリントする材質など、制約を受けることがありますので、提出先などに確認してご使用ください。
●プリンターなどによって、プリントされた枠が証明写真サイズと異なることがあります。
●証明写真機能を使うときは、枠と日時表示が重なるので、日時表示を消してお使いください。(P49)
●メガピクセル設定時は、証明写真機能は使えません。

その場で見る(再生)
音量を調整する
ヘッドホンを使う

タイトル

その場で見る

(再生)

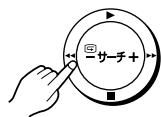
撮った映像をその場で再生することができます。

1

再生ランプを点灯させる(P27)

再生モードになります。

2

押して、テープを巻き戻す

撮影を始めた部分まで巻き戻します。

タイトル

音量を調整する

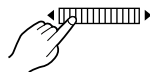
再生するときのスピーカー音量を調整します。(ヘッドホン端子に接続している場合はヘッドホンの音量を調整します)

1

再生ランプを点灯させる(P27)

再生モードになります。

2

「音量」表示が出るまで押す

タイトル

ヘッドホンを使う

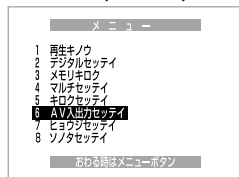
ヘッドホンで音声を聞くことができます。
ヘッドホンを使うためには、再生モードでの設定が必要です。

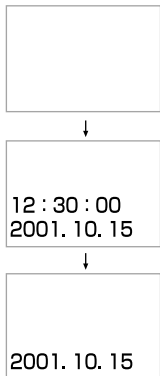
1

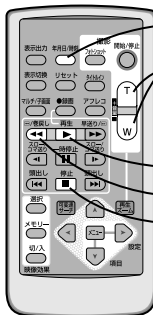
再生ランプを点灯させる(P27)

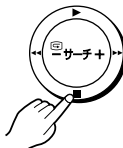
再生モードになります。

2

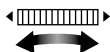
メニューで「AV入出力セッテイ」を選ぶ(P32)

年月日、時刻を表示させるには

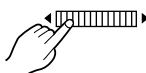
年月日、時刻は、撮影すると自動的にデータとして記録されます。表示させる場合は、「ヒョウジセッテイ」メニューの「日時ヒョウジ」で設定します。(P32)または、リモコンの年月日 / 時刻ボタンを押します。押すごとに表示が変わります。

リモコンを使う場合

再生、巻戻し、停止、音量調整、年月日／時刻表示操作ができます。

3
押して、再生する

再生をやめるには
押す

お願い / ヒント

- ●テープの始端まで巻き戻すと、自動的に停止します。
- ●再生(▶)ボタンを 5 秒以上押し続けると、リピート再生(自動巻戻し再生)になり、「R ▷」が出ます。(解除するには、電源を「切」にします)
- ●リピート再生中は可変速サーチ(P50)はできません。

3
回して、調整する

「I」バーが増えるほど、音量が大きくなります。

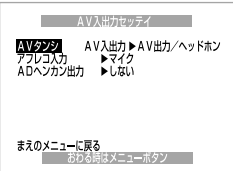
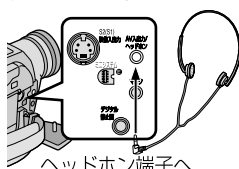
表示を消すには
もう一度押す

音量表示が消えます。

お願い / ヒント

リモコンで音量調整するには：

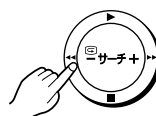
❶ 音量ボタンの「T」を押すと音が大きくなり、「W」を押すと小さくなります。

❷ 音量表示は調整が終わると、数秒後に消えます。

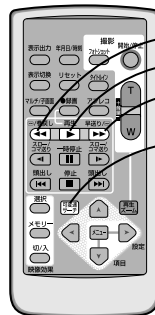
3
「AV タンシ」を「AV出力/ヘッドホン」にする

4
ヘッドホン端子にヘッドホンのプラグを差し込む

ヘッドホン端子へ

お願い / ヒント

- ●「AV 入出力セッテイ」メニューの「AV タンシ」を「AV 入出力」に設定していると、右音声が聞こえなくなります。ヘッドホンを使うときは必ず「AV出力/ヘッドホン」に設定してください。
- ●音楽データ再生時は、この設定に関係なくヘッドホンが使えます。

タイトル	早送り再生	巻戻し再生
見たいところをさがす **(早送り再生／巻戻し再生／可変速サーチ)** **■早送りしてさがす(早送り再生)** **■巻き戻してさがす(巻戻し再生)**	**再生中に押し続ける** 	**再生中に押し続ける**

タイトル	1	2
■再生速度を変えてさがす **(可変速サーチ)** 速度を変えて、再生、逆再生します。	**押す** 再生します。	**もう一度押す**

リモコンを使う場合

再生、早送り(再生)、巻戻し(再生)、可変速サーチ操作ができます。

巻戻しボタン
再生ボタン
早送りボタン
可変速サーチボタン
●リモコンでサーチ速度を変えるときは、方向(▲▼)ボタンをお使いください。

サーチロック機能について

再生中に早送り(▶▶)ボタンまたは巻戻し(◀◀)ボタンをポンと押すと、ボタンから指を離しても、早送り再生、巻戻し再生を続けます。

●再生に戻すには、再生(▶)ボタンを押します。

●早送り再生、巻戻し再生をすると、動きのある場面では、画面が左図のようにモザイク状になります。

お願い / ヒント

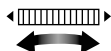
ハイパーチェック機能について

●早送り中に、早送り(▶▶)ボタンを押し続けると、押している間早送り再生になります。

●巻戻し中に、巻戻し(◀◀)ボタンを押し続けると、押している間巻戻し再生になります。

●早送り再生や巻戻し再生などの操作の前後に、画面が一瞬青くなったり、画像が乱れることがあります。

3

回して、速度を変える

お願い / ヒント

通常の再生に戻すには：

再生(▶)ボタンをもう一度押す

●可変速サーチ中、音声は出ません。

●可変速サーチの種類は、早送り再生、巻戻し再生とも 1/5 倍速(SP モード時のみ)、1/3 倍速(LP モード時のみ)、1 倍速、2 倍速、5 倍速、10 倍速、20 倍速があります。

● 1/3 倍速、1/5 倍速はスロー再生、逆スロー再生となります。

●可変速サーチ中、画面がモザイク状になる場合があります。

●再生ズーム(P88)中は、リモコンで可変速サーチ速度を変更できません。

スローモーションで再生する(スロー再生)
静止画の再生と 1 コマごとの再生をする (静止画再生 / コマ送り再生 / ジョグ再生)

この機能を使うには、リモコンが必要です。

タイトル

スローモーションで再生する

(スロー再生)

SP モードで記録した場合、約1/5の速度で再生します。
LP モードで記録した場合、約1/3の速度で再生します。

1

再生する

2

押す

◀▮を押すと逆スロー再生に、▮▶ を押すとスロー再生になります。

タイトル

静止画の再生と 1 コマごとの再生をする

(静止画再生 / コマ送り再生 / ジョグ再生)

静止画状態の再生ができます。また、静止画を 1 コマごとに再生することができます。

1

再生する

2

押す

静止画再生になります。

3

押す

通常の再生に戻ります。

お願い / ヒント

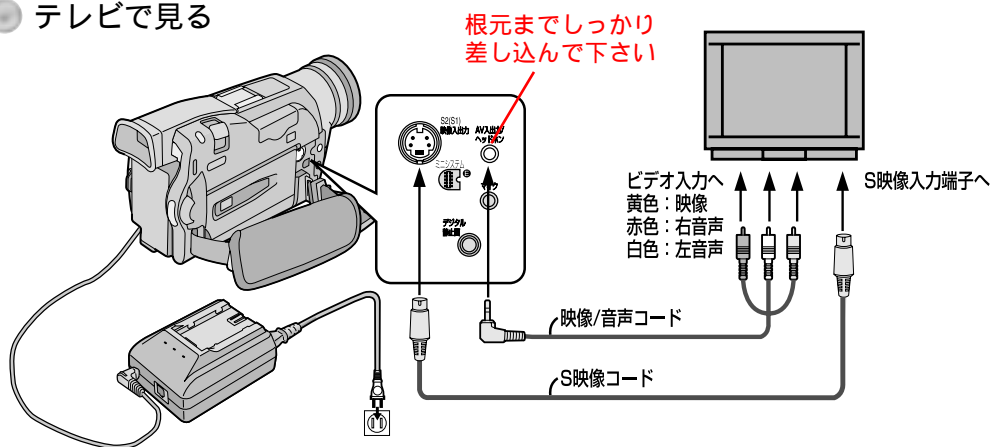
●逆スロー再生時にタイムコード表示が一定にならない場合があります。
●子画面静止画(P72)やマルチモード(P74、76)で撮影した画像をスロー再生すると、画面が縦揺れすることがあります。

3

押す、または回す

◀❙を押すごとに1コマ戻り、❙▶を押すごとに、1コマ進みます。(コマ送り再生)
ジョグダイヤルを回して、1コマずつ進めたり、戻すことができます。(ジョグ再生)

お願い / ヒント

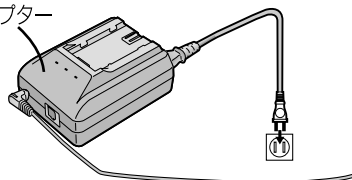
元に戻すには：
再生(▶)ボタンをもう一度押す
●静止画再生中にスロー/コマ送りボタン(◀❙、❙▶)を押し続けると、連続コマ送り再生になります。

タイトル

テレビで見る

付属の映像/音声コード(ミニジャック対応)を接続するだけで、テレビで再生映像を見ることができます。
テレビにS映像端子がある場合は、S映像コードも接続してください。より鮮明な画像で見ることができます。(上図参照)

● S映像コードと映像/音声コードを両方接続している場合、S映像が優先して出力されます。

付属の映像/音声コードを使って見る

付属の映像/音声コード(ミニジャック対応)を本体に直接接続する(右図)

接続するテレビと画像との関係

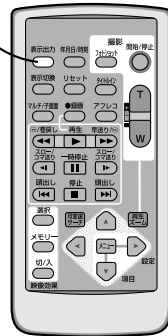
S映像コードを使う場合、接続する端子の種類によって再生映像が右図のようになります。接続するテレビの設定によって変わりますので、詳しくはテレビの説明書をお読みください。

テレビ画面に機能表示などを表示させる場合は：
リモコンの表示出力ボタンを押す

液晶モニターまたはファインダーに表示されている情報(カウンターやモード表示など)がテレビ画面に表示されます。

ビデオカメラの画面 / S端子対応(ノーマル)テレビで再生 / S1端子対応ワイドテレビで再生 / S1/S2端子対応ワイドテレビで再生

ノーマル

シネマ

お願い/ヒント

音声をステレオで聞くには

「再生キノウ」メニューの「音声キリカエ」の設定によって、再生する音声を切り換えることができます。

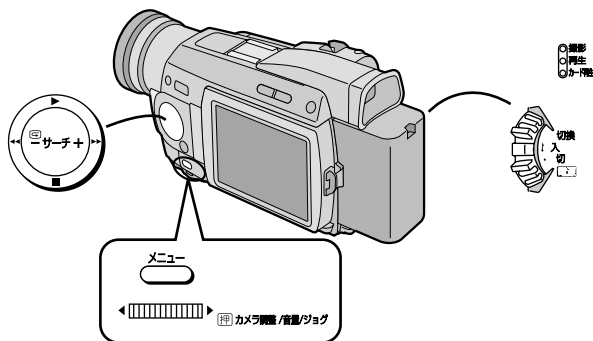
ステレオ　：ステレオ音声(主音声と副音声)(通常はステレオにしておく)

L　：左チャンネルの音声(主音声)

R　：右チャンネルの音声(副音声)

「12bit」で撮影、アフレコ(P112)した場合、「12bit 音声」を「ミックス」にすると、「音声キリカエ」の設定に関係なく、再生する音声はステレオになります。

- 「シネマ」の映像をワイドテレビで再生するときに、機能表示などを表示させたり、映像効果の「ネガポジ」、「セピア」を入れていると、テレビが誤動作する(表示サイズが変わる)ことがあります。
- 電源を「切」にしてから、接続してください。
- ACアダプターを使うと、バッテリーの消耗を気にせず使えます。(P22)
- 「AV入出力セッテイ」メニューの「AVタンシ」を「AV入出力」に設定していると、テープ再生時以外、テレビ画面には何も映りません。

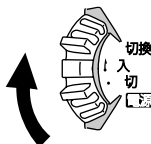
撮影の一時停止中に撮った場面を見る(カメラサーチ)
撮った最後の部分をさがす(ブランクサーチ)

タイトル

撮影の一時停止中に撮った場面を見る

(カメラサーチ)

撮影の一時停止中に、今まで撮影した場面を見る(さがす)ことができます。
任意の場面をさがし出し、そこから続けて撮影(つなぎ撮り)するときに便利です。

1

撮影ランプを点灯させる(P27)

撮影モードになります。

正方向にカメラサーチ

撮影の一時停止中に１秒以上押し続ける

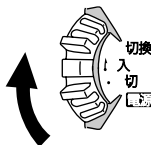
タイトル

撮った最後の部分をさがす

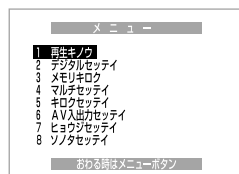
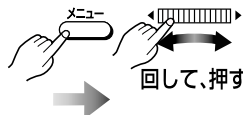
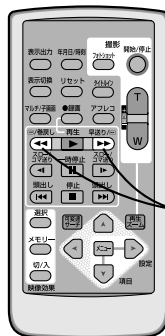
(ブランクサーチ)

撮影した場面の最後の部分(テープの未使用部分)を見つけるときは、ブランクサーチ機能を使うと便利です。

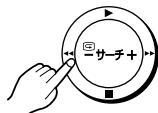
1

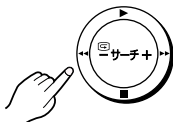
再生ランプを点灯させる(P27)

再生モードになります。

2

メニューで「再生キノウ」を選ぶ(P32)

リモコンを使う場合

カメラサーチの操作ができます。

逆方向にカメラサーチ

撮影の一時停止中に１秒以上押し続ける

元に戻すには

ボタンから指を離す

撮影の一時停止に戻ります。

お願い / ヒント

- ●カメラサーチ中の画面はモザイク状になる場合がありますが、これは、デジタルビデオ特有の現象です。故障ではありません。
- ●記録モード(SP/LP)の設定が、テープに記録されている設定と異なっていると、画像が乱れることがあります。

3

「ブランクサーチ」を「する」に設定する

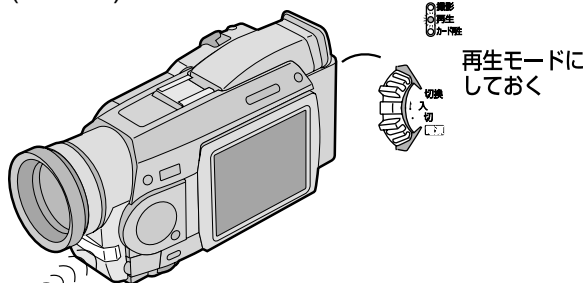
回して、押す

最後のシーンの約１秒手前で静止画になります。

お願い / ヒント

途中でやめるには：
停止(∫)ボタンを押す

- ●テープに未記録部分がなかった場合は、テープ終端で止まります。
- ●ブランク部分を見つけたあと、撮影モードにして撮影を始めると、最後の部分からつなぎ撮りが始められます。

撮った作品の頭出しをする(頭出し)

この機能を使うには、リモコンが必要です。

タイトル	正方向の頭出し	逆方向の頭出し
撮った作品の頭出しをする **(頭出し)** **■フォトショット画像の頭出し (フォトサーチ)** **準備** 「再生キノウ」メニューの「アタマダシ」で設定を「フォト」にしておく (初期設定は「フォト」です)(P32)	**1 回押す** 	**1 回押す**
■場面の頭出し (シーンサーチ) **準備** 「再生キノウ」メニューの「アタマダシ」で設定を「シーン」にしておく(P32)	**押す** 	**押す**

頭出しについて

本機では、頭出しをするための目印(INDEX：インデックス)となる信号を自動的に記録します。

(シーン(場面)インデックス信号記録中は、「INDEX」の表示が数秒間点滅します)

INDEX

❶ フォトインデックス

フォトインデックス信号が入った画像の頭出し、自動プリントに使います。

テープフォトショット時、メモリー画像伝送時に自動的に記録します。

❷ シーン(場面)インデックス

場面の頭出しに使います。

次の場合、自動的に記録します。

●カセットを入れた後の最初の撮影時

●「キロクセッテイ」メニューの「シーンインデックス」の設定に従って(P32)

日付　　：撮影終了後、日付が変わった後の最初の撮影時

2 ジカン：撮影終了後、2 時間経過した後の最初の撮影時

●操作モードを切り換えたときや日付を設定したときは、その後の最初のインデックス信号は記録されません。

前後１画像ごとの頭出しになります。

頭出しすると、約４秒間再生後、その画像を静止画再生します。(５ 分以上静止画再生が続くと、ヘッドの摩耗を防ぐために停止状態になります)

お願い / ヒント

●テープ始端での頭出しはできないことがあります。

●2 秒以上頭出しボタンを押し続けると、イントロサーチ機能が働き、フォトインデックス信号の入った画像を次々と頭出しし、数秒間ずつ再生します。(解除するには、再生(▶)ボタンか停止(∫)ボタンを押します)

●連写フォトショットで撮影した画像は頭出しできません。

１回ボタンを押すと「S 1」が表示され、次の場面の頭出しを始めます。頭出し動作開始後にボタンを押すと、押すごとに「S 2」「S 3」が表示され、2 場面目以降の頭出しをすることができます。

頭出しをすると、その部分から再生を始めます。(頭出しの指定ができるのは、前後 9 場面目までです)

▷▷|

S 3

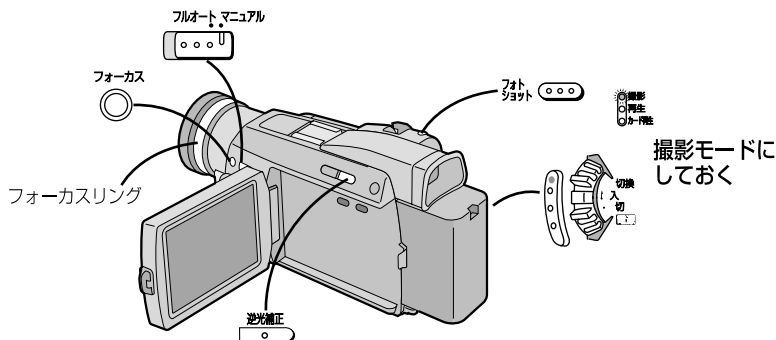
お願い / ヒント

●インデックスとインデックスの間隔が1分以内の場合は、頭出しがうまく働かないことがあります。

●テープ始端での頭出しはできないことがあります。

●2 秒以上頭出しボタンを押し続けると、イントロサーチ機能が働き、場面を次々と頭出しして、数秒間ずつ再生します。(解除するには、再生(▶)ボタンか停止(∫)ボタンを押します)

逆光で撮る(逆光補正)
手動でピントを合わせて撮る(マニュアルフォーカス)

撮影モードにしておく

タイトル

逆光で撮る

(逆光補正)

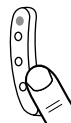
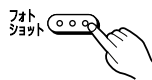
逆光で人物などが暗くなるのを防ぐときに使います。(逆光とは、人物など、被写体の後ろ側から光が当たることです)

1 押す

逆光が補正されます。

緑色で点滅した後、白く点灯します。

2 撮る

または

タイトル

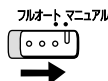
手動でピントを合わせて撮る

(マニュアルフォーカス)

自動でピントが合いにくいとき(P147)、ピント(フォーカス)を手動で調整できます。

MNL ：MANUAL(マニュアル)の略です。

MF ：Manual Focus(マニュアルフォーカス)の略です。

1 「マニュアル」にする

2 押す

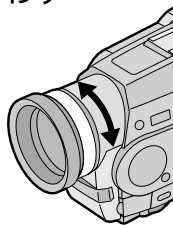
元に戻すには

もう一度押す

お願い / ヒント

●逆光補正ボタンを押すと、画面全体が明るい映像になります。
●電源/操作モード切換えスイッチを操作すると、逆光補正が解除されます。

3

回して、ピントを合わす

元に戻すには

「フルオート」にする

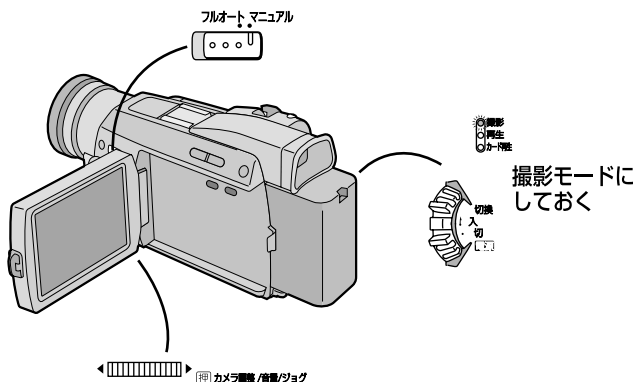
またはフォーカスボタンを押して「MF」を消す

お願い / ヒント

ピント合わせのコツ

大きくして合わせていると

広角にしてもピントはピッタリ

●広角でピントを合わせると、拡大したときにピントが合っていないことがあります。

タイトル

自然な色合いで撮る

(白バランス)

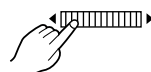
オートホワイト(白)バランスにより、自動で自然な色合いに撮ることができます。しかし場面の状態や光源によっては、自動では自然な色合いに撮れないことがあります。
このような場合に白バランスを設定します。
(P147)

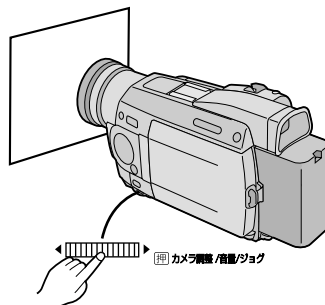
AWB ：Auto White Balance(オートホワイトバランス)の略です。

1

「マニュアル」にする

2

1回押す

4(セットモードを選択した場合のみ)

画面いっぱいに白い被写体を映しながら、◿■◿ マークが点滅から点灯に変わるまで押し続ける

撮影条件と選ぶ白バランスモード

撮影条件	モード
白熱電球、ハロゲンランプ	(屋内モード)
屋外の晴天下	(屋外モード)
蛍光灯（当社のパルック蛍光灯など）	(蛍光灯モード)
水銀灯、ナトリウムランプ、一部の蛍光灯	(セットモード)
ホテルの結婚式場のライトや劇場のスポットライト	(セットモード)
日没・日の出など	(セットモード)

3

回して、選択する

AWB　：自動
屋内(白熱電球)モード
：屋外モード
：蛍光灯モード
(点滅)　：セットモード
(手動で白バランスを設定)

MNL

セットモードを選択し、手動で白バランスを設定するときは、手順 4 を行ってください。

元に戻すには

「フルオート」にする、またはマルチプッシュダイヤルを回して、「AWB」表示にする

または

お願い / ヒント

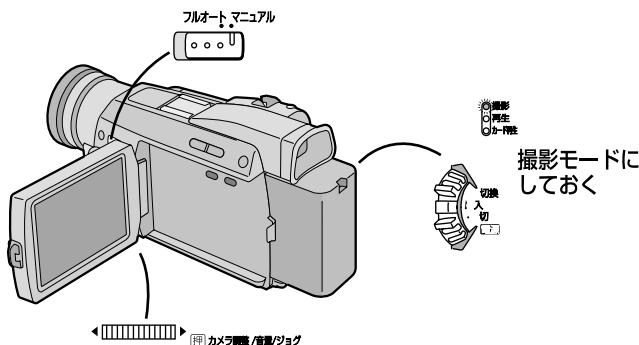
「」表示が点滅するときは：
以下の場合に「」表示が点滅します。

セットモードを選択したとき
以前にセットモードで設定した内容が保持されていることを示しています。セットモードで設定すると、再度設定するまでその内容を記憶しています。

セットモードで設定できないとき
暗いところなどでは、セットモードでの設定がうまくできないことがあります。この場合、オートモードで撮ってください。

セットモードで設定中のとき
セットモードでの設定中は「」表示が点滅します。設定が完了したら、「」表示が点灯に変わります。(手順 4)

●レンズキャップをしたまま電源を入れるとオートホワイトバランスがうまく合わないことがあります。必ずレンズキャップを外してから電源を入れてください。
●以下の場合は白バランスモードを変えることはできません。
・ズームが 10 倍より大きいとき
・デジタル機能の「コウカンド」使用時
・デジタル効果の「セピア」、「モノトーン」使用時
●撮影条件が変わった場合は、正確に合わせるためにその都度設定し直してください。

動きの速いものを撮る(電子シャッター)
明るさを調整して撮る(絞り / ゲイン)

タイトル

動きの速いものを撮る

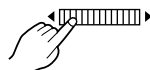
(電子シャッター)

テニスやゴルフのスイングを撮るのに効果的です。

1

「マニュアル」にする

2

シャッター速度表示が出るまで、繰り返し押す

シャッター速度がマニュアルになります。

タイトル

明るさを調整して撮る

(絞り / ゲイン)

場面が明るすぎるときや暗すぎるときに調整できます。

1

「マニュアル」にする

2

絞り値が出るまで、繰り返し押す

絞り値がマニュアルになります。

3

回して、シャッター速度を設定する

元に戻すには

「フルオート」にする

3

回して、絞り/ゲインを設定する

元に戻すには

「フルオート」にする

お願い / ヒント

電子シャッターについて

●明るく光っているものや、反射の強いものは縦方向に光の帯が出ているように撮れることがあります。
●通常の再生では、画面の変わりかたがなめらかに見えないことがあります。
●蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明は避けてください。色合いや画面の明るさが変わることがあります。
●選択できるシャッター速度は 1/60 ～ 1/8000 の 14 段階です。
●プログレッシブ機能が「入」のときは、1/500 までしか使えません。(P38)
●プログレッシブ機能が「オート」のときは1/750以上にすると、プログレッシブ機能は使えなくなります。(P38)
●デジタル機能の「コウカンド」使用時(P69)、AE 設定使用時(P66)はシャッター速度は設定できません。設定していたときは解除されます。
●撮影する場面に応じたシャッター速度を選んでください。(P138)

絞り / ゲインについて

●ゲインを上げると、画面にノイズが増えます。
●ズーム倍率によっては、F2.0、F2.4 の表示が出ないことがあります。
●デジタル機能の「コウカンド」使用時(P69)、AE 設定時(P66)は使用できません。
●シャッター速度と絞り値の両方を設定する場合、まずシャッター速度を設定してから、絞り値を設定してください。

絞り値(F 値)/ ゲイン値と明るさの関係

タイトル

いろいろな場面で撮る

(AE 設定)

❶ **スポーツ**
スポーツシーンなど、動きの速い場面を撮るとき。

❷ **ポートレート**
背景をぼかして、手前の人物を引き立たせて撮るとき。

❸ **ローライト**
暗い場面を明るく撮るとき。

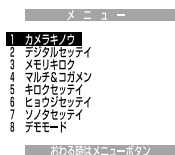
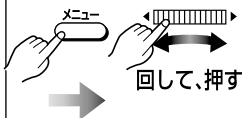
❹ **スポットライト**
結婚式など、スポットライトが当たる人物をきれいに撮るとき。

❺ **サーフ&スノー**
スキー場や海水浴場など、まぶしい場面で人物などを撮るとき。

1

「マニュアル」にする

2

メニューで「カメラキノウ」を選ぶ(P32)

元に戻すには

「AE セッテイ」を「切」に設定する

または「フルオート」にする

❶ **スポーツ**

❹ **スポットライト**

3

「AEセッテイ」を希望の設定にする

4

押す

メニュー画面が消えます。

❷ ポートレート

❸ ローライト

❺ サーフ＆スノー

お願い / ヒント

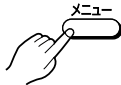
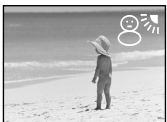
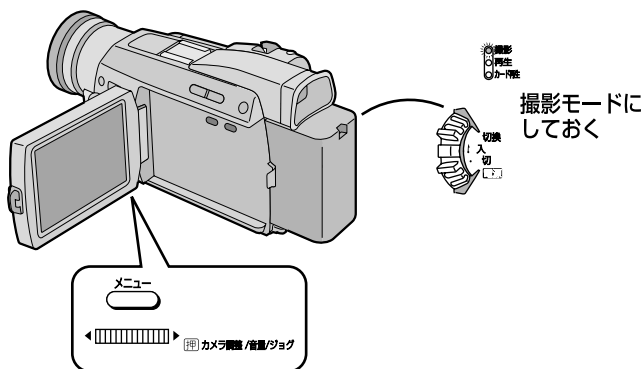
●デジタル機能で「コウカンド」(P69)を選んでいると、AE設定は使用できません。
●スポーツモード、ポートレートモード時にプログレッシブ機能を使うと、映像の明るさが変わることがあります。(P38)
●AE設定時は電子シャッター(P64)、絞り / ゲイン(P64)は使用できません。

スポーツモード
●撮った後、スロー再生や静止画再生したときに、ぶれの少ない映像になります。
●通常の再生では、画面の変わりかたがなめらかには見えません。
●蛍光灯、水銀灯、ナトリウム灯などの照明は避けてください。色合いや画面の明るさが変わることがあります。
●明るく光っているものや、反射の強いものは、縦方向に光の帯が出ることがあります。
●明るさが足りない場合は が点滅します。
●屋内で使うと、画面がちらつくことがあります。

ポートレートモード
●屋内で使うと、画面がちらつくことがあります。

ローライトモード
●極端に暗い場面では、きれいに撮れないことがあります。

スポットライトモード
●撮りたいものが極端に明るい場合、映像が白っぽくなることがあります。また、周囲が極端に暗くなることもあります。

サーフ＆スノーモード
●撮りたいものが極端に明るい場合、映像が白っぽくなることがあります。

タイトル

特殊効果を使って撮る

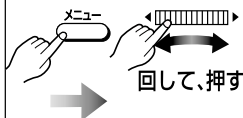
■デジタル機能

9 種類の特殊効果があります。(右図参照)

メガピクセル設定時は使えません。

- 「プログレッシブ」が「入」のときは、デジタル機能は使えません。
- 「コウカンド」にするとフォーカスはマニュアルになります。
- 「コウカンド」にすると、AE 設定(P66)や電子シャッター(P64)、絞り / ゲイン(P64)は使えません。

1

メニューで「デジタルセッテイ」を選ぶ(P32)

メ ニ ュ ー
1 カメラキノウ
2 デジタルセッテイ
3 メモリキロク
4 マルチ&コガメン
5 キロクセッテイ
6 ヒョウジセッテイ
7 ソノタセッテイ
8 デモモード
おわる時はメニューボタン

2

「デジタルキノウ」を希望の機能に設定する

回して、押す

タイトル

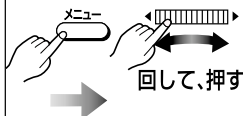
■デジタル効果

4 種類の特殊効果があります。(右図参照)

メガピクセル設定時は使えません。

- デジタル機能とデジタル効果は同時に設定することができます。例えば、セピア効果でワイプ機能を使うことができます。

1

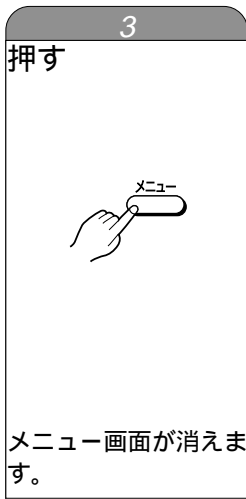
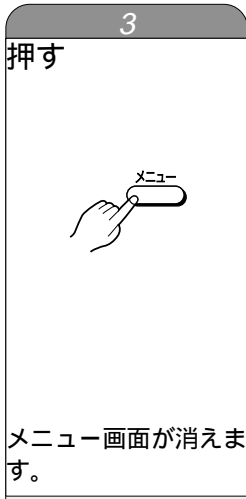
メニューで「デジタルセッテイ」を選ぶ(P32)

2

「デジタルコウカ」を希望の機能に設定する

デジタルセッテイ
デジタルキノウ ▶切
デジタルコウカ 切 ▶ネガポジ セピア モノトーン アート
まえのメニューに戻る
おわる時はメニューボタン

3

押す

メニュー画面が消えます。

●機能を解除するには手順２で「切」を選びます。
●ワイプ、ミックスについてはＰ７０をお読みください。
●「コガメン」、「マルチ」についてはＰ７２～７７をお読みください。

3

押す

メニュー画面が消えます。

●効果を解除するには手順２で「切」を選びます。
●セピア、モノトーンを選ぶと、白バランスは設定できません。(Ｐ６２)

お願い / ヒント

デジタル機能

マルチ
画面に９画面取り込みます。

コガメン
静止画を子画面に取り込みます。

ワイプ
場面がカーテンを引くように変わります。

ミックス
場面が重なりながら変わります。

ストロボ
コマ送りのような映像になります。

コウカンド
高感度になり、暗い場面を明るくします。

キセキ
映像の軌跡が残ります。

モザイク
映像にモザイクがかかります。

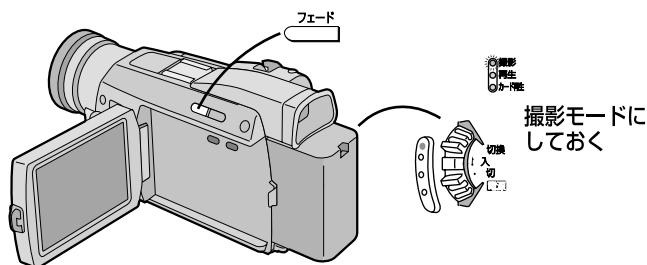
ミラー
画面中央に鏡を置いたような効果になります。

デジタル効果

ネガポジ
ネガフィルムのような映像になります。

セピア
セピアカラーの映像になります。

モノトーン
白黒映像になります。

アート
絵画のような映像になります。

タイトル

特殊効果を使って撮る

■ワイプ

場面がカーテンを引くように変わります。

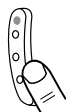
■ミックス

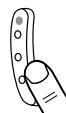
場面が重なりながら変わります。

ワイプ

「デジタルセッテイ」メニューの「デジタルキノウ」を「ワイプ」に設定しておく(P68)

❶ 撮る

●通常の撮影をします。

❷ 撮影を一時停止する

●最後の場面が内部にメモリーされ、「ワイプ」の文字が白黒反転します。

❸ 撮る

●最後の場面から新しい場面へワイプします。

タイトル

フェード効果を使って撮る

(フェードイン)

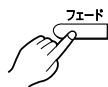
白い映像から少しずつ映像と音声が現れてくるように撮れます。

(フェードアウト)

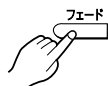
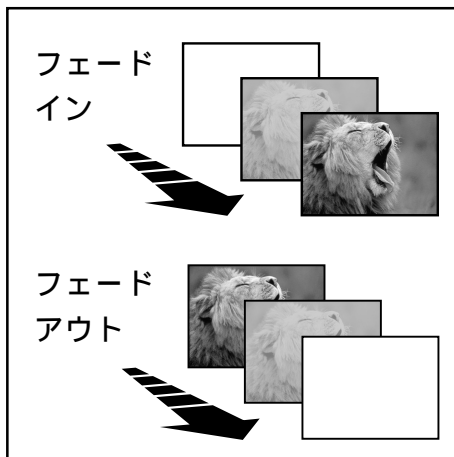
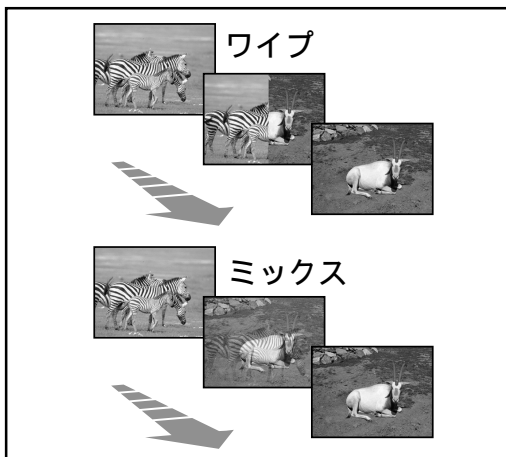
映像と音声が少しずつ消えて、白い映像になっていくように撮れます。

フェードイン

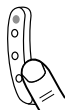
❶ 撮影の一時停止中に押し続ける

●映像が少しずつ消えていきます。

❷ 映像が消えてから、撮る

❸ 撮影を始めて約 3 秒後をめやすに、指を離す

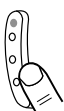
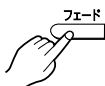
●映像が少しずつ現れてきます。

ミックス

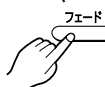
「デジタルセッテイ」メニューの「デジタルキノウ」を「ミックス」に設定しておく(P68)

❶ 撮る
●通常の撮影をします。

❷ 撮影を一時停止する
●最後の場面が内部にメモリーされ、「ミックス」の文字が白黒反転します。

❸ 撮る
●最後の場面から新しい場面へミックスしながら変わります。

フェードアウト

❶ 撮る

❷ 撮影中、押し続ける
●映像が少しずつ消えていきます。

❸ 映像が消えてから、押す
●撮影の一時停止となります。

❹ 指を離す

お願い / ヒント

特殊効果(ワイプ / ミックス)について：

●「カメラキノウ」メニューの「プログレッシブ」が「入」のときは、デジタル機能は使えません。(P 38)

●以下の操作をするとメモリー画像が消えて、ワイプ、ミックスはできなくなります。

・デジタル機能、デジタル効果を別の項目に設定し直す

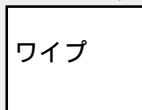
・カメラサーチする

・静止画ボタンを押す

・テープ/カード選択スイッチを切りかえる

●テープフォトショット撮影すると、フォトショット画像がメモリーされます。

●最後の場面が内部にメモリーされると、「ワイプ」や「ミックス」の文字表示が白黒反転し、画像がメモリーされていることを知らせます。

ワイプの例

メモリー画像なし　　メモリー画像あり

フェードイン / フェードアウトについて：

●テープフォトショット(P36)、静止画中(P36)マルチ画面(P74、76)は、映像のフェードはしません。

タイトル

子画面を表示する

(子画面 P in P 機能)

画面の中に子画面(静止画)を表示することができます。

メガピクセル設定時は使えません。

ピー イン ピー　ピクチャー イン ピクチャー
P in P：Picture in Picture の略です。
画面の中に子画面を表示する機能のことです。

1

メニューで「デジタルセッテイ」を選ぶ(P32)

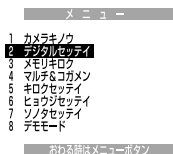
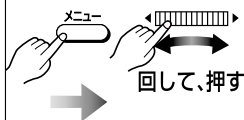
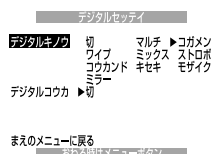
メニュー

回して、押す

メニュー

1 カメラキノウ
2 デジタルセッテイ
3 メモリキロク
4 マルチ&コガメン
5 キロクセッテイ
6 ヒョウジセッテイ
7 ソノタセッテイ
8 デモモード

おわる時はメニューボタン

2

「デジタルキノウ」を「コガメン」にする

5

押す

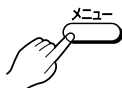
先に静止画ボタンを押して、静止画にした映像を子画面にすることもできます。(ただし、プログレッシブ静止画はできません)

子画面になります。

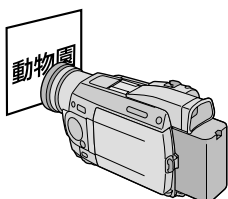
リモコンを使う場合

子画面表示の操作ができます。

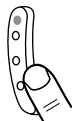
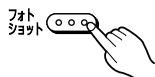
3

押す

メニュー画面が消えます。

4

子画面に入れたい画像を画面いっぱいに映す

6

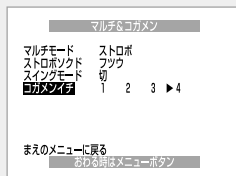
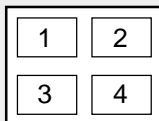
撮影またはフォトショットする

子画面付きの映像が撮影できます。

または

もう一度、マルチ / 子画面ボタンを押すと子画面画像が消えます。

お願い / ヒント

- ●プログレッシブ機能が「入」のときは子画面 P in P 機能は使用できません。(P38)
- ●カメラサーチ、撮影チェック中は消えます。(サーチ終了後再表示されます)
- ●フェード中も表示されたままになります。
- ●子画面画像は電源を切ると、消去されます。
- ●タイトル(P102)を子画面にすることはできません。
- ●ビデオフラッシュ装着時は、子画面ボタンを押してもフラッシュが発光します。(フラッシュマーク「ϟ」点灯時)(P37)

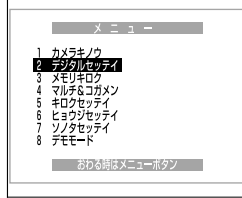
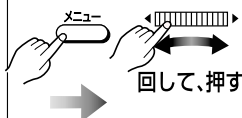
子画面位置の設定

「マルチ & コガメン」メニューの「コガメンイチ」の項目を選び、位置を設定する

タイトル

9 画面の連続画像を撮る

(ストロボマルチモード撮影)

1 画面に連続した 9 枚の静止画を取り込みます。

メガピクセル設定時は使えません。

1

メニューで「デジタルセッテイ」を選ぶ(P32)

メ ニ ュ ー
1 カメラキノウ
2 デジタルセッテイ
3 メモリキロク
4 マルチ&コガメン
5 キロクセッテイ
6 ヒョウジセッテイ
7 ソノタセッテイ
8 デモモード
おわる時はメニューボタン

2

「デジタルキノウ」を「マルチ」に設定する

5

「ストロボソクド」を希望の速度に設定する(右参照)

6

押す

メニュー画面が消えます。

リモコンを使う場合

マルチ画面表示の操作ができます。

3

「まえのメニューに戻る」で戻り、「マルチ & コガメン」を選ぶ

4

「マルチモード」を「ストロボ」に設定する

7

ポンと押す

9 画面の連続画像が表示されます。

8

撮る

または

プログレッシブ機能は使えません。(P38)

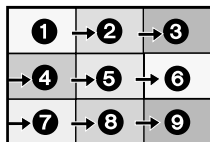
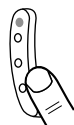
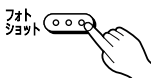
お願い / ヒント

マルチ画面を消すには：
マルチ画面ボタンをポンと押す
マルチ画面を再表示するには：
マルチ画面ボタンを 1 秒以上押す

スイングモードについて：
「マルチ＆コガメン」メニューの「スイングモード」を「入」にすると、中間部分が速く、前後がゆるやかになります。

- プログレッシブ機能が「入」のときはマルチ画面機能は使用できません。(P38)
- 対面撮影(P46)のミラーモード時にマルチ/子画面ボタンを押すと右側から表示されます。(記録されるのは通常と同じ左側からです)
- 静止画時はマルチ画面になりません。
- マルチ画面は画質が少し悪くなります。

ストロボ速度のめやす

ストロボ速度	9画面の取り込み時間
ハヤイ	約1秒
フツウ	約1.5秒
オソイ	約2秒

タイトル

9 画面の任意画像を撮る

(マニュアルマルチモード撮影)

1 画面に任意の静止画を 9 枚取り込みます。

メガピクセル設定時は使えません。

1

メニューで「デジタルセッテイ」を選ぶ(P32)

2

「デジタルキノウ」を「マルチ」に設定する

5

押す

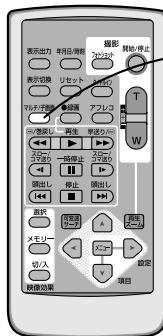
メニュー画面が消えます。

6

押す

マルチモードになります。

リモコンを使う場合

マルチ画面表示の操作ができます。

3

「まえのメニューに戻る」で戻り、「マルチ & コガメン」を選ぶ

4

「マルチモード」を「マニュアル」に設定する

7

撮りたい場面でポンと押す

押すごとに左上から画像が表示されます。

8

撮る

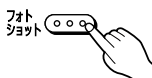
プログレッシブ機能は使えません。(P38)

お願い / ヒント

マルチ画面を消すには：
9 画面表示後、マルチ画面ボタンをポンと押す

マルチ画面を再表示するには：
マルチ画面ボタンを 1 秒以上押す

1 画面消去するには：
マルチ画面の表示中に、マルチ / 子画面ボタンを 1 秒以上押す
・最後に取り込んだ画面が消去されます。さらに押し続けると、連続して消去されます。
・一度消去した画面の再表示はできません。

●プログレッシブ機能が「入」のときはマルチ画面機能は使用できません。(P38)
●対面撮影のミラーモード時にマルチ/子画面ボタンを押すと右側から画像が表示されます。(記録されるのは通常と同じ左側からです)
●静止画時はマルチ画面になりません。
●マルチ画面は画質が少し悪くなります。

タイトル

映像効果を入れて再生する

撮影した映像に映像効果を入れて再生します。(再生映像効果)
映像効果は次の11種類です。

マルチ： 9画面取り込んで表示します。(P80～87)
ワイプ： 場面がカーテンを引くように変わります。
ミックス： 場面が重なりながら変わります。
ストロボ： コマ送りのような映像になります。
ネガポジ： ネガフィルムのような映像になります。
セピア： セピアカラーの映像になります。
モノトーン： 白黒映像になります。
キセキ： 映像の軌跡が残ります。
アート： 絵画のような映像になります。
モザイク： 映像にモザイクをかけます。
ミラー： 画面の中央に鏡を立てたような効果になります。

1 再生する

2 押して、希望の効果を選ぶ

押すごとに効果が変わります。
効果を解除するには画面の映像効果表示を無表示にします。

ワイプ・ミックス

「ワイプ」､「ミックス」に設定した場合、リモコンで次の操作をすると実際の効果が現れます。

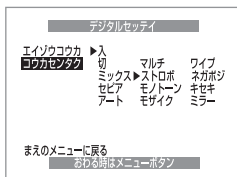
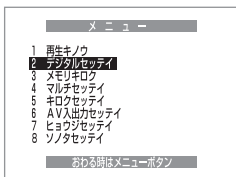
1 再生する

映像効果の選択はメニューでも設定できます(P32)

❶ **メニューで「デジタルセッテイ」を選ぶ**

❷ **「コウカセンタク」を希望の設定にする**

回して、押す

❸ **押して、メニュー表示を消す**

「エイゾウコウカ」が「切」になっていると実際の効果は現れません。

効果の一時解除

押す

画面の映像効果表示が点滅します。
ただし、マルチ、ワイプ、ミックス設定時は点滅しません。

2

メモリーしたいところで押す

画面の「ワイプ」、「ミックス」の文字が白黒反転します。

3

メモリー画像につなげる場面で押す

ワイプまたはミックス効果で場面が変わります。

お願い / ヒント

デジタル機能

マルチ

ワイプ

ミックス

ストロボ

ネガポジ

セピア

モノトーン

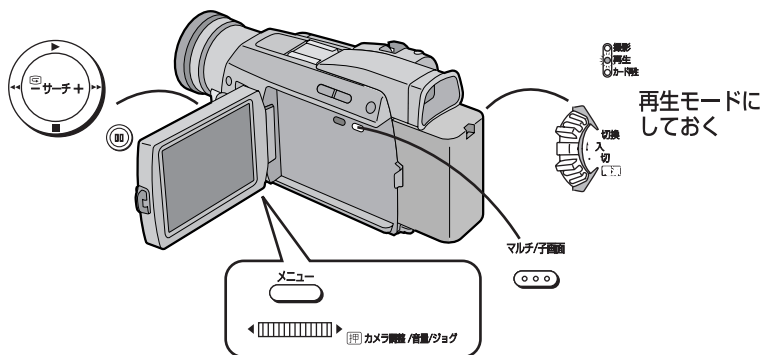
キセキ

アート

モザイク

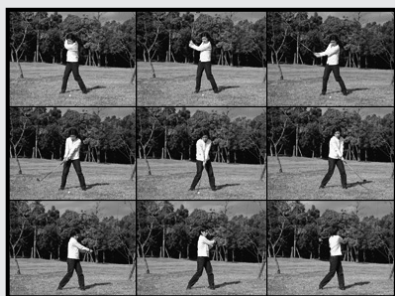
ミラー

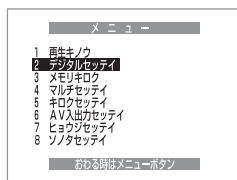
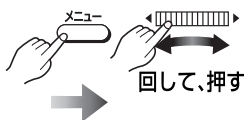
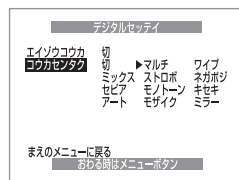
●再生時の映像効果のワイプ・ミックス、映像効果の切/入設定はリモコンでのみ操作できます。
●映像効果を入れた映像はＤＶ端子(P118)、デジタル静止画端子(P125)から出力されません。
●無記録部分(ブルーバック画面)からのワイプ、ミックスはできません。
●ワイプ(ミックス)効果中にリモコンの「切/入」ボタンを押すと、効果を途中で止められます。再度押すと効果が続きます。
●ミラーモードと再生ズーム(P88)は同時に使えません。

再生映像から連続で 9 画面取り込む(ストロボマルチモード)

タイトル

再生映像から連続で 9 画面取り込む

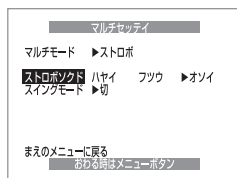
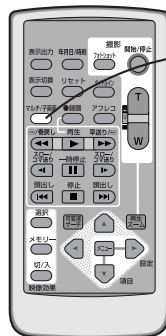
(ストロボマルチモード)

再生映像から、連続した静止画を次々と取り込みます。スポーツのフォームチェックなど、動きのあるシーンに効果的です。

1

メニューで「デジタルセッテイ」を選ぶ(P32)

2

「コウカセンタク」を「マルチ」に設定する

5

「ストロボソクド」を希望の速度に設定する(右参照)

6

押す

メニュー画面が消えます。

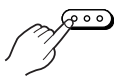
リモコンを使う場合

マルチ画面表示の操作ができます。

3
「まえのメニューに戻る」で戻り、「マルチセッテイ」を選ぶ

4
「マルチモード」を「ストロボ」に設定する

7
再生し、取り込み始めるところで静止画にする

8
ポンと押す

9画面の連続画像が取り込まれ、テープは停止します。

❶ → ❷ → ❸
→ ❹ → ❺ → ❻
→ ❼ → ❽ → ❾

お願い / ヒント

マルチ画面を消すには：
マルチ / 子画面ボタンをポンと押す、または再生ボタンを押す

マルチ画面を再表示するには：
マルチ / 子画面ボタンを 1 秒以上押す

スイングモードについて：
「マルチセッテイ」メニューの「スイングモード」を「入」にすると、中間部分が速く、前後がゆるやかになります。テニスやゴルフなどのスイングを分析するときに効果的です。

- 再生のマルチ画面は DV 端子(P118)、デジタル静止画端子(P125)から出力されません。
- マルチ画面は画質が少し悪くなります。
- DV端子から入力映像がある場合、マルチ画面になりません。DV入力を止めてください。
- S2(S1)映像入出力端子やAV入出力端子から入力信号がある場合、マルチ画面の再表示はできません。
- S2(S1)映像入出力端子やAV入出力端子からの入力信号をマルチ画面表示することはできません。

ストロボ速度のめやす

ストロボ速度	9画面の取り込み時間
ハヤイ	再生映像の約1秒分
フツウ	再生映像の約1.5秒分
オソイ	再生映像の約2秒分

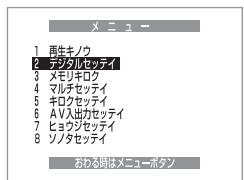
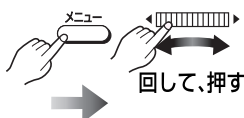
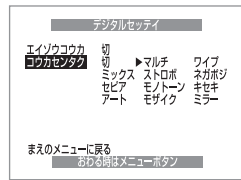
タイトル

再生映像から任意に 9 画面取り込む

(マニュアルマルチモード)

任意の画像を1 つずつ選んで、9画面表示にします。1画面にいろいろなシーンを取り込むことができます。

1

メニューで「デジタルセッテイ」を選ぶ(P32)

2

「コウカセンタク」を「マルチ」に設定する

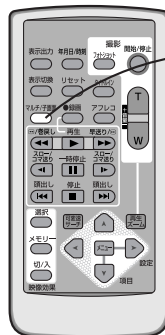
5

押す

メニュー画面が消えます。

6

押す

再生します。

マルチ画面表示の操作ができます。

3

「まえのメニューに戻る」で戻り、「マルチセッテイ」を選ぶ

4

「マルチモード」を「マニュアル」に設定する

7

ポンと押す

マルチモードになります。

8

取り込みたい場面でポンと押す

押すごとに左上から画像が表示されます。

9画面取り込むとテープは停止します。

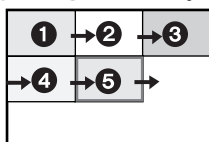
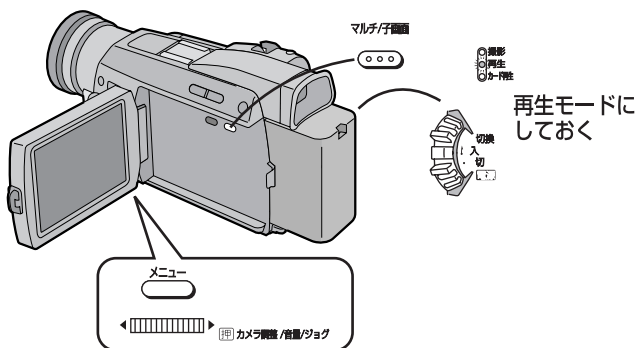
お願い / ヒント

マルチ画面を消すには：
9画面表示後、マルチ / 子画面ボタンをポンと押す

マルチ画面を再表示するには：
マルチ / 子画面ボタンを1秒以上押す

1画面消去するには：
マルチ画面の表示中に、マルチ / 子画面ボタンを1秒以上押す

・最後に取り込んだ画面が消去されます。さらに押し続けると、連続して消去されます。
・一度消去した画面の再表示はできません。

●再生のマルチ画面はDV端子(P118)、デジタル静止画端子(P125)から出力されません。
●マルチ画面は画質が少し悪くなります。
●DV端子から入力映像がある場合、マルチ画面になりません。DV入力を止めてください。
●S2(S1)映像入出力端子やAV入出力端子から入力信号がある場合、マルチ画面の再表示はできません。
●S2(S1)映像入出力端子やAV入出力端子からの入力信号をマルチ画面表示することはできません。

再生映像からインデックス信号で 9 画面取り込む (インデックスマルチモード)

タイトル

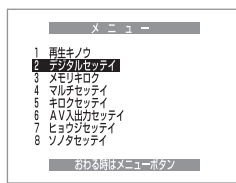
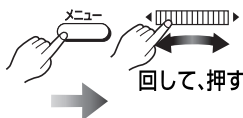
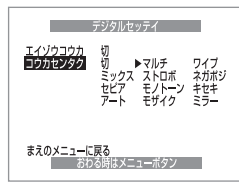
再生映像からインデックス信号で 9 画面取り込む

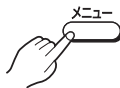
(インデックスマルチモード)

インデックス信号の付いた画像を 9 画面取り込みます。

1

メニューで「デジタルセッテイ」を選ぶ(P32)

2

「コウカセンタク」を「マルチ」に設定する

5

押す

メニュー画面が消えます。

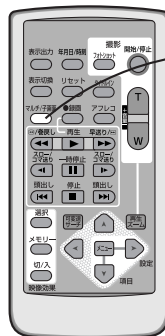
6

ポンと押す

押したところから再生方向に、インデックス信号のついた画像が 9 画面取り込まれます。

リモコンを使う場合

マルチ画面表示の操作ができます。

3

「まえのメニューに戻る」で戻り、「マルチセッテイ」を選ぶ

4

「マルチモード」を「フォト」または「シーン」に設定する

回して、押す

インデックス信号について

インデックス信号には次の 2 種類があります。

フォト：フォトインデックス信号を使ってサーチし、画像を取り込みます。

シーン：シーン (場面) インデックス信号を使ってサーチし、画像を取り込みます。

●インデックス信号は、撮影時に自動で記録されます。(P59)

お願い / ヒント

マルチ画面を消すには：

インデックス信号のついた画像の取り込み後、マルチ / 子画面ボタンをポンと押す、または再生する

マルチ画面を再表示するには：

マルチ / 子画面ボタンを 1 秒以上押す

途中で取り込みをやめるには：

停止(■)ボタンを押す

● 9 画面取り込まれるとテープは停止します。取り込まれる画像が8つ以下の場合、テープの終端で停止します。

●マルチモードの設定は再生系と撮影系で連動して同じ設定になりますが再生のマルチモードを「フォト」または「シーン」に設定した後、「撮影」にすると、撮影のマルチモードの設定は「ストロボ」になります。

●再生のマルチモード画面は DV 端子(P118)、デジタル静止画端子(P125)から出力されません。

●マルチ画面は画質が少し悪くなります。

●DV端子から入力映像がある場合、マルチ画面になりません。DV入力を止めてください。

●S2(S1)映像入出力端子やAV入出力端子から入力信号がある場合、マルチ画面の再表示はできません。

●S2(S1)映像入出力端子やAV入出力端子からの入力信号をマルチ画面表示することはできません。

再生の 9 画面表示した画像から 1 枚さがす(マルチ画面サーチ)

この機能を使うには、リモコンが必要です。

タイトル

再生の 9 画面表示した画像から 1 枚さがす

(マルチ画面サーチ)

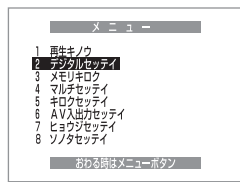
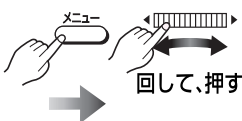
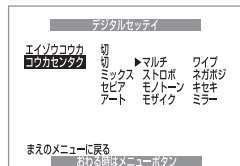
9画面の中の任意の画像のテープ位置をさがします。

1

メニューで「デジタルセッテイ」を選ぶ(P32)

2

「コウカセンタク」を「マルチ」に設定する

5

押す

メニュー画面が消えます。

6

押して、9 画面表示にする

マニュアルマルチモードに設定したときは、再生してからマルチ/子画面ボタンを押します。

3
「まえのメニューに戻る」で戻り、「マルチセッテイ」を選ぶ

4
「マルチモード」を希望の設定にする

ストロボ　：P80
マニュアル　：P82
フォト　：P84
シーン　：P84

7
回して、さがす画像を選択する

選んだ画像が赤枠で点滅します。

8
ポンと押す

頭出し ⏮ または 頭出し ⏭

選んだ画像のところで静止画再生となります。

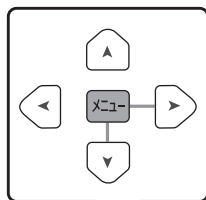
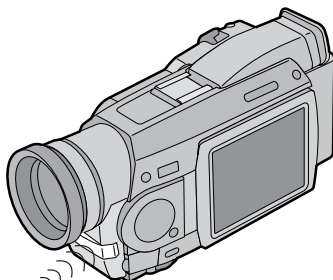
リモコンを使う場合

マルチ画面表示、頭出し操作ができます。

お願い / ヒント

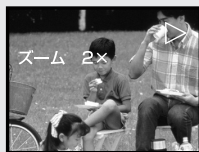
マルチ画面を再表示するには：

マルチ / 子画面ボタンを 1 秒以上押す

- マニュアルマルチモード時は 9 画面すべてを取り込んでから操作してください。
- 「フォト」、「シーン」のマルチ画面サーチのときは 8 画面以下でも頭出しできます。
- サーチされた画像は多少前後にずれることがあります。
- 当社製のビデオプリンターを使うと、手順 7 で選んだ画像を自動プリントできます。(P120)

この機能を使うには、
リモコンが必要です。

タイトル

再生画面を大きく表示する

(再生ズーム)

テープの再生中に再生画面を拡大して表示することができます。(最大 10 倍まで)

1

再生する

2

押す

画面の中央が約2倍に拡大されます。

元に戻すには：

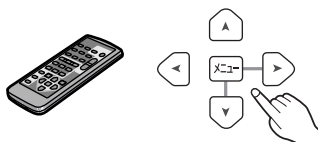
再度押す

倍率を変える

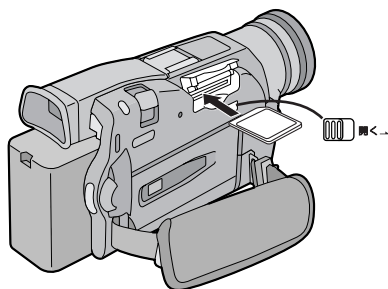
倍率を変えることができます。

リモコンのズームボタンで倍率を変えることができます。最大 10 倍まで拡大できます。

拡大位置を変える

拡大している位置を変えることができます。

テープが停止すると、拡大位置は中央に戻ります。

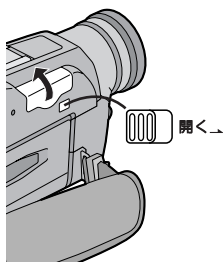
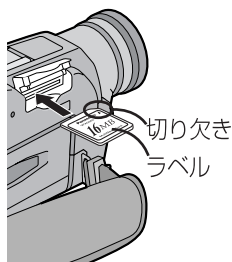
お願い / ヒント

●再生ズーム時は、音量を変えることはできません。
●操作モードを切り換えたり、電源を切ると、再生ズームモードは解除されます。
●再生ズームを使っても、DV 端子(P118)、デジタル静止画端子(P125)から出力されるのはもとのテープ内容です。
●再生映像効果のミラーモードと再生ズームは同時に使えません。
●再生ズームは、拡大するほど画質が悪くなります。
●再生ズーム時にマルチ画面にすると、ズーム倍率が 1 倍(1 ×)になります。
●再生ズーム中は、リモコンで可変速サーチ速度を変更できません。

タイトル

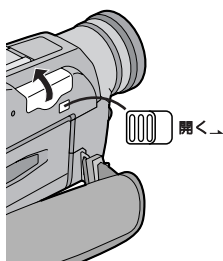
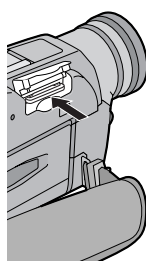
カードを入れる

マルチメディアカードやSDメモリーカードに画像を記録するため、本機にカードを入れておきます。(ご購入時はカードが本機に挿入されていません)

カードを出し入れするときは
必ず電源を「切」の状態で、カードを出し入れしてください。

1 電源を「切」の状態で、開く

2 カードの切り欠きをレンズ側に、ラベルを上にして、まっすぐ最後まで押し込む

タイトル

■カードを取り出す

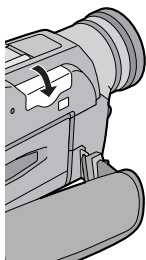
1 電源を「切」にしてから、開く

2 カードの側面の中央を押す

マルチメディアカード

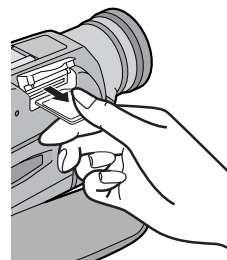
マルチメディアカードは小型、軽量で、着脱可能な外部メモリーカードです。
別売のアクセサリーキットに入っているマルチメディアカードや別売のマルチメディアカードのVW-MMT8(8MB)/VW-MMT16(16MB)には、楽しいタイトル(プリセットタイトル)が多数収録されています。

SD メモリーカード

SD メモリーカード(別売)はマルチメディアカードとほぼ同じ大きさで、より大きな記憶容量を持っている外部メモリーカードです。
カードへの書き込みやフォーマットを禁止する書き込み禁止スイッチを備え、SDMI(デジタル音楽著作権保護協会)の規格に対応可能な著作権保護機能を持っています。音楽データを再生するときは、SD メモリーカードを使います。

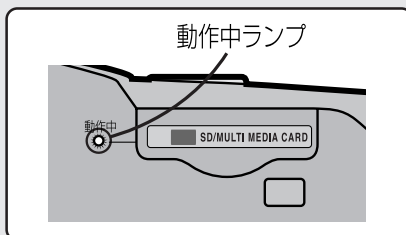
3

閉める

3

まっすぐ引き抜く

カードを取り出した後はカード扉を閉めておきます。

お願い / ヒント

動作中ランプについて

カードにアクセス(認識/記録/再生/消去/画像伝送など)中は、動作中ランプが点灯します。

- **動作中ランプが点灯しているときは、カード扉を開けてカードを抜いたり、電源/操作モード切換えスイッチを操作しないでください。また、テープ/カード選択スイッチを切りかえないでください。カードやカードの内容が破壊されたり、本体が正常に動作しなくなることがあります。**
- カード裏の接続端子部分に触れないでください。
- カードが正しく入っているか確認し、カード扉を閉じてください。
- カード扉が開いていると、カードにアクセスしません。

タイトル

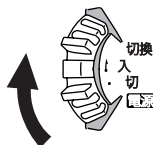
デジタルスチルカメラとして使う

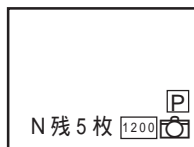
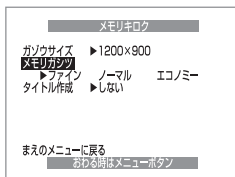
(メガピクセル静止画記録〜カードフォトショット)

デジタルスチルカメラとして、きれいな静止画をマルチメディアカードやSDメモリーカードに記録できます。
本機で記録できる最高画像サイズは108万画素で、この記録をメガピクセル(100万画素以上)静止画記録といいます。
メガピクセル静止画記録で記録された画像は、通常の記録画像にくらべて、よりきれいにプリントすることができます。
プリントするときは、カードの画像データを使ってプリントしてください。それ以外では、メガピクセルのきれいな画像が得られません。

●音声は記録できません。
●シャッターコウカは働きません。
●テープへは記録できません。
●カセットが入っていると、約5分で自動的に電源が切れます。

大切な画像は、PCカードアダプターやUSBリーダーライターなどを使ってパソコン(P126)などにも保存してください。電気ノイズや静電気、本機やカードの故障などにより、カードのデータが壊れたり、消失することがあります。

1 撮影ランプを点灯させる(P27)

撮影モードになります。

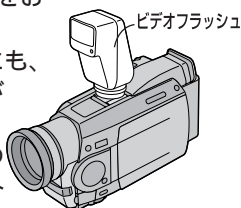
2 「カード」にする

5 「メモリガシツ」を希望の設定にする

メモリー画質について

●「ノーマル」や「エコノミー」に設定すると、多くの画像を記録できますが画質が劣化します。
●メモリー画像の記録枚数などについては、150、156ページをお読みください。

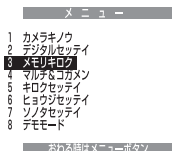
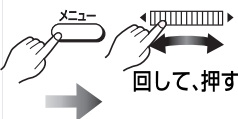
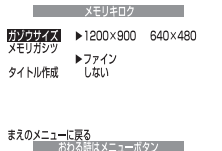
ビデオフラッシュについて

ビデオフラッシュ VW-FLHDJ3(別売)をお使いになると、暗い場所でのメガピクセル静止画記録に便利です。

フラッシュ発光時に人物の目が赤く撮影されるのを軽減する赤目軽減機能も設定できます。

詳しくは、37 ページをお読みください。

ビデオフラッシュ

- ●デジタル静止画時にも、ビデオフラッシュが発光します。
- ●ビデオフラッシュの説明書もよくお読みください。

3 メニューで「メモリキロク」を選ぶ(P32)

4 「ガゾウサイズ」を「1200x900」にする

6 押す

メニュー画面が消えます。

7 記録したい場面で押す

数秒間静止画になります。

お願い / ヒント

カードフォトショットについて

- ●テープ / カード選択スイッチが「カード」側の場合、テープへの撮影はできません。

メガピクセル静止画記録について

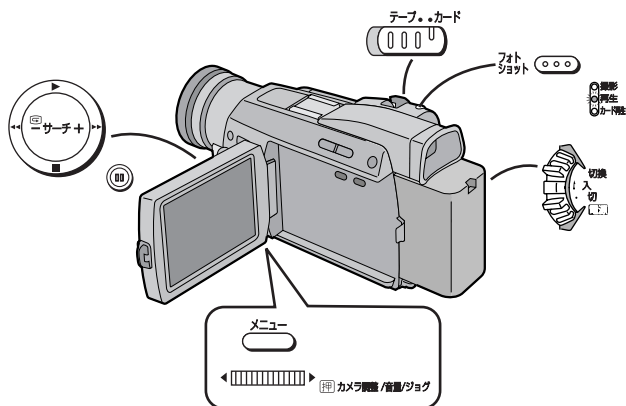
- ●プログレッシブ機能は「入」になります。
- ●シャッター速度は1/30〜1/500になります。
- ●テレビや液晶モニターで画像を見ると、画質が少し劣化します。
- ●画面が少し広くなります。
- ●以下のことができなくなります。
  - •デジタルズーム(P40)
  - •手ぶれ補正(P44)
  - •シネマ・証明写真機能(P42、46)
  - •デジタル機能 / 効果を使った撮影(P68)
  - •タイトルイン・作成(P102・104)
- ●カードの画像をテープに記録することはできますが、メガピクセルでは記録できませんので、画質が劣化します。
- ●画面の色が変わったり、ちらついたりする場合は、シャッター速度をマニュアルで 1/30、1/60 または 1/100 に調整してください。

その他

- ●手順 4 で「ガゾウサイズ」を「640x480」に設定すると、メガピクセル画像にはなりません。テレビや液晶モニターで画像を見るときは、「640x480」をおすすめします。
- ●撮りたいところで、静止画ボタンを押して静止画にしてから、フォトショットボタンを押すことをおすすめします。
- ●別売のフィルターなどを付けると、画面の四隅が暗く(ケラレ)なる場合があります。(P143)

画面の表示について

(カードマーク)	：カードモードを表します。記録中は赤色表示になり、動作中ランプ(P91)も点灯します。
1200/640	：選択した画像サイズを表します。
残 00 枚	：記録可能枚数を表します。
N (F 、E)	：設定したメモリー画質を示します。N はノーマル、F はファイン、Eはエコノミーを表します。

テープ映像や外部入力映像をカードに記録する(カードフォトショット)

タイトル

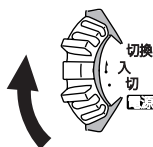
テープ映像や外部入力映像をカードに記録する

(カードフォトショット)

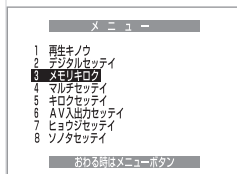
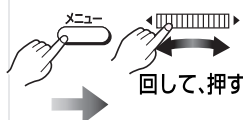
撮影済みのテープの映像や外部機器からの入力映像(P114)を、マルチメディアカードやSDメモリーカードに静止画として記録できます。
メガピクセル静止画記録(P92)ではありません。

●音声は記録できません。
●シャッターコウカは働きません。

1

再生ランプを点灯させる(P27)

再生モードになります。

2

メニューで「メモリキロク」を選ぶ(P32)

4

押す

メニュー画面が消えます。

5

「カード」にする

リモコンを使う場合

カードフォトショット操作ができます。

フォトショットボタン

3

「メモリガシツ」を希望の設定にする

回して、押す

メモリー画質について

●「ノーマル」や「エコノミー」に設定すると、多くの画像を記録できますが画質が劣化します。

●メモリー画像の記録枚数などについては、150、156ページをお読みください。

6

(テープ映像の記録)

記録したい場面で静止画再生にして押す

(入力映像の記録)

外部機器を再生し、記録したい場面で押す。

数秒間静止画になります。

お願い / ヒント

●テープ映像を静止画再生しないでフォトショットするとぶれのある画像を記録することがあります。

●外部入力やテープ映像からカードに記録された画像のサイズは、「640x480」になります。

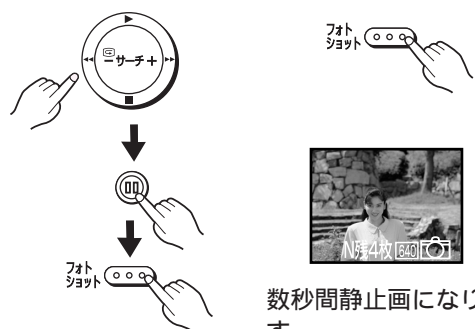
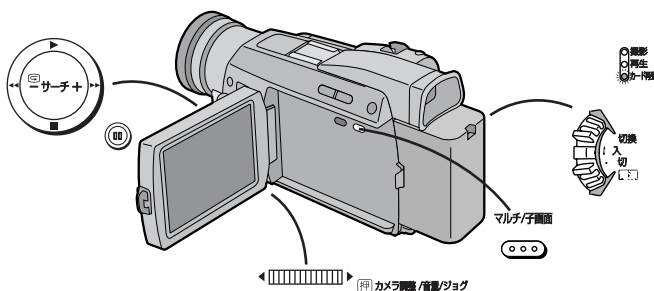
●映像がS1信号(16:9)の場合は、「ワイド画像は記録できません」のメッセージが表示され、記録できません。

画面の表示について

📷：　カードモードを表します。記録中は赤色表示になり、動作中ランプ(P91)も点灯します。

640：　画像サイズを表します。

残00枚：　記録可能枚数を表します。

N(F、E)：　設定したメモリー画質を示します。Nはノーマル、Fはファイン、Eはエコノミーを表します。

タイトル

カードのメモリー画像を再生する(カード再生)

■画像を再生する

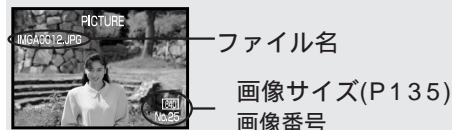
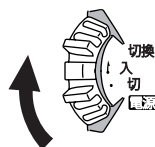
●画像と音楽データが入っているSDメモリーカードをご使用になる場合、「カード再生」メニューの「再生ファイル」を「セイシガ」にしておいてください。(P32)

画面表示について

ファイル名
●画像サイズ(P135)
●画像番号

1

カード再生ランプを点灯させる
(P27)

撮影
再生
カード再生

カード再生モードになります。
最後に記録した画像が再生されます。

次の画像を再生する

押す

押すごとに次の画像が再生されます。
最後に記録した画像の次は最初の画像になります。

タイトル

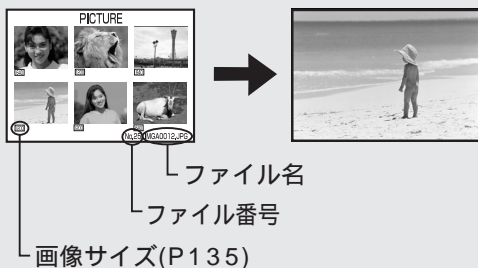
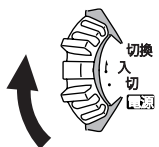
■マルチ画面表示から画像を選んで再生する

画面表示について

ファイル名
ファイル番号
画像サイズ(P135)

1

カード再生ランプを点灯させる
(P27)

撮影
再生
カード再生

カード再生モードになります。
最後に記録した画像が再生されます。

2

押す

メモリー画像がマルチ画面表示されます。

リモコンを使う場合

再生画像の送り、戻し、スライド再生、(一時)停止、マルチ画面表示ができます。

前の画像を再生する

押す

押すごとに前の画像が再生されます。

スライド再生する

押す

メモリー画像が約5 秒ずつ連続再生します。

● 最初の再生画像に戻って停止します。
●途中で一時停止するときは ⏸ ボタンを、やめるときは停止(■)ボタンを押します。

3

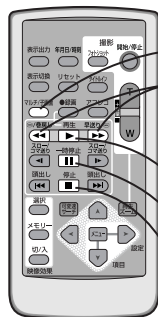
回して、希望の画像を選ぶ

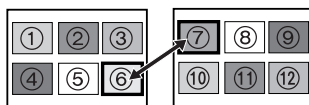
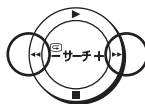
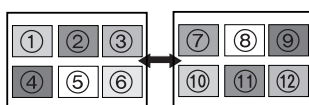
選んだ画像が赤枠で囲まれます。

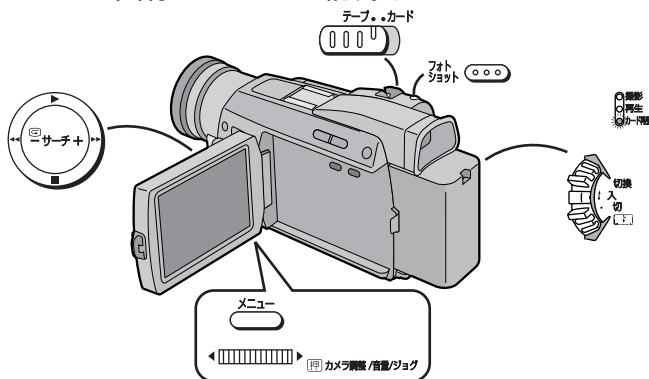
4

押す

または

選んだ画像が表示されます。

お願い / ヒント

●カードにメモリー画像が記録されていない場合は白い画面になり、日付、時間が「ーー」表示になります。
● タイトルを入れて再生できます。(P102)
●形式の異なる画像や壊れた画像を再生したときは、画面中央に「×」が表示され、「再生できません」というメッセージが出る場合があります。
●マルチ画面での画像選択はリモコンではできません。
●メモリー画質表示は、再生時には表示されません。
●他の機器で記録された画像を再生すると、その他機で記録した画像サイズと本機の画像サイズ表示が異なる場合があります。(P135)
●メモリー画像をマルチ画面表示する場合、画像が7枚以上記録されていると一度に表示できません。マルチプッシュダイヤルを回して、次のマルチ画面を表示させてください。

●マルチ画面表示時に早送り(▶▶)ボタンまたは巻戻し(◀◀)ボタンを押すと前後6 画面ごとの送り、戻しができます。

■カード画像の互換性について

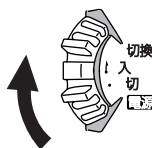
本機は日本電子工業振興協会にて制定された統一規格 DCF(Design rule for Camera File system) に準拠しています。

タイトル

カードのメモリー画像を再生する

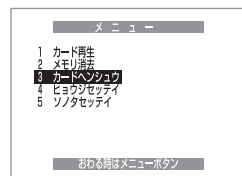
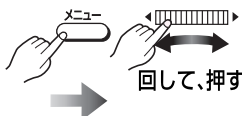
(カード再生)(つづき)

■画像のデータ番号を指定して再生する(ナンバー指定)

1

カード再生ランプを点灯させる(P27)

カード再生モードになります。
最後に記録した画像が再生されます。

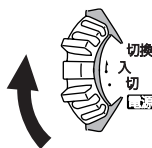
2

メニューで「カードヘンシュウ」を選ぶ(P32)

タイトル

カードのメモリー画像をテープに記録する

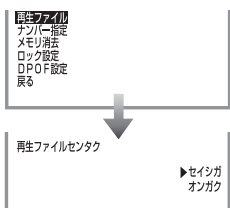
■任意のメモリー画像を記録する

1

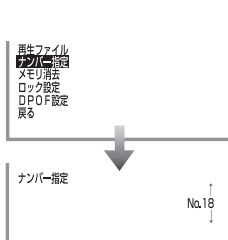
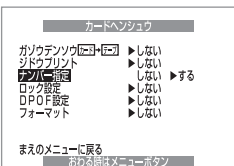
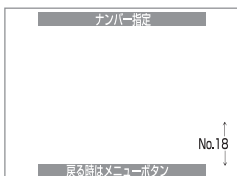
カード再生ランプを点灯させる(P27)

カード再生モードになります。
最後に記録した画像が再生されます。

2

「テープ」にする

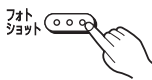
ショートカットメニュー(再生ファイル)
手早く、メニューを出すことができます。
① マルチプッシュダイヤルを押す
② 回して「再生ファイル」を選び、押す
(ここで、やめるときは「戻る」を選ぶ)
③ 回して再生したいファイルの種類を選び、押す

● このショートカットは、SDメモリーカードに音楽データが入っている場合に使用できます。

ショートカットメニュー(ナンバー指定)
手早く、メニューを出すことができます。
① マルチプッシュダイヤルを押す
② 回して「ナンバー指定」を選び、押す
(ここで、やめるときは「戻る」を選ぶ)
③ 回して再生したい画像のデータ番号を選び、押す

3
「ナンバー指定」を「する」にする

4
回して、希望のデータ番号を選び、押す

指定した番号の画像が再生されます。

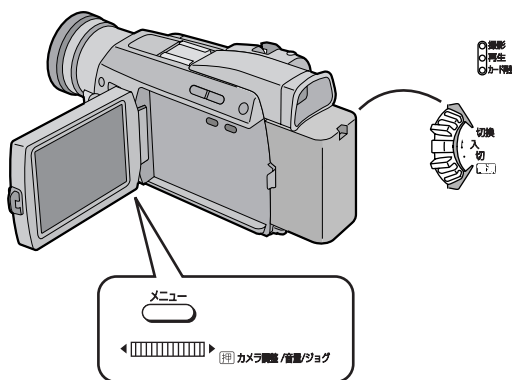
お願い / ヒント

3
テープに記録したい画像を表示させる(P96)

4
押す

画像が約7秒間テープに記録されます。

お願い / ヒント

●テープに記録する場合、記録するテープ位置を頭出ししておいてください。手順4でフォトショットボタンを押した地点のテープ位置にメモリー画像が記録されます。
●「640x480」以外の画像サイズを持つメモリー画像をテープに記録すると、画質が多少劣化します。

テープとカードの間で画像を自動伝送する(画像伝送)

タイトル

テープとカードの間で画像を自動伝送する

(画像伝送)

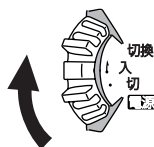
■フォトインデックス信号の入った画像をカードに自動で記録する

記録する前に

「メモリキロク」メニューの「メモリガシツ」を希望の設定にしておく。

1

再生ランプを点灯させる(P27)

撮影
再生
カード再生

再生モードになります。

2

画像伝送を開始する部分の手前を静止画再生しておく

タイトル

■メモリー画像をテープに自動で記録する

●音声は記録できません。

記録する前に

ブランクサーチ機能(P56)などを使って、メモリー画像を記録するテープ位置をさがしておく。

1

カード再生ランプを点灯させる(P27)

カード再生モードになります。

2

画像伝送を開始する画像を再生しておく(P96)

3
メニューで「再生キノウ」を選ぶ(P32)

メニュー

回して、押す

4
「ガゾウデンソウ テープ→カード」を「する」にする

回して、押す

画像伝送が始まります。

3
メニューで「カードヘンシュウ」を選ぶ(P32)

回して、押す

4
「ガゾウデンソウ カード→テープ」を「する」にする

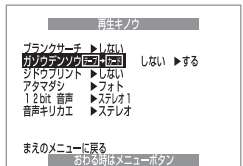
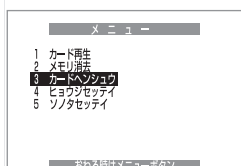
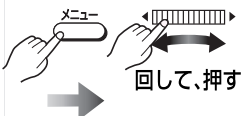
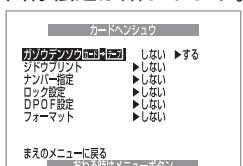
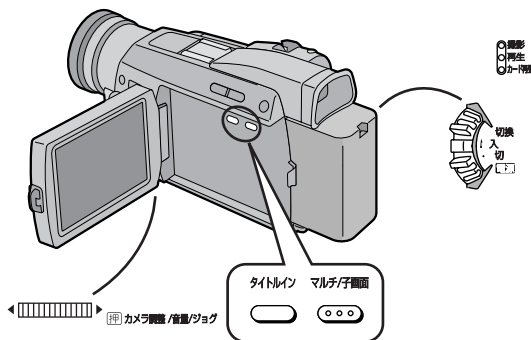
回して、押す

画像伝送が始まります。

お願い／ヒント

画像伝送が始まると

(テープ→カード記録)
そのときのテープ位置からサーチを開始し、フォトインデックス信号の入った画像が順番にカードに記録されます。
(カード→テープ記録)
その時再生されているメモリー画像から最後の画像まで順番にテープに記録されます。(画像1枚あたり約7～11秒間の静止画となります)

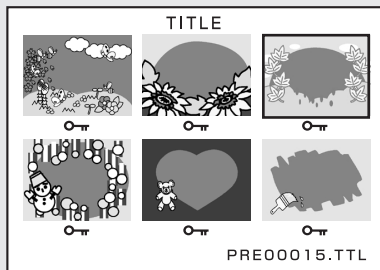
画像伝送を途中でやめるには

停止(■)ボタンを押す

●カードのメモリー画像をテープに記録した場合、自動的にインデックス信号が記録されますので、頭出し(P58)や自動プリント(P120)ができます。
●画像伝送でメモリー画像を記録した場合、記録した画像と画像の間に約1秒間のスクロール映像が記録されます。
●テープ→カード記録中は「テープ再生画をカードに記録中です」という表示と、カード記録の残り枚数が表示されます。
●テープ→カード記録中にカード記録の残り枚数が0枚になると「メモリ記録はできません」と表示され、テープは静止画再生になります。
●カード→テープ記録中は「メモリ画をテープに記録中です」という表示が出ます。
●「640x480」以外の画像サイズを持つメモリー画像をカードからテープに記録すると、画質が多少劣化します。
●テープからカードに記録された画像のサイズは、「640x480」になります。
●映像がS1信号(16:9)の場合は、「ワイド画像は記録できません」のメッセージが表示され、記録できません。

タイトルは撮影、再生、カード再生のいずれのモードでも入れることができます。

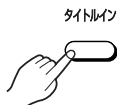
タイトル

タイトルを入れる
(タイトルイン)

別売のアクセサリーキット VW-PDC7/VW-PPSD1に付属のマルチメディアカードにはイラストタイトルなどが入っています。(プリセットタイトル)
この中からタイトルを選んで、表示させることができます。

●テープ/カード選択スイッチが「カード」側で、「ガゾウサイズ」が「1200x900」に設定されていると、タイトルを表示させることはできません。

別売のアクセサリーキット に付属のマルチメディアカード(16MB/8MB)に入っているプリセットタイトルの一例

1

押す

タイトルが表示されます。

2

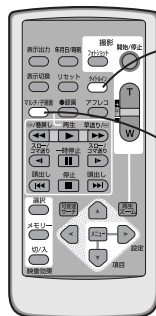
押す

タイトルが一覧表示されます。

表示を消すには

押す

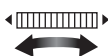
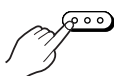
リモコンを使う場合

タイトルイン操作、タイトル一覧表示ができます。

3

回して、希望のタイトルを選ぶ

選んだところが赤枠で囲まれます。

4

押す

または

選んだタイトルが表示されます。

タイトルインの例

画像に････

タイトルをあわせて

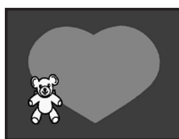
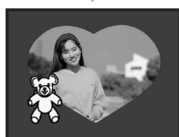
できあがり！

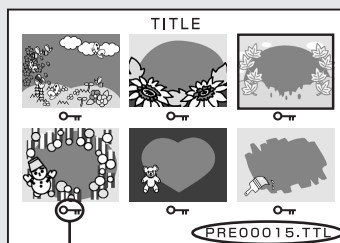
お願い / ヒント

●再生モードでタイトルを表示している場合、タイトルはDV端子(P118)、デジタル静止画端子(P125)から出力されません。

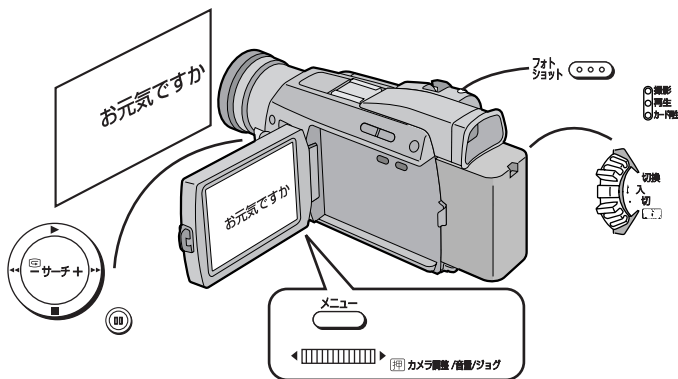
●タイトルインボタンを押すと(手順1)、最後に作ったオリジナルタイトル(P104)が表示されます。オリジナルタイトルを作っていない場合はプリセットタイトルが表示されます。

●タイトルを入れると、マルチ画面になりません。

●オリジナルタイトルを記録している場合はプリセットタイトルの最後に入ります。

画面表示について

(イラストタイトルの例)

ロック設定表示(P106)　　ファイル名

タイトルを作る(タイトル作成)

(撮影モードでの文字タイトル作成例)

撮影モードか再生モードにしておく

白い紙に黒い字で書くと、きれいなタイトルを記録することができます。

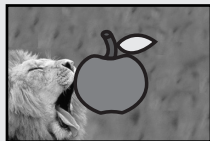
タイトル

タイトルを作る

(タイトル作成)

タイトルを作り、カードに記録します。記録したオリジナルタイトルは撮影時、再生(カード再生)時に表示させることができます。(P102)

文字をタイトルインした例

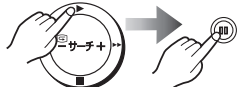
イラストをタイトルインした例

●このようなイラストタイトルを作る場合は、「色センタク」で「元の色(白抜き)」を選んでください。(右記参照)

●「ガゾウサイズ」での設定に関係なく、タイトル画像の画像サイズは「640x480」になります。

●「ガゾウサイズ」が「1200x900」に設定されていて、テープ/カード選択スイッチが「カード」側になっていると、「タイトル作成」は選べません。

1

撮影モード:
撮影モードにする

再生モード:
再生モードにして、タイトルにする画像を静止画再生する

2

メニューで「メモリキロク」を選ぶ(P32)

撮影モードの例

5

回して、「色センタク」、「抜き具合」を選び、押す

色選択

回して、色を選んで、押す(右記参照)

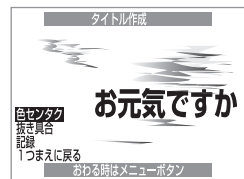
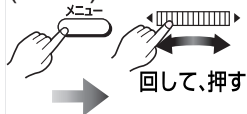
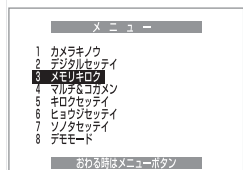
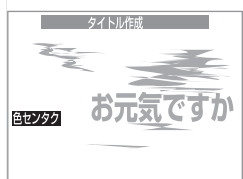
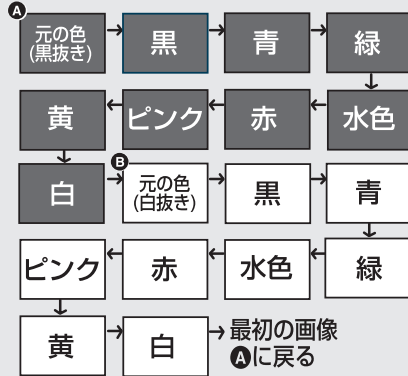
3
「タイトル作成」を「する」にする

4
撮影モード：タイトルにする画像に向けて押す

再生モード：押す

抜き具合調整
回してタイトルがきれいになるように調整して、押す

6
回して、「記録」を選び、押す

タイトルがカードに記録されます。この後にタイトルインの操作をします。(P102)

お願い/ヒント
マルチプッシュダイヤルを回すと、以下のように色が変わります。

Ⓐ 元の画像の暗い部分(黒っぽい部分)が抜けたタイトルになります。
Ⓑ 元の画像の明るい部分(白っぽい部分)が抜けたタイトルになります。

- ●抜き具合を調整してもタイトルにしたい画像の明暗差が少ない部分や明暗の境目がきれいに抜けないことがあります。
- ●細かいものをタイトルにすると、きれいに出ないことがあります。
- ●タイトルの記録中は「タイトルを記録中です」と表示が出ます。
- ●ピントが合いにくいときは、マニュアルフォーカス(P60)でピントを合わせてから、タイトル作成をしてください。
- ●オリジナルタイトルを記録すると、記録できるメモリー画像が少なくなります。
- ●メモリー画像の記録可能枚数が残り少ない場合、オリジナルタイトルが記録されていないことがあります。

タイトル

音楽を聴く

(音楽再生)～SDメモリーカードのみ対応

SDメモリーカードに音楽ファイルを記録して聴くには、専用のソフトウェアが必要です。ソフトウェアについては、別紙をお読みください。

マルチメディアカードは使えません。

パワーセーブ機能について

手順1で「パワーセーブ」を「入」にしておくとパワーセーブが働き、再生などそれぞれの動作をした後、数秒後に表示などが消えて画面が暗くなります。ただし、メニュー画面操作時と音量調整中はパワーセーブは働きません。

- ●何か操作をするとパワーセーブは解除されます。
- ●再生中、曲が変わったときには曲名が表示され、数秒後に再びパワーセーブモードに入ります。

1

メニューで「カード再生」を選び(P32)、「再生ファイル」を「オンガク」にする

音楽再生モードになり、図のような画面が表示されます。

曲名
●12文字以上になるとスクロールし、その後、頭から12文字で止まります。

タイトル

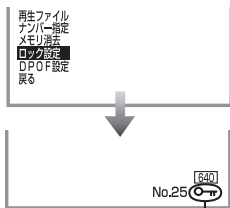
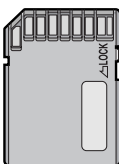
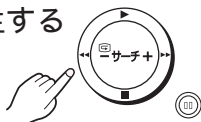
カードの画像を誤消去防止する(ロック設定)

マルチメディアカードやSDメモリーカードに記録した大切な画像をロック(誤消去防止)します。

画像をロックしても、カードをフォーマットした場合は消去されます。

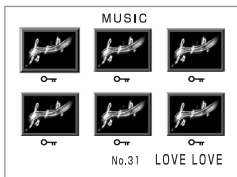
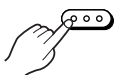
1

メニューで「カードヘンシュウ」を選び(P32)、「ロック設定」を「する」にする

ショートカットメニュー(ロック設定)
手早く、メニューを出すことができます。
① ロックしたい画像を表示させておく
② マルチプッシュダイヤルを押す
③ 回して「ロック設定」を選び、押す
(ここで、やめるときは「戻る」を選ぶ)

SDメモリーカードの書き込み禁止スイッチについて
SD メモリーカード本体には、書き込み禁止スイッチが付いています。
スイッチを「LOCK」側にしておくと、カードへの書き込みやフォーマットができなくなります。戻すと、可能になります。

2 音楽ファイルを再生する

▶: 再生
▶▶: 次曲の先頭へ
◀◀: (1回押し)再生中の曲の先頭へ
(2回押し)前曲の先頭へ
■: 再生を停止
▯▯: 一時停止

音量を調節するには:
再生中に調節する

曲を選ぶには

❶停止中に押す
マルチ/子画面

❷ 聞きたい曲を選ぶ

❸▶ ボタンを押す
●再生が始まります。

お願い / ヒント

●音楽再生は、ヘッドホンと内蔵のスピーカーでのみ聴くことができます。
●リモコンでも操作できます。
●パワーセーブモード時には、電源の切り忘れにお気を付けください。

リピート再生について
リピート再生のモードは､「カード再生」メニューの「オンガクリピート」で切りかえられます。
切(▷) :最後の曲を再生したら停止します。
1 曲(1⊋▷) :同じ曲を繰り返し再生します。
オール(⊋▷):すべての曲を繰り返し再生します。

消費電力と再生時間について
( )内は、バッテリーパックVW-VBD33での連続再生時間です。

	パワーセーブ「入」時	パワーセーブ「切」時
ファインダー使用時	4.9W (2時間20分)	5.1W (2時間20分)
液晶モニター使用時	5.3W (2時間15分)	6.1W (1時間45分)

2 ロックする画像の種類を選ぶ

回して､押す

ロック設定
セイシガ
タイトル
戻る時はメニューボタン

マルチ画面が表示されます。

3

マルチ画面から、
ロックしたい画像を選ぶ

回して､押す

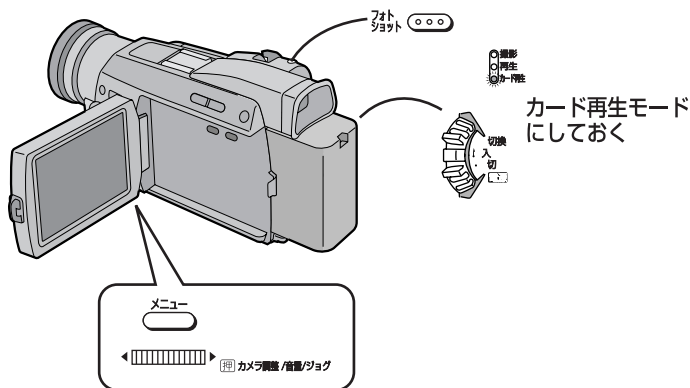
●ロックされた画像に､「⊶」マークが表示されます。

元に戻るには:
メニューボタンを押す

お願い / ヒント

●ロックされた画像を消去しようとすると､「消去できません」というメッセージが表示され、消去できません。
●ロック設定は本機でのみ有効です。

ロック設定を解除するには
手順3で､ロック設定を解除したい画像を選ぶ

●「⊶」表示が消えます。

タイトル

カードの画像を消去する

(メモリー消去)

カードに記録した画像を消去します。

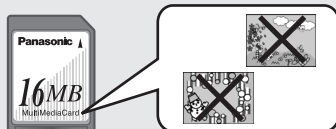
一度消去した画像は元に戻りません。

- SDメモリーカードの場合、書き込み禁止スイッチが「LOCK」側になっていると消去できません。
- ロックがかかっていると、画像を消去できません。(P106)

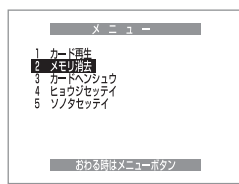
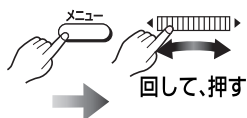
フォーマットについて(右記参照)

通常、マルチメディアカードやSDメモリーカードはフォーマット(初期化)する必要はありません。認識できなくなった場合に、カードを本機でフォーマットしてください。

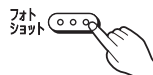
- 本機でフォーマットしたカードに音楽を記録する場合は、専用のソフトウェアで再度フォーマットしてください。正常に音楽再生ができない場合があります。

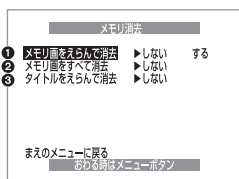
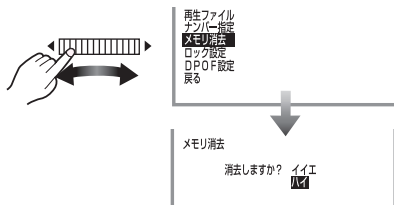
フォーマットするとカードに記録されているすべてのデータ(メモリー画像、オリジナルタイトル画像、音楽データ、プリセットタイトル画像)は消去されますのでお気を付けください。

フォーマットすると …

1 メニューで「メモリ消去」を選ぶ(P32)

2 回して、消したい画像の種類を選び、押す

3 回して、消したい画像を選び、押す

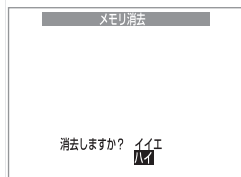
選んだ画像が点滅します。

4 押す

確認のメッセージが表示されます。

ショートカットメニュー(メモリ消去)
手早く、メニューを出すことができます。
① 消去する画像を再生する
② マルチプッシュダイヤルを押す
③ 回して「メモリ消去」を選び、押す
(ここで、やめるときは「戻る」を選ぶ)
④ 確認画面で「ハイ」を選び、押す

❶ メモリー画像を 6 画面から選んで消去する
❷ メモリー画像をすべて消去する(右記参照)
❸ タイトルの画像を 6 画面から選んで消去する

5

「ハイ」を選び、押す

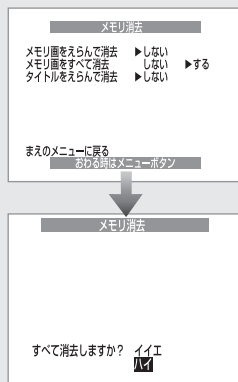
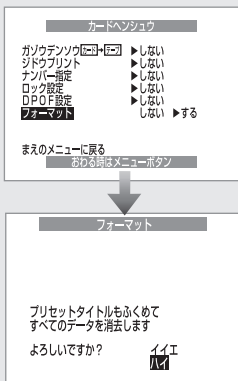
選んだ画像がカードから消去されます。

消去をやめるには

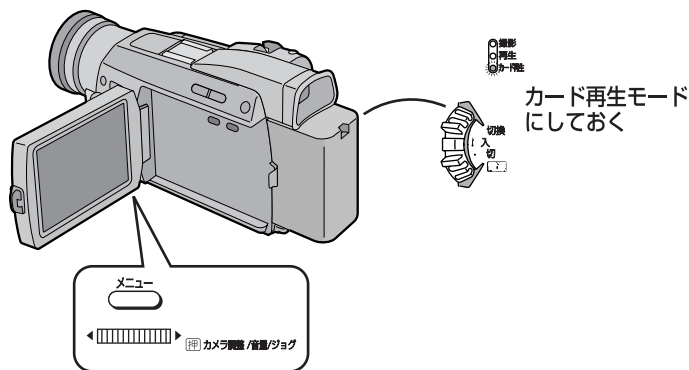
手順 5 で「イイエ」を選び、押す

選んだ画像の選択がすべて解除され、メニュー画面に戻ります。

お願い / ヒント

●手順 4 の前で、点滅している画像を選び、マルチプッシュダイヤルを押すと、画像が点滅から点灯に戻ります。(消去画像の選択が解除されます)
●手順 3 で、表示中の 6 画面の中から複数の画像を選んで、消去することができます。
●プリセットタイトルを消去するときは、ロック設定を解除しておいてください。

カードのメモリー画像をすべて消去するときは(手順 2 の ❷)
手順 2 で「メモリ画をすべて消去」を選んで押し、確認画面で「ハイ」を選び、押す
●ロックされていない画像がすべて消去されます。

フォーマットするときは
「カードヘンシュウ」メニューで「フォーマット」を「する」を選んで押し、確認画面で「ハイ」を選び、押す

●フォーマットが終了すると、白い画面になります。

プリント情報をカードに書き込む(DPOF 設定)

タイトル

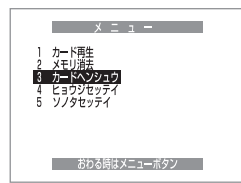
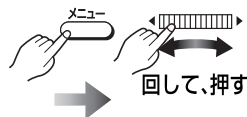
プリント情報をカードに書き込む

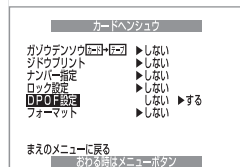
(DPOF 設定)

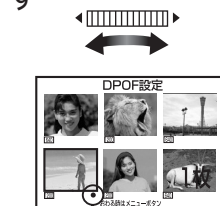
プリントしたい画像、プリント枚数などの情報(DPOFデータ)をカードに書き込むことができます。

DPOF ：Digital Print Order Format（デジタル プリント オーダー フォーマット）の略です。DPOF 対応のシステムで活用できるように、カードのメモリー画像にプリント情報などを付加できるようにしたものです。

1

メニューで「カードヘンシュウ」を選ぶ(P32)

2

「DPOF 設定」を「する」にする

5

回して、プリント枚数を設定し、押す

DPOF 設定表示

DPOF データが書き込まれます。

6

手順4、5を繰り返し、設定が終わったら押す

通常のカード再生画面に戻ります。

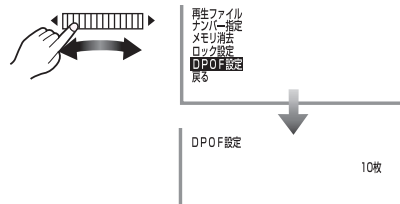
ショートカットメニュー(DPOF 設定)

手早く、メニューを出すことができます。

① DPOF 設定する画像を再生する

② マルチプッシュダイヤルを押す

③ 回して「DPOF 設定」を選び、押す
(ここで、やめるときは「戻る」を選ぶ)

④ 回してプリント枚数を設定し、押す

3

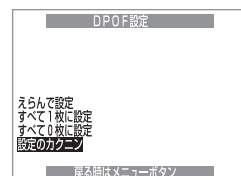
回して、「えらんで設定」を選び、押す

4

回して、設定したい画像を選び、押す

選んだ画像が赤枠で囲まれます。

DPOF 設定内容を確認するときは

手順 3 で「設定のカクニン」を選び、押す

DPOF設定で1枚以上に設定している画像がスライド再生されます。

DPOF設定した枚数
10枚
No.12

スライド再生が終わったら、通常のカード再生に戻ります。

お願い / ヒント

すべての画像を 1 枚ずつプリントするように設定するには：

手順 3 で「すべて 1 枚に設定」にする
(初期設定はすべて 0 枚に設定されて記録されています)

すべての画像をプリントしないように設定するには：

手順 3 で「すべて 0 枚に設定」にする

DPOF 設定の確認を途中でやめるには：

停止(■)ボタンを押す

- プリント枚数は0～99枚まで設定できます。
- DPOFデータの書き込み中は、「DPOFデータを設定中です」と表示が出ます。
- DPOF でプリント枚数を 1 枚以上に設定している画像には「●」が表示されます。
- DPOF 設定はお使いのビデオカメラで設定してください。
- DPOF 設定内容の確認は時間がかかる場合があります。動作中ランプが消灯するまでお待ちください。

この機能を使うには、リモコンが必要です。

タイトル

撮った後に別の音声を入れる

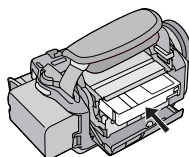
(アフレコ)

内蔵マイクや外部マイク端子を使って、撮った映像に後からBGMやナレーションを入れることができます。

アフレコ録音する前に

●**撮影時の音声も残したい場合は「キロクセッテイ」メニューの「音声キロク」を「12bit」にして撮影する**(撮影時に「16bit」になっていると、アフレコ録音後、撮影時の音声は消えます)

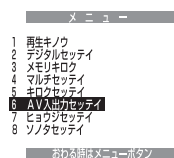
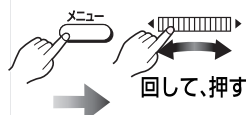
●**「キロクセッテイ」メニューの「キロクモード」を「SP」にして撮影する**(「LP」モードで撮影した部分にはアフレコできません)

1 撮影済みのカセットを入れる

カセットの誤消去防止つまみは「REC」側にしておきます。

2 メニューで「AV入出力セッテイ」を選ぶ

メニュー

回して、押す

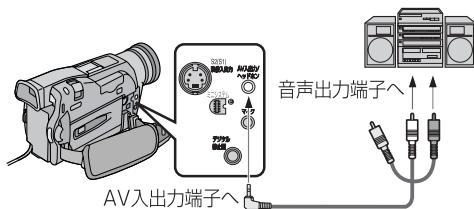
メ ニ ュ ー
1 再生キノウ
2 デジタルセッテイ
3 メモリキロク
4 マルチセッテイ
5 キロクセッテイ
6 AV入出力セッテイ
7 ヒョウジセッテイ
8 ソノタセッテイ
おわる時はメニューボタン

5 音声を入れたいところをさがして静止画再生にする

6 押す

アフレコ

アフレコ ▮▮

外部機器(オーディオ機器など)を使ったアフレコ

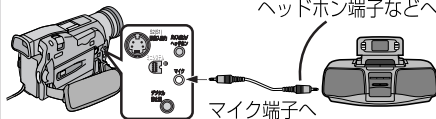
以下の接続をして、メニューの「AV タンシ」を「AV 入出力」にして、「アフレコ入力」を「ライン」に設定します。(手順 3)

外部マイク端子を使ったアフレコ

「アフレコ入力」を「マイク」に設定します。(手順 3)

以下の接続コード(別売)を使用します。

●大型ステレオプラグのヘッドホン端子の場合は大型・ミニ録音コード S/RP-CA6A

●ピンプラグ×2 の出力端子の場合は大型・ミニラインコード S/RP-CA59A

●ミニステレオプラグのヘッドホン端子の場合はミニ・ミニ録音コード S/RP-CA2A

3

「アフレコ入力」を「マイク」か「ライン」に設定する(上図参照)

4

押す

メニュー画面が消えます。

7

押して、録音を始める

アフレコ ▷

録音が始まりますので

「マイク」入力の場合：

●本機の内蔵ステレオマイクに向かって音声を入れます。

●マイク端子で音声機器とつないでいれば、音声を再生します。

「ライン」入力の場合：

●接続している機器を再生します。

お願い / ヒント

録音をやめるには：

リモコンの一時停止ボタンを押す
(静止画に戻ります)

●無記録部分にアフレコはできません。

●アフレコ中に無記録部分があると、その部分を再生したときに、映像、音声が乱れます。

●DV端子からの音声をアフレコすることはできません。

●アフレコ録音のときに、カウンターメモリー機能を使うと便利です。(P149)

アフレコした音声を聞くには

「再生キノウ」メニューの「12bit 音声」の設定によって、アフレコ音声と元の音声を切り換えることができます。(P32)

ステレオ 1： 元の音声を再生します。
ステレオ 2： アフレコ音声を再生します。
ミックス： 元の音声とアフレコ音声を同時に再生します。

音声を聞きながらアフレコするには

「再生キノウ」メニューの「12bit 音声」を「ステレオ2」または「ミックス」に設定してください。マイク入力時はヘッドホンを使うと、音声を聞きながらアフレコできます。(ヘッドホンを使う場合、メニューの「AV タンシ」を「AV 出力 / ヘッドホン」に設定してください)

ライン入力時はスピーカーで音声を聞きながらアフレコできます。

この機能を使うには、リモコンが必要です。

タイトル

外部機器(ビデオ機器やテレビなど)の内容を録画する

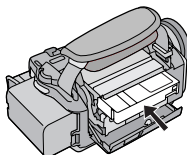
S-VHS(VHS)カセットの内容をDV カセットにダビングしたり、テレビ番組を録画することができます。(P146)

録画する前に

- 「AV入出力セッテイ」メニューの「AVタンシ」を「AV入出力」にする(「AV出力/ヘッドホン」になっていると録画できません)
- メニューのキロクモードを「LP」モードに設定しておくと、「SP」モードの1.5倍長く録画できます。(P149)

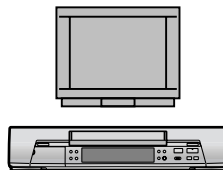
- S映像コードと映像/音声コードを両方接続している場合、S映像が優先して入力されます。
- AV入出力端子やS2(S1)映像入出力端子のどちらか一方に映像信号を入力している場合、残りの端子からその映像信号を出力することはできません。

1

[ビデオカメラ側]録画用のカセットを入れる

2

上図のように、つなぐ

5

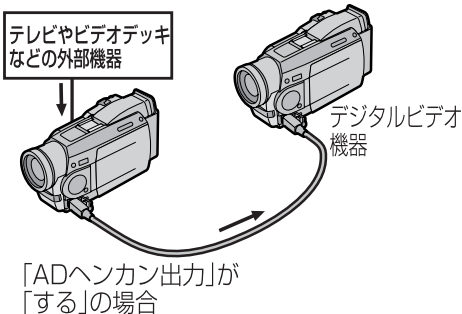
[外部機器側]再生を始める

本機に外部機器側の映像、音声が入力されているか確認します。

6

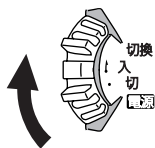
[ビデオカメラ側]録画ボタンを押しながら再生ボタンを押す

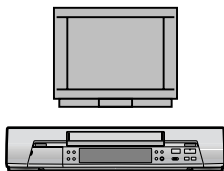
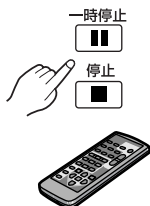
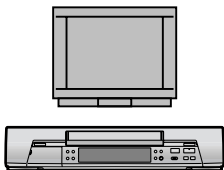
録画が始まります。

AD(アナログ / デジタル)変換について

DV 端子で他のデジタルビデオ機器とも接続している場合、外部機器からアナログ入力した映像を、DV 端子を通して他のデジタルビデオ機器にも出力することができます。

外部機器のアナログ映像信号を DV 出力する(左図)には：
「AV 入出力セッテイ」メニューで「AD ヘンカン出力」を「する」に設定する

通常は「AD ヘンカン出力」を「しない」に設定しておいてください。「する」に設定していると、画像が乱れることがあります。

3
[ビデオカメラ側]
「再生」にする

中央のボタンを押しながらずらします。

4
[外部機器側]
電源を「入」にする

7
[ビデオカメラ側]
一時停止または停止ボタンを押して、録画を終わる

8
[外部機器側]
再生を終わる

お願い / ヒント

- ●お使いのテレビやビデオ機器の説明書をよくお読みください。
- ●著作権保護の信号(コピーガード)が入っている映像を録画すると、録画時に「コピーガードがありただしく録画できません」とメッセージが出て、再生時に映像がモザイクになります。
- ●記録される音声モード(12bit/16bit)は「キロクセッテイ」メニューの「音声キロク」で設定します。
- ●本機はS1/S2 映像信号に対応していますが、ワイド映像を本機で再生すると、液晶モニター、ファインダーの映像は縦のびになります。
- ●録画中に外部機器側で早送り再生やスロー再生などを行うと、再生時に映像がモザイクになることがあります。
- ●録画中はコードを抜き差ししないでください。正常に録画できないことがあります。
- ●テレビ放送の電波が弱い場合に、その映像を録画すると、再生時に映像が乱れたり、モザイクが出る場合があります。
- ●主音声、副音声の入った映像(2 カ国語の映像など)をダビングしたときは、再生時に「再生キノウ」メニューの「音声キリカエ」で聞きたい音声を選んでください。(P55)
- ●録画中はカードフォトショットできません。

タイトル

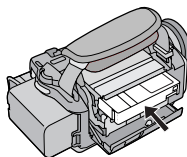
S-VHS(VHS)カセットにコピーする

(ダビング)

本機で撮った作品を、ビデオを使ってS-VHSまたはVHSカセットにダビングすることができます。また、再生時の映像効果を使って楽しめます。

ダビングする前に

ダビングするときは、機能表示(P55)や年月日、時刻表示(P49)を消しておいてください。表示されたままでは、表示が映像に入ったままダビングされてしまいます。

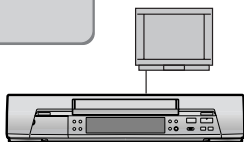
1 [ビデオカメラ側] 撮影済みのカセットを入れる

カセットを入れた後、上図のように接続します。

2 [ビデオカメラ側] 再生ランプを点灯させる(P27)

再生モードになります。

5 [ビデオカメラ側] 再生を始める

6 [ビデオ側] 録画を始める

ビデオ側で入力切換の設定をします。

3

[ビデオ側]
電源を「入」にする

ビデオ側で入力切換の設定をします。

4

[ビデオ側]
録画用カセット(つめの折れていないもの)を入れる

7

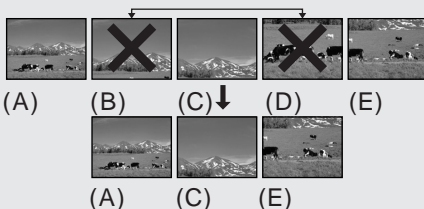
[ビデオ側]
一時停止または停止ボタンを押して、録画を終わる

8

[ビデオカメラ側]
再生を終わる

お願い／ヒント

ビデオ側で入力切換などの設定が必要です。ビデオの説明書をお読みください。

録画時に不要な場面をカット(編集)したいときは

❶ カットしたいところ(B)で録画機側のビデオを一時停止する
❷ 録画したい場面(C)が現れたら録画機側のビデオで録画する
❸ 操作❶・❷をくり返して編集する

この機能を使うには、
リモコンが必要です。

タイトル

デジタルビデオ機器とつないで使う

(デジタルダビング)

DV 端子(i.LINK)を持ったデジタルビデオ機器どうしを DV ケーブル VW-CD1(別売)でつなぐと、デジタル信号による高画質なダビングができます。

● DV 端子(i.LINK)を持った機器でも、デジタルダビングできない場合があります。

上図のように接続した後、操作してください。

1

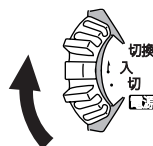
再生機側

再生ランプを点灯させる(P27)

再生モードになります。

2

録画機側

再生ランプを点灯させる(P27)

再生モードになります。

5

再生機側

再生を始める

6

録画機側

録画ボタンを押しながら再生ボタンを押す

録画が始まります。

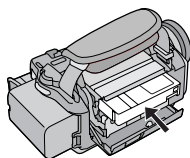
3

再生機側

撮影済みのカセットを入れる

4

録画機側

録画用のカセットを入れる

カセットの誤消去防止つまみは「REC」側にしておきます。

7

録画機側

一時停止または停止ボタンを押して、録画を終わる

8

再生機側

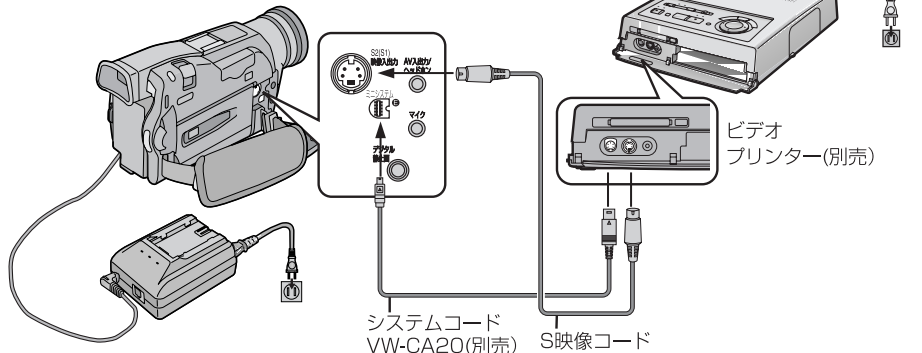
再生を終わる

お願い/ヒント

- 2台の当社製デジタルビデオカメラをお使いの場合、リモコン設定をそれぞれ「VTR1」、「VTR2」にしておくとリモコンによる誤動作を防ぐことができます。(P29)
- 録画機側のメニューの設定に関係なく、再生テープの「音声キロク」モードと同じモードでダビングされます。
- 録画機側のモニター映像(液晶モニターやファインダー、テレビに映した映像)の画面下部がゆがんだり、上下にゆれることがありますが、故障ではありません。実際に記録される映像には影響ありません。
- 再生の映像効果(P78)、再生ズーム(P88)、再生のタイトルイン(P102)を使っても、ダビングされるのはもとのテープ内容です。
- ダビング中にDVケーブルを抜き差ししないでください。正常にダビングできないことがあります。
- 著作権保護の信号(コピーガード)が入っている映像を本機で録画すると、再生時に映像がモザイクになります。
- DV端子からの入力映像にタイトルを入れてテープに記録することはできません。
- 「キロクセッテイ」メニューの「キロクモード」を「LP」にしておくと、「SP」モードの1.5倍長く録画できます。(P149)
- 主音声、副音声の入った映像(2カ国語の映像など)をダビングしたときは、再生時に「再生キノウ」メニューの「音声キリカエ」で聞きたい音声を選んでください。(P55)

本機の自動プリント機能を使う

5ピン型システムⓔ端子を持った当社製ビデオプリンターの場合、自動でプリントすることができます。
ビデオプリンターと本機を接続するには、システムコード VW-CA20 が必要です。
ビデオプリンターの説明書もお読みください。

テレビ(別売)
ビデオプリンター(別売)
システムコード VW-CA20(別売)
S映像コード

メガピクセル画像をプリントするときは:
画質を保持するために、カードの画像データを使ってプリントしてください。

メガピクセル以外の画像をプリントするときは:
●S 映像コードを接続すると、よりきれいにプリントできます。
●撮影時にプログレッシブ機能をお使いいただくことをおすすめします。

フォトインデックス信号の付いた静止画像の自動プリント

ビデオプリンター側

❶電源を入れる
❷入力信号の設定をする

ビデオカメラ側

❸再生モードにする
❹撮影済みのカセットを入れる
❺自動プリントを開始する部分を頭出し(フォトサーチ)(P58)しておく
(テープ始端にしておくとフォトインデックス信号付きの画像をすべてプリントします)
❻「再生キノウ」メニューで「ジドウプリント」を「する」に設定する(P32)
自動プリントが始まります。

自動プリントを途中でやめる場合：
本機の停止(■)ボタンを押す

カードフォトショット画像の自動プリント

カードに記録されているメモリー画像がすべてプリントされます。

ビデオプリンター側

❶電源を入れる
❷入力信号の設定をする

ビデオカメラ側

❸記録済みのカードを入れる
❹カード再生モードにする
❺「カードヘンシュウ」メニューで「ジドウプリント」を「する」に設定する
自動プリントが始まります。

自動プリントを途中でやめる場合：
本機の停止(■)ボタンを押す

マルチ画面の自動プリント
マルチ画面から任意の画像を1 枚選んで自動プリントします。

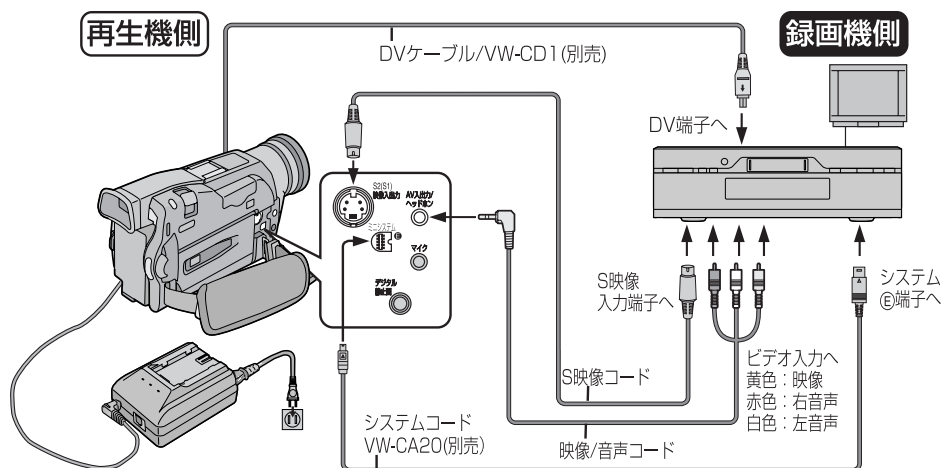
ビデオプリンター側
❶電源を入れる
❷入力信号の設定をする
ビデオカメラ側
❸再生モードにする
❹撮影済みのカセットを入れる
❺マルチ画面表示にする (P80～87)
❻マルチプッシュダイヤルを回して、プリントしたい画像を選ぶ (P86)
❼「再生キノウ」メニューで「ジドウプリント」を「する」に設定する(P32)
自動プリントが始まります。

プリントするときは、以下のことに気を付けてください。

ビデオプリンターご使用時のお願い
●ビデオプリンターを使う前に、リモコンの表示出力ボタン(P55)を押して、機能表示を消してください。表示された状態では、カウンター表示や機能表示などもプリントされてしまいます。
●９画面の画像をプリントするときは、マルチモードの画像をそのままプリントするよりも、プリンター側で「異画面マルチ」モードを「9 面」に設定して、プリントすることをおすすめします。よりきれいにプリントできます。
●本機とビデオプリンターとの接続が誤っていたり、プリンター側にインクや用紙がないときは「プリンターエラー」の表示が出ます。

自動プリント時のお願い
●連写フォトショットの画像はインデックス信号が入りませんので、自動プリントできません。
●マルチモードの画面から任意の画像を選んで自動プリントすると、選んだ画像が多少前後にずれることがあります。
●ビデオプリンター側の熱さまし処理で、自動プリントを停止する場合があります。このときは再度、メニューの「ジドウプリント」を「する」に設定してください。
●自動プリント中には
- 1 枚目のプリントが抜けることがあります。
- インクや用紙の交換をすると、同じプリントが 2 枚出ることがあります。
- テープ始端付近の画像がプリントできないことがあります。
- テープに画像が連続して記録されているとプリントが抜けることがあります。
- 本機のテープ保護のためプリンター側で枚数設定しないでください。

デジタルビデオカセットレコーダーをつないで使う

当社製デジタルビデオカセットレコーダーとつなぐと、高度な編集作業ができます。

●デジタルビデオカセットレコーダーの説明書をよくお読みください。

●接続を行うときは、各機器の電源は「切」にしてください。

●デジタルビデオカセットレコーダーとDVケーブルで接続するだけでも以下の編集ができます。

・ダビング編集・ビデオインサート

・オーディオインサート・アッセンブル編集

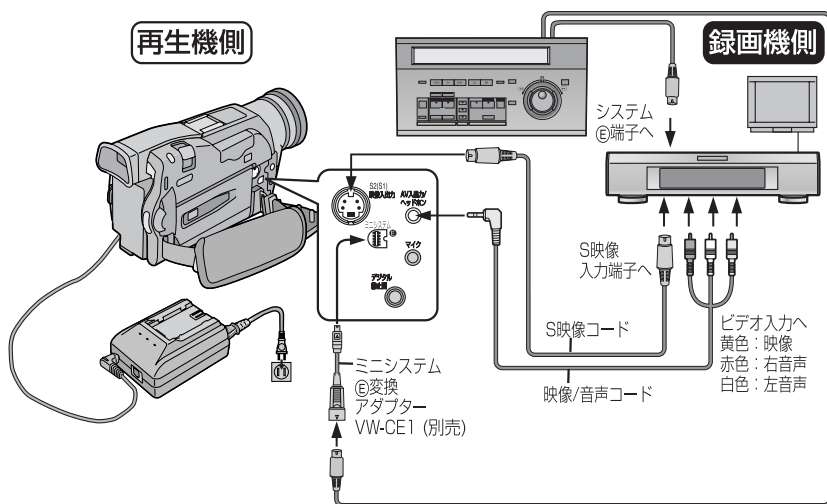
この場合、デジタルビデオカセットレコーダーの入力切換は「DV入力」に、編集端子切換スイッチは「DV」にしてください。

●映像が乱れるため、「AV入出力セッテイ」メニューの「ADヘンカン出力」を「しない」にしておいてください。

●DVケーブルのみの接続で、プログラム編集をする場合は、「ヒョウジセッテイ」メニューの「カウンタモード」を「タイムコード」にし、タイムコードを液晶モニターに表示させておいてください。(P128)

●ACアダプターは、別売のアクセサリーキットに入っています。

編集コントローラーをつないで使う

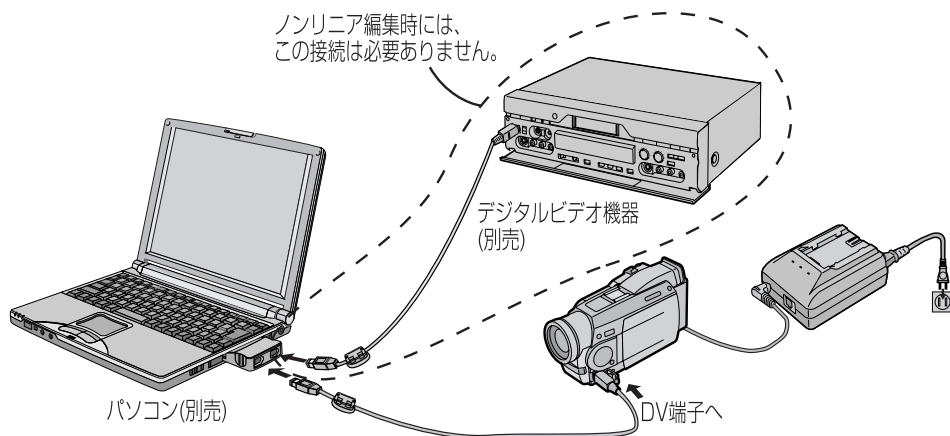
5ピン型システムⒺ端子を持った当社製編集コントローラー(ホームエディティングコントローラーなど)とつなぐと、編集コントローラー側で、本機の操作を制御することができます。

- 編集コントローラーの操作方法は、編集コントローラーの説明書をお読みください。
- ビデオは、当社製で5ピン型システムⒺ端子の付いたものが必要です。
- 編集コントローラーと本機を接続するには、ミニシステムⒺ端子変換アダプターVW-CE1が必要です。
- 編集コントローラーVW-EC1(別売)をつなぐときは、編集コントローラーとビデオをシステムⒺ端子で接続する必要はありません。リモコンによる制御となりますので、システムⒺ端子が付いていないビデオでも編集ができます。
- 編集コントローラーには、VW-EC500またはVW-EC1をお使いになることをおすすめします。
- ACアダプターは、別売のアクセサリーキットに入っています。

タイムコードで編集する場合

「ヒョウジセッテイ」メニューの「カウンタモード」を「タイムコード」にし、タイムコードを液晶モニターに表示させておいてください。(P128)

パソコンを使って編集する

別売の Windows 用 DV 動画編集ソフト MotionDV STUDIO VW-DTM1W/VW-DTM1CW を使うと、いろいろな映像効果をかけたり、タイトルを作成したりできます。

接続や操作方法などの詳しい説明は、MotionDV STUDIO 側の取扱説明書をお読みください。

MotionDV STUDIO を使うと、ノンリニア編集とテープ編集の両方の長所を生かしたハイブリッド編集を行うことができます。

ノンリニア編集 ： デジタルビデオ機器の映像をデータとしてパソコンのハードディスクに取り込み、編集する方法です。パソコン上で取り込んだ映像に様々な特殊効果を入れることができます。

テープ編集 ： 2 台のデジタルビデオ機器を使って、映像をダビングしながらつないでいく方法です。ハードディスクの容量を気にせず編集できるので、長時間の編集に便利です。

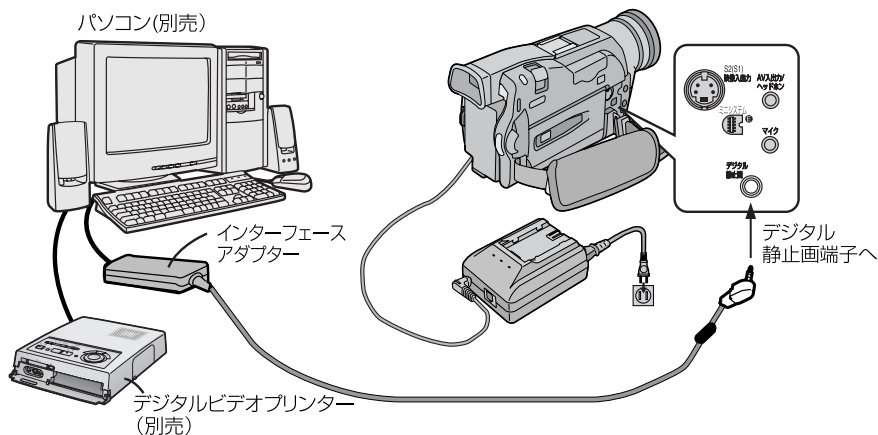
MotionDV STUDIO では：

●メガピクセル画像を取り込むことはできません。画像サイズは「640x480」になります。

詳しくはカタログ、ホームページ(P2)などでご確認ください。

静止画をパソコンに取り込む

別売のデジカム用パソコン静止画キット VW-DTA2W(Windows®95 用)/VW-DTA2M(Macintosh 用)を使うと、本機の画像データをパソコンに伝送することができます。

接続や操作方法などの詳しい説明は、パソコン静止画キット側の取扱説明書をお読みください。

パソコン静止画キットには、デジカム連動のソフト「DVスタジオ2」が付いています。「アルバム」「レタッチ」「レイアウト」「住所録」のソフトウェアがひとつになった統合ソフトです。

パソコン静止画キット
VW-DTA2W

* 写真は Windows®95 用です

パソコンとの接続には、パソコン静止画キットに入っている専用のインターフェースアダプターを使います。

この操作でご使用になれるパソコンは、Windows®95/98 とシリアルポート(ミニ8ピン)のあるMacintoshのみです。詳しくはカタログ、ホームページ(P2)などでご確認ください。

パソコン静止画キットでは：

- メガピクセル画像を取り込むことはできません。画像サイズは「640x480」になります。
- デモモードを「切」にしてからお使いください。
- リピート再生になっていると、取り込み時に誤動作します。
- テープの途中に無記録部分がある場合は、誤動作することがあります。撮影時は、タイムコードがテープ始端から途切れずに記録されるようにしてください。
- 静止画を取り込む場合は、SP モードで撮影しておくことをおすすめします。
- 連写フォトショット画像は、フォトショット画像の自動取り込みはできません。
- 再生の映像効果、再生ズーム画像、再生のタイトル画像は、取り込むことはできません。
- S2(S1)映像入出力端子やAV入出力端子からの入力信号を直接、取り込むことはできません。
- お使いのパソコンによっては自動取込に失敗することがあります。そのときは1枚ずつ取り込んでください。

パソコンでカードを使う

マルチメディアカードとSDメモリーカードが使用できます。
それぞれのカードに対応したアダプターを使って、データをパソコンに取り込んでください。
アダプターには以下のようなものがあります。

マルチメディアカード専用アダプター:

● PCカードアダプター　VW-MAP1

SDメモリーカード / マルチメディアカード両対応アダプター:

● SDメモリーカード用 USBリーダーライター　BN-SDCAP3
● SDメモリーカード用 PCカードアダプター　BN-SDAAP3

詳しくはカタログ、ホームページ(P2)などでご確認ください。
使用方法については、パソコンや各アダプターの説明書をお読みください。

フォルダー構造

データを記録したカードをパソコンに入れると、フォルダーが以下のように表示されます。

「100CDPFP」：メモリー画像がJPEG形式で記録されています。(Imga0001.jpg など)
JPEG画像対応のレタッチソフトなどで開くことができます。

「Misc」：メモリー画像に設定されたDPOFデータのファイルが入っています。

「Title」：プリセットタイトル(PRE00001.ttl など)やオリジナルタイトル(USR00001.jpg 、USR00001.ttl など)のデータが入っています。

「DCIM」や「IM01CDPF」、「PRIVATE」、「VTF」などは、フォルダー構成上必要なものですが、実際の操作では関係のないフォルダーです。

本機はカードフォトショット時にメモリー画像とともにファイル番号(Imga0001.jpg など)を自動的に記録します。ファイル番号は画像ごとに通し番号で記録されますので、パソコンに画像を保存するときに上書き保存される心配がありません。

●本機で記録した画像データなどは、パソコン上で削除せず、本機で削除するようにしてください。
●マルチメディアカード内のデータは、別売のマルチメディアカード用タイトル作成ソフトVW-SWMT1で編集できます。
この場合、画像は「100CDPFP」フォルダーに入れてください。
また、メガピクセル画像をタイトルにすることはできません。
●パソコン上で本機未対応のデータを記録した場合、本機ではそのデータを認識することはできません。

使い終わったら

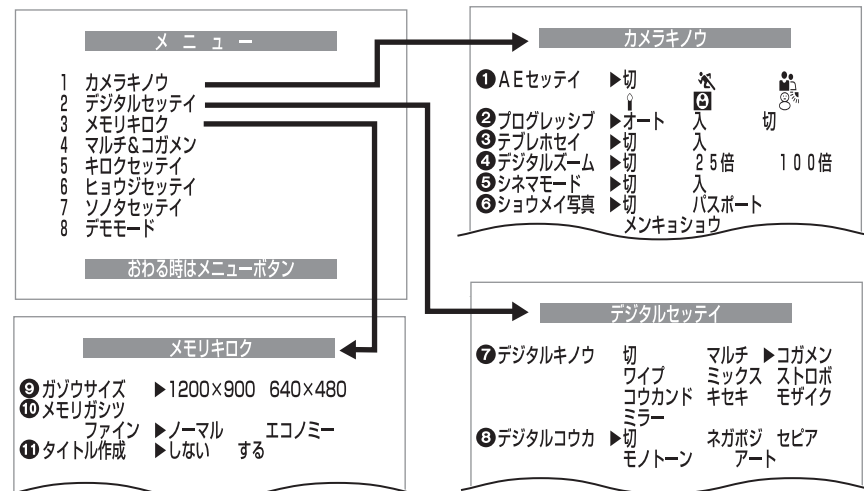
ビデオカメラを使い終わったら、以下の手順の後、別売のソフトケースなどに入れて保管することをおすすめします。

❶ **液晶モニターを閉じる**
❷ **カセットを出す(P24)**
❸ **電源を「切」にする(P27)**
❹ **カードを取り出す(P90)**
❺ **バッテリー(DCコード)を外す(P21)**
❻ **レンズキャップを付ける(P30)**

●カードは必ず電源を「切」にしてから取り出してください。

メニュー画面の表示

実際のメニュー操作は32 ページをお読みください。

撮影系メニュー画面

メニュー画面のイラストは説明用です。実際の表示とは異なります。

❶ AE セッテイ(P66)
AE 設定をします。
「切」にすると AE 設定を解除します。

❷ プログレッシブ(P38)
「入」または「オート」にすると高画質な静止画が撮れます。

❸ テブレホセイ(P44)
「入」にすると手ぶれを抑えてくれます。

❹ デジタルズーム(P40)
25 倍と 100 倍が選択可能です。
「切」にするとデジタルズーム機能を解除します。

❺ シネマモード(P42)
「入」にするとシネマモードになります。

❻ ショウメイ写真(P46)
証明写真の枠の大きさを選択することができます。

❼ デジタルキノウ(P70 ～ 77)
デジタル機能を選択します。
「切」にすると、デジタル機能を解除します。

❽ デジタルコウカ(P68)
デジタル効果を選択します。
「切」にするとデジタル効果を解除します。

❾ ガゾウサイズ(P92)
画像サイズを選択します。

❿ メモリガシツ(P92)
カードフォトショットの画質を選択します。選択によって、1 枚のカードに記録できる画像の数が違います。

⓫ タイトル作成(P104)
タイトルを作るときに選択します。

メニュー画面の表示(つづき)

実際のメニュー操作は32ページをお読みください。

⑫ マルチモード(P74 、76)
マルチモードを選択します。

⑬ ストロボソクド(P74)
ストロボ速度を選択します。

⑭ スイングモード(P75)
「入」にすると「ストロボ」時に中間部分が速く、前後がゆるやかになります。

⑮ コガメンイチ(P73)
子画面の表示位置を選択します。

⑯ キロクモード(P42)
SP：通常の記録モード
LP：SP モードの 1.5 倍の記録モード

⑰ 音声キロク(P146)
12bit：音声を12bit、32kHz 、4トラックで録音します。
16bit：音声を16bit、48kHz 、2トラックの高音質で録音します。

⑱ シーンインデックス(P59)
日付：日付が変わった後の最初の撮影時にインデックスを入れます。
2 ジカン：2 時間経過した後の最初の撮影時にインデックス信号を入れます。

⑲ 風音低減(P44)
風がマイクにあたる音を低減します。ただし、低域の音質が少し悪くなります。

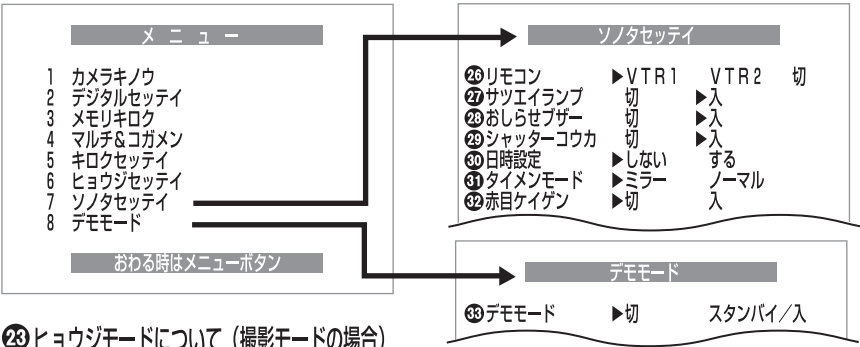
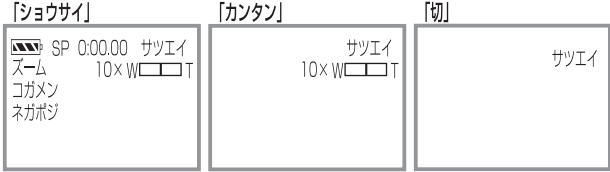
⑳ 日時ヒョウジ(P49)
画面に日付、日時を表示させます。

㉑ カウンタモード(P134)
液晶モニターまたはファインダーに表示される情報を切り換えます。

㉒ カウンタリセット(P149)
「する」にすると、(リニア)カウンターの値がゼロになります。

㉓ ヒョウジモード(右上図参照)
画面に出る情報量を切り換えます。

㉔ LCD バックライト(P132)
ヒョウジュン：液晶モニターの明るさ を標準にします。
アカルイ：液晶モニターを明るくします。

㉕ LCD/VF チョウセイ(P132)
ファインダーと液晶モニターの画面を調整します。

㉖ リモコン(P29)

VTR1：VTR1 用に設定されたリモコンの操作を受け付けます。

VTR2：VTR2 用に設定されたリモコンの操作を受け付けます。

切：　リモコン操作を受け付けません。

㉗ サツエイランプ(P35)

「入」にすると、撮影時に撮影おしらせランプが点灯します。

㉘ おしらせブザー

「入」にすると、下記の場合にブザーが鳴ります。

ブザー音	ビデオカメラの状態
「ピッ」	撮影開始時や電源を「切」から撮影モードにしたときに鳴ります。
「ピピッ」	撮影の一時停止時に鳴ります。
「ピッ、ピッ…」と連続10回	カセットやカードが入っていなかったり、誤消去防止つまみが「SAVE」側になっているカセットを入れたとき、つゆつきが起こったときなどに鳴ります。画面に文章表示が出ますので、内容を確認してください。(P136)

㉙ シャッターコウカ(P37)

「入」にすると、テープフォトショット時にカメラのシャッターのような効果になります。また連写フォトショットができるようになります。(連写フォトショットができるのは「プログレッシブ」が「切」の時だけです)

㉚ 日時設定(P133)

年月日、時刻を設定します。

㉛ タイメンモード(P47)

ミラー　：対面撮影時、液晶モニターの映像が左右反転します。

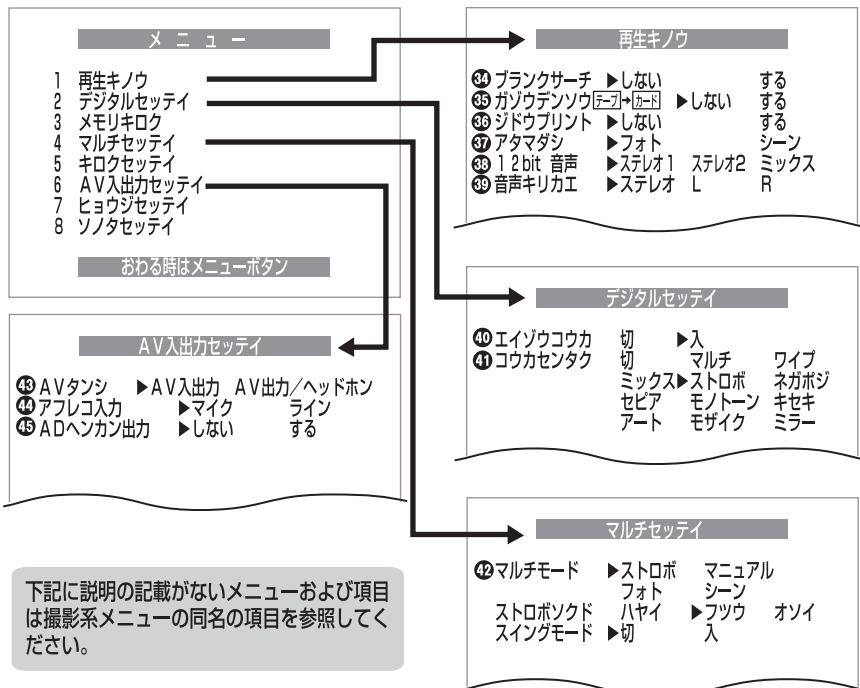
ノーマル：対面撮影時、液晶モニターの映像は左右反転しません。

㉜ 赤目ケイゲン(P37)

ビデオフラッシュ発光時、人物の目が赤く撮影されるのを軽減します。

㉝ デモモード

撮影モードで、カセットが入っていないときに、本機の機能が紹介されます。約10分以上操作しなければ、デモが始まります。何か操作するとデモは中断されます。「スタンバイ / 入」にしてメニュー画面表示を消した場合はすぐにデモが始まります。テープを入れるか、デモモードを「切」にすると、デモモードは停止します。通常は「切」にしてお使いください。

メニュー画面の表示(つづき)

㉞ ブランクサーチ(P56)
テープの未記録部分をさがします。

㉟ ガゾウデンソウ テープ→カード(P100)
テープのフォトショット画像をカードに記録します。

㊱ ジドウプリント(P120)
ビデオプリンターとつないだときに自動プリントします。

㊲ アタマダシ(P58)
頭出し機能を設定します。
フォト ：フォトインデックス信号の入った画像の頭出し(取り込み)
シーン ：場面の頭出し(取り込み)

㊳ 12bit 音声(P112 、146)
12bit音声モードでアフレコしたときの再生音声を選択します。
ステレオ 1 ：元の音声を再生します。
ステレオ 2 ：アフレコ音声を再生します。
ミックス ：元の音声とアフレコ音声を同時に再生します。

㊴ 音声キリカエ(P55、115、119)
音声チャンネルを切り換えます

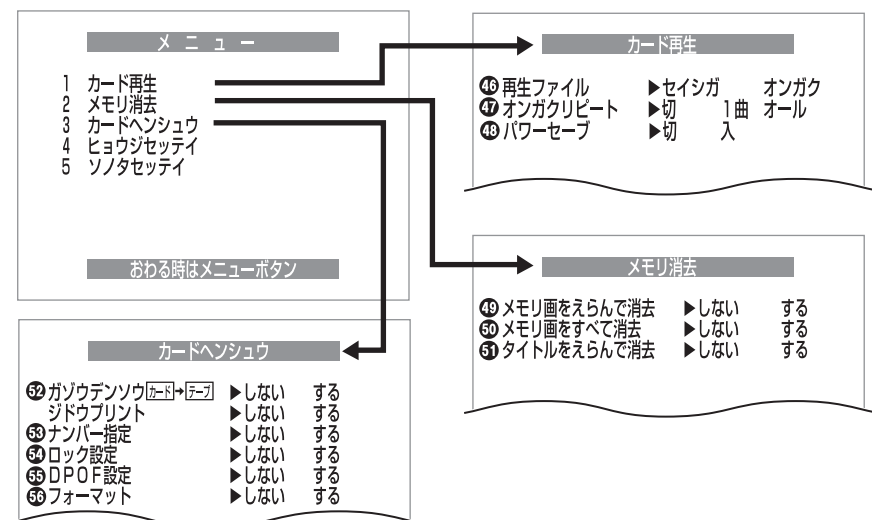
㊵ エイゾウコウカ(P78 ～ 87)
「切」にすると、映像効果を一時解除します。

㊶ コウカセンタク(P78 ～ 87)
映像効果を選択します。

㊷ マルチモード(P80 ～ 87)
マルチモードを選択します。

㊸ AV タンシ(P48、55、114)
AV 入出力端子の入出力を設定します。

㊹ アフレコ入力(P112)
アフレコするときに、音声入力の方法を設定します。

㊺ AD ヘンカン出力(P115)
アナログ信号をデジタル信号に変換して、DV 端子から出力します。

カード再生系メニュー

下記に説明の記載がないメニューおよび項目は撮影系または再生系メニューの同名の項目を参照してください。

㊻再生ファイル(P106)
再生ファイルの種類を選択します。

㊼オンガクリピート(P106)
音楽再生時のリピート再生モードを選択します。

㊽パワーセーブ(P106)
「入」にすると、パワーセーブ機能が働きます。

㊾メモリ画をえらんで消去(P108)
カードの画像を選んで消去します。

㊿メモリ画をすべて消去(P108)
ロックされていないカードの画像をすべて消去します。

51タイトルをえらんで消去(P108)
タイトルを選んで消去します。

52ガゾウデンソウ カード→テープ(P100)
カードのメモリー画像をテープに記録します。

53ナンバー指定(P98)
カードのデータ番号を指定して再生します。

54ロック設定(P106)
カードのメモリー画像をロック(誤消去防止)します。

55DPOF設定(P110)
プリントしたい画像の枚数などをデータとして書き込みます。

56フォーマット(P108)
カードを初期化します。(プリセットタイトルも含めてカード内のすべてのデータが消去されます)

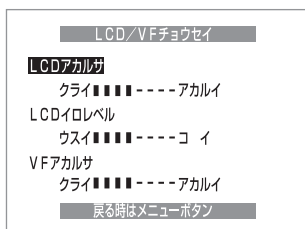
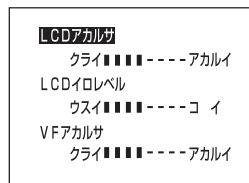
液晶モニター・ファインダーを調整する

「ヒョウジセッテイ」メニューで「LCD/VFチョウセイ」を「する」に設定すると、下図のように 8 段階のバー表示が出ます。

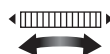
LCD アカルサ
画面の明るさ調整します。
右にするほど明るくなります。

LCD イロレベル
画面の色の濃さを調整します。
右にするほど濃くなります。

VF アカルサ
ファインダーの明るさを調整します。
右にするほど明るくなります。

＊LCD は液晶モニターのことで、Liquid（リキッド） Crystal（クリスタル） Display（ディスプレイ）の略です。また VF はファインダーのことで、View（ビュー） Finder（ファインダー）の略です。

1 押して、調整したい項目を選ぶ

押すごとに、項目が変わります。

2 回して、調整する

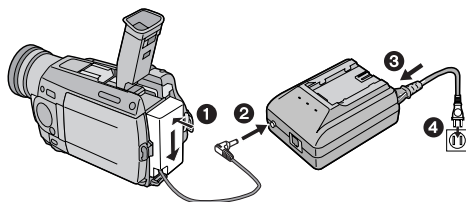
クライ▮▮▮▮---

回すと、バー表示が変わります。

●リモコン使用時は、項目ボタンで選択、設定ボタンで調整します。設定ボタンを押し続けると、バー表示が変わります。

液晶モニター全体を明るくする
「ヒョウジセッテイ」メニューで「LCDバックライト」を「アカルイ」に設定すると、液晶モニターが明るくなります。

液晶モニター、ファインダーの調整内容は、実際に録画される画像には影響しません。

内蔵日付用電池を充電する

年月日、時刻は、内蔵電池を使って記憶させています。電源を入れたときに、「 」表示が出ると、内蔵電池が消耗しています。以下の方法で充電してください。充電完了後、日時を設定してください(右記参照)

1 本機に AC アダプターをつなぐ(P22)

2 本機の電源は「切」にしておく

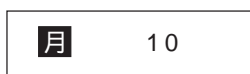
3 約 4 時間、そのままの状態にしておく
内蔵電池が充電されます。

年月日・時刻を合わせる

「ソノタセッテイ」メニューの「日時設定」を「する」に設定すると、以下の画面が表示されます。(P32)

●内蔵時計は誤差が生じますので、撮影前に時間が合っているか確認してください。また「 」表示が出ている場合、内蔵電池を充電後、日時を設定してください。(左記参照)
●年の変わりかた
2000 →2001 →･･･2089 →2000
●時間は 24 時間表示です。

例えば、2001 年 10 月 15 日 12 時 30 分に合わせるには

1 回して、「2001」にする

年 2001

2 押して、月に送る

月 1

3 回して、「10」にする

月 10

4 押して、日に送る

日 1

5 回して、「15」にする

日 15

6 押して、時に送る

時 0

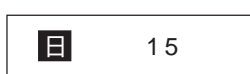
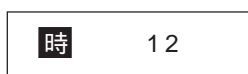
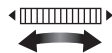
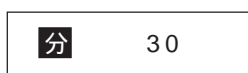
7 回して、「12」にする

時 12

8 押して、分に送る

分 0

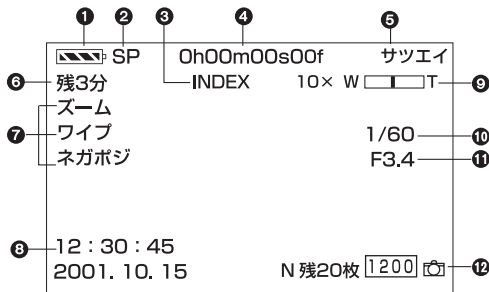
9 回して、「30」にする

分 30

10 日時設定を終わる

メニュー

秒が 0 から始まります。

●もう一度押すとメニューが消えます。

ファインダー・液晶モニターの表示

音楽再生時の表示については、106、107ページをお読みください。

❶ バッテリー残量表示

バッテリーの残量が少なくなるにつれ、
→→→→
と変わります。容量が無くなると、
( )が点滅します。
(ACアダプター使用時に が表示される場合がありますが、問題ありません)

❷ 撮影時間モード表示(P42)

撮影時間モードの表示が出ます。
SP：標準モード
LP：長時間モード

❸ インデックス表示(P59)

INDEX ：シーンインデックス信号記録時に表示が数秒間点滅します。

サーチ番号(P59)

S 1 ：シーンサーチのときに何番目のシーンを頭出しするかを番号表示します。

❹ カウンター・タイムコード表示

カウンター値、メモリー機能、タイムコード値の表示が出ます。

表示の切り換えかた

「ヒョウジセッテイ」メニューの「カウンタモード」設定(P32)によって、表示が変わります。

カウンタ	：0:00.00
カウンタメモリ	：M0:00.00
タイムコード	：0h00m00s00f

❺ 状態表示

サツエイ	：撮影中(P34)
テイシ	：撮影の一時停止中(P34)
▷	：再生(P48) カメラサーチ(送り)(P56)
◁	：カメラサーチ(戻し)(P56)
▮▮	：静止画再生中(P52)
▷▷	：早送り/早送り再生(P50)
◁◁	：巻戻し/巻戻し再生(P50)
▮▷/◁▮	：スロー再生/逆スロー再生(P52)
▮▮▷/◁▮▮	：正方向コマ送り/逆方向コマ送り(P52)
▷▷▏/▕◁◁	：正方向頭出し/逆方向頭出し(P58)
チェック	：撮影の確認中(P34)
アフレコ▷	：アフレコ中(P112)
アフレコ▮▮	：アフレコ一時停止中(P112)
フォト	：テープフォトショット撮影中(P36)
ブランク	：ブランクサーチ(P56)
2×▷▷	：可変速サーチ中(P50)
R▷	：リピート再生中(P49)
●	：録画中(P114、118)
スライド▷	：スライド再生中(P96)
スライド▮▮	：スライド再生一時停止中(P96)

❻ テープ残量表示

テープ残量を分単位で表示します。(3分未満は点滅表示)

- ●15秒以下の撮影では残量表示が出ないか、または正確に出ないことがあります。
- ●実際のテープ残量より2〜3分少ない表示が出る場合があります。

❼ デジタルズーム表示(P40)

デジタルズーム機能を設定すると表示が出ます。

デジタルキノウ表示(P68)

撮影モードのときにデジタル機能を設定すると表示が出ます。

デジタルコウカ表示(P68)
撮影モードのときにデジタル効果を設定すると表示が出ます。
再生ズーム表示(P88)
再生ズーム時に倍率と表示が出ます。
エイゾウコウカ表示(P78)
再生モードのときに映像効果を設定すると表示が出ます。

❽ 年月日、時刻表示(P49)
時間は 24 時間表示です。

❾ ズーム倍率表示(P40)
ズーム操作をするとズームの倍率表示とバー表示が出ます。
マニュアル表示(P60 ～ 67)
MNL ： マニュアル時に「MNL 」が出ます。オート時は表示しません。
手ぶれ補正表示(P44)
((手))：「カメラキノウ」メニューで「テブレホセイ」を「入」に設定すると、手ぶれ補正の表示が出ます。
アフレコ入力表示(P112)
マイク / ライン：
アフレコ時の音声入力モードの表示が出ます。
音声記録モード表示(P112、146)
12bit/16bit：
再生時には録音されたときの音声記録モードの表示が出ます。
ジドウプリント表示(P120)
自動プリント機能使用時に表示が出ます。

❿ 電子シャッター速度表示(P64)
電子シャッター機能で、シャッター速度を設定すると表示が出ます。

⓫ F 値表示(P64)
絞り値を調整すると絞り値(F 値)が表示されます。
ゲイン表示(P64)
絞り値(F 値)が開放「OP ＋ 0dB」以降になると、ゲイン調整になります。

⓬ カード(メモリー)画像表示(P90 ～ 110)
残 20 枚　：カードフォトショットの残り枚数(残り 0 枚で赤色点滅となります)
E　：エコノミー画質モード
N　：ノーマル画質モード
F　：ファイン画質モード

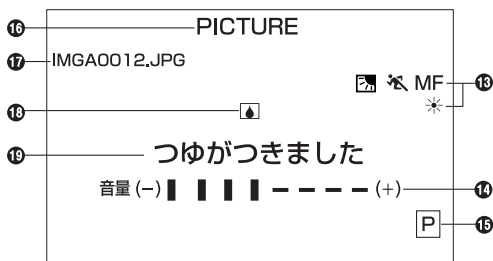
1200　：1200x900 の画像サイズ(メガピクセル)
640　：640x480 の画像サイズ
＊本機で撮影していない画像の場合は、水平方向画素数によって以下のようなサイズ表示になります。

水平方向画素数

UXGA　：1600 以上のとき
SXGA　：1280 から 1600 のとき
XGA　：1024 から 1280 のとき
SVGA　：800 から 1024 のとき
640　：640 から 800 のとき
●640 未満のときは、サイズは表示されません。

(青)　：カードフォトショットモード
(赤)　：カードフォトショット中
(赤)　：カードなし
(緑)　：カードにアクセス中

No.00　：画像番号 / 曲番号
00 枚　：DPOF 設定枚数
●　：DPOF 設定済み(1 枚以上に設定)
　：ロック設定表示

ファインダー・液晶モニターの表示(つづき)

音楽再生時の表示については、106、107ページをお読みください。

⑬ マニュアルフォーカス表示(P60)

マニュアルフォーカス時に「MF」表示が出ます。オート時は表示しません。

白バランス表示(P62)

白バランスを設定すると、以下の表示が出ます。

- ：屋内(白熱電球)モード
- ：屋外モード
- ：蛍光灯モード
- ：セットモード
- AWB ：オートモード

AE モード表示(P66)

AE モードを選択すると表示が出ます。

- ：スポーツモード
- ：ポートレートモード
- ：ローライトモード
- ：スポットライトモード
- ：サーフ＆スノーモード

逆光補正表示(P60)

：逆光補正機能が働いていると表示が出ます。

⑭ 音量表示(P48)

内蔵スピーカーの音量を調整するときに表示が出ます。
再生時に音量表示バーが出るまでマルチプッシュダイヤルを押します。ダイヤルを回して音量を調整します。

⑮ プログレッシブ表示(P38)

プログレッシブ機能が使えるときに表示されます。

⑯ ファイルの種類表示

カードの再生ファイルの種類が表示されます。

- PICTURE ：静止画のメモリー画像
- TITLE ：タイトル画像
- MUSIC ：音楽データ

⑰ ファイル名表示

再生しているファイルの名前が表示されます。

⑱ 確認表示

以下のマークが点滅または点灯しているときは、ビデオカメラの状態を確認してください。

- ：つゆつきが起こったとき(P142)
- ：誤消去防止つまみが「SAVE」側になっているカセットを入れたとき(P25)
- ：内蔵日付用電池が消耗したとき(P132)
- カセットなし ：カセットが入っていないとき
- ヘッドよごれ ：ヘッドがよごれているとき(P142)
- テープおわり ：撮影中にテープが終端になったとき
- リモコン ：リモコンの設定が合っていないとき(P29)

ミラーモードの対面撮影時には、これらの表示は出ません。バッテリー残量表示、撮影中の「●」表示、撮影の一時停止中の「❚❚」、カードフォトショットマーク「」のみ表示されます。

⑲ 文章表示

確認内容を文章で表示します。

「つゆがつきました」
「カセットを取りだしてください」が交互点滅
つゆつきが起こっています。カセットを取り出してしばらくお待ちください。(P142)

「バッテリーを取りかえてください」
バッテリー容量がなくなってます。十分に充電したバッテリーと交換してください。(P20)

「カセットを入れてください」
カセットが入っていません。(P24)
「カセットを取りかえてください」
テープの終端です。
「このカセットでは撮影できません」
誤消去防止つまみが「SAVE」側になっているカセットを入れて、撮影操作をしています。(P25)
「このカセットでは録画できません」
誤消去防止つまみが「SAVE」側になっているカセットを入れて、アフレコや録画(デジタルダビング)操作をしています。(P112、114、118)
「リモコンのセッテイをカクニンしてください」
リモコンの設定が合っていません。(P29)
● 電源を入れて、最初のリモコン操作のときだけ表示されます。
「再生できません」
再生不能のテープかメモリー画像です。(P48、96)または、ヘッドがよごれています。(P142)
「このカセットは使えません」
未対応のテープです。
「LP 記録部のため録画できません」
LP モードで撮影したテープに、アフレコ操作をしています。(P112、149)
「コピーガードがありただしく録画できません」
著作権保護の信号(コピーガード)が入っている映像を録画しています。(P114、118)
「カードのため撮影できません」
「テープのため記録できません」
テープ/カード選択スイッチの位置を確認してください。
「プリンターエラー」
プリンターの接続が正しくないか、プリンター側に問題があります。(P120)
「このカードは使えません」
未対応のカードです。
「カードを入れてください」
カードが入っていません。(P90)
「カードのフタをとじてください」
カード扉が開いています。カード扉を閉じてください。(P90)
「タイトルがありません」
タイトル画像が記録されていません。(P102)
「メモリ記録はできません」
カードのメモリーが不足しています。オリジナルタイトルやメモリー画像を消すか、新しいカードを入れてください。
「メモリ記録がありません」
カードにメモリー画像が記録されていません。
● メモリー画像が記録されているのにこの表示が出る場合は、カードの状態が不安定になっていることが考えられます。一度電源を入れ直してください。
「640 モードでタイトルを再生してください」
メガピクセル画像にタイトルインの操作をしています。(P102)
「ワイド画像は記録できません」
S1 信号(16:9)の映像をカードフォトショットしています。(P94)
「記録できません」
記録可能枚数が 0 枚になっています。
「音楽データがありません」
カードに音楽データが入っていません。(P106)
「このカードは音楽再生できません」
本機が認証できない音楽ファイルが入っています。(P106)
「消去できません」
ロック設定されている画像に消去操作をしています。(P106)
「カードがロックされています」
SD メモリーカードの書き込み禁止スイッチが「LOCK」側になっています。(P107)
「ヘッドをクリーニングしてください」
ヘッドがよごれています。ヘッドをクリーニングしてください。(P142)
「ライン入力記録中はメモリー記録できません」
録画中です。録画を停止してからカードフォトショットしてください。(P114)

撮影のテクニックガイド

照明について

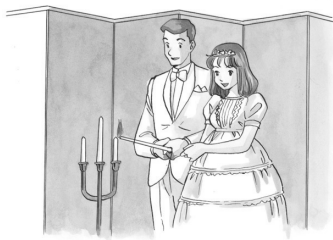
●なるべく太陽を背にして撮影してください。逆光では被写体が暗く撮影されます。
●海辺やスキー場など周囲が明るすぎ、人物が暗いときはAE 設定を「サーフ&スノー」(P66)にして撮影してください。また全体が明るすぎるときはND フィルター /VW-LND37(別売)を使うのも効果的です。
●屋内で撮影するときは屋内の照明に合わせた白バランスモード(P62)を選んでください。

撮影場面に合わせた設定例

以下の設定はあくまでめやすです。光源や照明、天候、被写体の色や動きによってはうまく撮れないことがあります。
大切な撮影の前にはどの設定でどのように撮れるか試しておきましょう。

◆披露宴、舞台、発表会の撮影

白バランス：場面ごとに白バランス設定(P62)

スポットライトが当たっている場所ではAE 設定(P66)を「スポットライト」にすることをおすすめします。

◆運動会の撮影

白バランス：オートモード
フォーカス：マニュアル
近距離でお子様の動きが速い場合は、オートフォーカスでは、ピントが合わなくなることがあります。マニュアルフォーカスで撮ることをおすすめします。(P60)

◆夜景や花火の撮影

白バランス：屋外モード
フォーカス：マニュアル

◆ゴルフスイングのフォームなど、動きの速いシーンの撮影

AE 設定：スポーツ
白バランス：オートモード
フォーカス：マニュアル

◆動きの速い場面を撮影するときのめやすとなるシャッター速度

バレーボールの試合の撮影：
1/100 ～1/350

ジェットコースター撮影：
1/500 ～1/1000

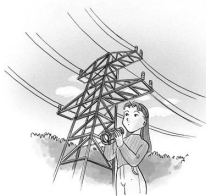
ゴルフやテニスのスイング撮影：
1/500 ～1/2000

使用上のお願い

ビデオカメラについて

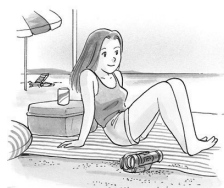
磁気が発生するところや電磁波が発生するところ(テレビやゲーム機など)からはできるだけ離れて使う

●テレビの上や近くで操作すると、電磁波の影響で画像や音声の乱れることがあります。
●スピーカーや大型モーターなどが出す強い磁気により、記録が損なわれたり、画像がゆがんだりします。
●マイコンを含めたデジタル回路の出す電磁波により、お互いに影響をおよぼし、画像や音声の乱れることがあります。
●本機が影響を受け、正常に動作しないときは、バッテリーや AC アダプターを一度外してからあらためて接続し、電源を入れ直してください。

電波塔や高圧線が近くにあるときは、なるべく使わない

●近くで撮ると、電波や高電圧の影響で撮影映像や音声が悪くなることがあります。

周囲で殺虫剤や揮発性のものを使うときは、本機にかけない

●かかると、外装ケースが変質したり、塗装がはげるおそれがあります。
●ゴム製品やビニール製品などを長期間接触させたままにしないでください。

浜辺など砂やほこりの多いところで使うときは、内部や端子部に砂やほこりが入らないようにする
また海水などでぬらさないようにする

●砂やほこりは、本機やテープの故障につながります。(カセット、カードの出し入れ時はお気を付けください)
●万一海水がかかったときは、よく絞った布でふき、その後かわいた布でふいてください。

本機を持ち運びするときは、落としたり、ぶつけたりしない

●強い衝撃が加わると、外装ケースがこわれ、故障します。

お手入れの際は、ベンジンやシンナーなどの溶剤を使わない

●お手入れの際は、バッテリーを外しておくか、電源プラグをコンセントから抜いておきます。
●溶剤を使うと外装ケースが変質したり、塗装のはげるおそれがあります。
●本機は、やわらかい、かわいた布でほこりをふいてください。よごれがひどいときは、台所用洗剤を水でうすめ、布をひたし、よく絞ってよごれをふき、かわいた布で仕上げてください。
●化学ぞうきんをご使用の場合は、その注意書に従ってください。

監視用など業務用として使わない

●長時間使うと、内部に熱がこもり故障するおそれがあります。
●**本機は業務用ではありません。**

使用上のお願い(つづき)

バッテリーについて

本機で使用するバッテリーは、充電式リチウムイオン電池です。このバッテリーは温度や湿度の影響を受けやすく、温度が高くなる、または、低くなるほど影響が大きくなります。温度の低いところでは、満充電表示にならない場合や使用開始後5分くらいでバッテリー警告表示が出る場合があります。また高温になると保護機能が働き、使用できない場合もあります。

使用後は、必ずバッテリーを外す

●付けたままにしておくと、ビデオカメラの電源が「切」であっても、絶えず微少電流が流れています。これをそのままにしておくと、過放電になり、充電してもバッテリーが使用できなくなるおそれがあります。

出かけるときは余分のバッテリーを準備する

●撮影したい時間の3～4倍のバッテリーを準備してください。スキー場などの寒冷地では撮影できる時間がより短くなります。

●旅行をされるときは、現地でバッテリーを充電できるようにACアダプターも忘れずに準備してください。海外で使う場合は、変換プラグも必要です。(P144)

バッテリーの端子部に付いたほこりなどは取る

●バッテリーを誤って落下させてしまった場合、端子部が変形していないか確認してください。端子部が変形したまま本体やACアダプターに付けると、本体やACアダプター側をいためます。

使用後は、必ずカセットを取り出し、バッテリーを外す、または、電源プラグをコンセントから抜く

●バッテリーは涼しくて湿気がなく、なるべく温度が一定のところに保管してください。(推奨温度：15℃～25℃、推奨湿度：40%～60%です)

●極端に低温、高温になるところで保管すると、バッテリーの寿命が短くなることがあります。

●高温・多湿、油煙の多いところでは、端子がさびたりして故障の原因となります。

●長期間保管する場合、1年に1回は充電し、ビデオカメラで充電容量を使いきってから再保管することをおすすめします。

不要(寿命になったなど)バッテリーは火中などに投入しない

●**加熱や火中などに投入すると、破裂するおそれがあります。**

●バッテリーには、寿命があります。

不要になった電池(バッテリー)は、貴重な資源を守るために、廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

使用済み充電式電池(バッテリー)の届け先

●最寄りの充電式電池リサイクル協力店へ詳しくは社団法人電池工業会にご確認ください。電話：03-3434-0261

●または、お買い上げの販売店へ

使用済み充電式電池(バッテリー)の取り扱い

●端子部をセロハンテープなどでおおい、リサイクル箱へ

●分解しないでリサイクル箱へ

カセットについて

使用後は、必ずカセットを始端まで巻き戻し、取り出して保管する

●カセットをビデオカメラに入れたままにしたり、テープを途中で止めた状態で半年以上(保管状態により異なります)置いておくとテープがたるみ、いたみます。

●半年に一度テープを巻き直ししてください。テープを一年以上巻いたままにしておくと、温度や湿度による膨張、収縮などでゆがみが起きることがあります。またテープどうしがはりついてしまうことがあります。

●カセットはケースに入れ、立てて保管してください。

●ほこりや直射日光(紫外線)、湿気などでテープをいためます。このようなテープを使用すると、本機やヘッドをいためるおそれがあります。必ずケースに入れてください。

カセットに強い磁気を近づけない

●磁石を使った器具(磁気ネックレスやおもちゃなど)は、思ったより磁気が強く、大切な撮影内容を消したり、ノイズを増やす原因となります。

カードについて

動作中ランプが点灯中(カードにアクセス中)は、カード扉を開けたり、カードを引き抜いたり、電源/操作モード切換えスイッチを操作しない、また振動や衝撃を与えない

カードを高温になるところや直射日光のあたるところ、電磁波や静電気の発生しやすいところに放置しない、また、折り曲げたり、落としたり、強い振動をあたえない

●カードが破壊されるおそれがあります。また、カードの内容が破壊されたり、消失するおそれがあります。

使用後は、必ずカードを取り出して、保管する

●使用後や保管時、持ち運びの時は付属の収納ケースに入れてください。

●カード裏の接続端子部にごみや水、異物などを付着させないでください。また、手などで触れないでください。

液晶モニターについて

●液晶面がよごれたときは、柔らかい乾いた布でふいてください。

●温度差が激しいところでは、液晶モニターにつゆが付くことがあります。やわらかい、かわいた布でふいてください。

●寒冷地などで本体が冷えきっている場合、電源を入れた直後は、液晶モニターが通常より少し暗くなります。内部の温度が上がると通常の明るさに戻ります。

●液晶モニターは、精密度の高い技術で作られていますが、液晶モニターの画面上に黒い点が現れたり、常時点灯（赤や青、緑の点）することがあります。これは故障ではありません。
【液晶モニターの画素については99.99%以上の高精度管理をしておりますが、0.01%以下で画素欠けや常時点灯するものがあります】

ファインダーについて

●ファインダーは、精密度の高い技術で作られていますが、液晶モニターの画面上に黒い点が現れたり、常時点灯（赤や青、緑の点）することがあります。これは故障ではありません。
【ファインダーの画素については99.99%以上の高精度管理をしておりますが、0.01%以下で画素欠けや常時点灯するものがあります】

定期点検のお願い

美しい画像をご覧いただくために、使用環境(温度、湿度、ほこり)などによって異なりますが、およそ使用1000時間をめやすに清掃、ヘッドなどの摩耗部品を交換されることをおすすめします。
ヘッドのよごれについては142ページをお読みください。

つゆつきについて

夏に冷蔵庫から出したビンなどに、しばらくすると水滴が付きます。この現象が本機やカセット(テープ)に起こった場合が「つゆつき」です。
つゆつきが起こっていると撮影できなくなります。つゆつきを起こさない注意と、起こったときの注意を正しく守ってください。

つゆつきが起こる原因は

下記のように温度差、湿度差があると起こります。

- ●寒い屋外から暖かい屋内に持ち込んだとき。
- ●冷房のきいた車などから車外へ出したとき
- ●寒い部屋を急に暖房したとき
- ●エアコンなどの冷風がデジタルビデオカメラに直接当たっていたとき
- ●湯気がたち込めるなど湿度の高いところ

つゆつきが起こった場合の処置

つゆつきが起こっているときに電源を入れると、ファインダーや液晶モニターにつゆつきマークが点滅します。約1分間経過すると、自動的に電源が切れます。以下の処置をしてください。

1 カセットを出す

その他の機能は働きません。つゆつきの状態によっては、カセットが出せない場合があります。この場合は、2〜3時間待ってから出してください。

2 2〜3時間後、電源を入れて、つゆつき表示が消えているかどうかを確かめる

消えていても念のために1時間ほど待ってから使ってください。

- ●つゆつきが始まってから10〜15分間はつゆつき表示が出ない場合があります。
- ●特に温度が低い寒冷地では、つゆが凍結し、しもになることがあります。このような場合、つゆつき表示が出るまでさらに2〜3時間ほどかかることがあります。

レンズがくもっているときの処置のしかた

電源スイッチを「切」にし、1時間ほどそのままにしておいてください。周囲の温度になじむとくもりが自然に取れます。

ヘッドよごれについて

ヘッドがよごれていると上のような映像になります。

さらによごれると画面全体が青一色になります。

- ●ヘッド(テープが密着する部分)がよごれていると、撮影時に「ヘッドをクリーニングしてください」が表示されます。また、再生時に部分的にモザイク状のノイズが出たり画面全体が青一色になります。(上図参照)
- ●よごれがひどくなると、正常に撮影や再生ができなくなりますので、付属のデジタルビデオ用ヘッドクリーナーでヘッドをクリーニングしてください。
- ●別途、デジタルビデオ用ヘッドクリーナーをお買い求めいただく場合はサービスルート扱いのデジタルビデオ用ヘッドクリーナー(VFK1449S)をお求めいただくことをおすすめいたします。ヘッドクリーナーのご使用方法についてはヘッドクリーナーの説明書をお読みください。
- ●ヘッドをクリーニングしても、再びヘッドよごれが発生した場合は、テープに起因している可能性がありますので、このテープのご使用を避けてください。パナソニック製テープのご使用をおすすめします。

ヘッドよごれが発生する原因

- ●高温・多湿な環境
- ●長時間の使用
- ●テープの傷
- ●空気中のほこり

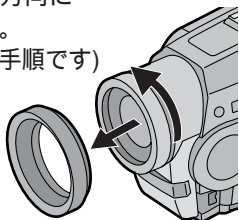
その他

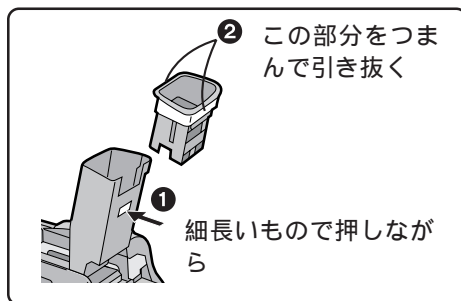
レンズフードについて

●テレコンバージョンレンズVW-LT3714M(別売)やワイドコンバージョンレンズVW-LW3707M(別売)、MCプロテクターVW-LMC37(別売)、NDフィルターVW-LND37(別売)を付けるときは、レンズフードを外してから取り付けてください。

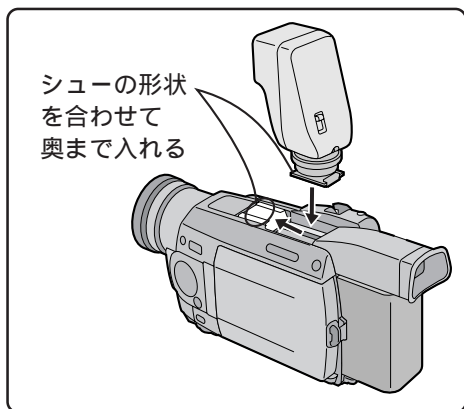
●当社製のMCプロテクターVW-LMC37、NDフィルターVW-LND37のどちらか1枚をつけた上にレンズフードを取り付けることができますが、メガピクセル静止画記録時にズームをW側にすると、画面の四隅が暗く(ケラレ)なる場合があります。

●NDフィルターとテレコンバージョンレンズなどを2枚重ねて取り付けた場合、ズームをW側にすると、四隅が暗く(ケラレ)なる場合があります。

●レンズフードの上には、別のレンズなどを付けることができない構造になっていますので、何も付けないでください。

ファインダーのお手入れについて

ファインダーの中のごみを取りたいときは、ファインダーを外して、ごみを取り除いてください。ごみが取りにくいときは、水で少し湿らせた綿棒などで取り除いてください。その後、かわいた綿棒などでふいてください。

ホットシューについて

ビデオフラッシュやステレオマイクロホンを付けるところです。ホットシュー対応のアクセサリー使用時は、電源などを本機から供給します。シューカバーを外してお使いください。

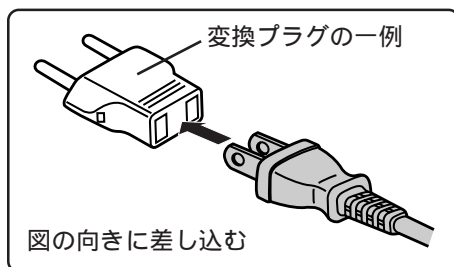
●ステレオズームマイクロホンVW-VMS1(別売)を本機に付けるときは、ミニシステムⒺ端子変換アダプターVW-CE1が必要です。

海外で使う

撮ったものを海外で見るには

テレビに接続して見る場合、日本と同じカラーテレビ方式(NTSC)の映像／音声入力端子付テレビと接続コードなどが必要です。
日本と同じ NTSC 方式を採用している国、地域

- アメリカ合衆国
- アンチグア･バーブーダ
- イエメン（一部地域）
- 英領バーミューダ諸島
- エクアドル
- エルサルバドル
- ガイアナ
- カナダ
- キューバ
- グァテマラ
- グァム島
- グレナダ
- コスタリカ
- コロンビア
- ジャマイカ
- スリナム
- セントクリストファー･ネイビス
- セントビンセント･グレナディーン諸島
- セントルシア
- 大韓民国
- 台湾
- チリ
- ドミニカ共和国
- ドミニカ国
- トリニダード･トバゴ
- ニカラグア
- ハイチ
- パナマ
- バハマ
- バルバドス
- フィジー
- フィリピン
- プエルトリコ
- 米領サモア
- ベトナム（一部地域）
- ベネズエラ
- ベリーズ
- ペルー
- ボリビア
- ホンジュラス
- マーシャル諸島
- マリアナ諸島
- ミクロネシア連邦
- ミャンマー
- メキシコ

AC アダプター(別売)を海外で使用するには

AC アダプターは、自動で全世界の電源電圧(100V、120V、220V、240V)、電源周波数(50Hz、60Hz)に切り換わるように設計されています。ただし、国、地域によって電源コンセントの形状は異なります。海外旅行をされる場合は、下表を参考に旅行先のプラグ形状を確かめ、その国、地域に合ったプラグを準備してください。変換プラグは、お買い上げの販売店にご相談のうえ、お求めください。充電のしかたは、国内と同じです。

ACアダプターは、全世界の電源電圧(100V、120V、220V、240V)、電源周波数(50Hz、60Hz)でご使用いただけるように設計しております。(市販の変圧器などを使用すると、故障するおそれがあります)

海外の電源コンセントの形状と変換プラグ一覧

タイプ	A	B	BF	C	S
形状					
変換プラグ	不要です				

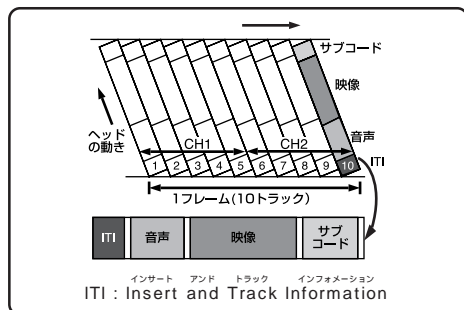
本機の保証書は、日本国内のみ有効です。万一、海外で故障した場合の現地でのアフターサービスについてはご容赦ください。

主な国、地域の代表的な電源コンセント形状

北米					
カナダ	A	アメリカ合衆国	A		
ヨーロッパ・旧ソ連地域					
アイスランド	C	ノルウェー	C	アイルランド	C
ハンガリー	C	イギリス	B.BF	フィンランド	C
イタリア	C	フランス	C	オーストリア	C
ベルギー	C	ギリシャ	C	ポーランド	B.C
オランダ	C	ポルトガル	B.C	スイス	B.C
ルーマニア	C	スウェーデン	C	ロシア	C
スペイン	A.C	ウクライナ	C	デンマーク	C
ベラルーシ	C	ドイツ	C	カザフスタン	C
アジア					
インド	B.C	モルジブ	B	インドネシア	B.C
バングラデシュ	C	シンガポール	B.BF	フィリピン	A.C.S
タイ	A.BF.C	ベトナム	A.C	大韓民国	A.B.C
中華人民共和国	A.B.BF.C.S	スリランカ	B	マカオ特別行政区	B.C
香港特別行政区	B.BF	マレーシア	B.BF.C	ネパール	C
モンゴル	C	パキスタン	B.C	台湾	A
オセアニア					
オーストラリア	S	トンガ	S	グァム島	A
ニュージーランド	S	タヒチ	C	フィジー	S
中南米					
アルゼンチン	BF.C.S	バハマ	A	コロンビア	A
プエルトリコ	A	ジャマイカ	A	ブラジル	A.C
チリ	B.C	ベネズエラ	A	ハイチ	A
ペルー	A.C	パナマ	A	メキシコ	A
中東					
イスラエル	C	クウェート	B.C	イラン	C
ヨルダン	B.BF				
アフリカ					
アルジェリア	A.B.BF	ザンビア	B.BF	エジプト	B.BF.C
タンザニア	B.BF	カナリア諸島	C	南アフリカ共和国	B.C
ギニア	C	モザンビーク	C	ケニア	B.C
モロッコ	C				

用語解説

デジタルビデオ

デジタルビデオは、映像や音声をデジタル信号に変換し、テープに記録します。デジタル信号で記録すると画質や音質の劣化の少ない記録・再生が可能になります。

特長

●高解像度、高 S/N 比
●色のにじみが少ない(広帯域)、安定した画面
●ダビング劣化が少ない
● PCM(ピーシーエム)音声
● LP モードでも画質劣化しない
●タイムコード編集

S-VHS (VHS)カセットとの互換性について

デジタルビデオは、デジタル信号を記録しているため、アナログ信号を記録している S-VHSビデオやVHSビデオとは互換性がありません。

出力信号について

AV 入出力端子からの信号は、従来の信号と同じ信号なので、テレビやビデオで再生画を見ることができます。

入力信号について

AV入出力端子にアナログ信号(従来のテレビやビデオの信号)を入力することができます。また入力されたアナログ信号は本機でデジタル信号で録画したり、デジタル信号に変換して DV 端子から出力することができます。アナログ信号を記録したものを再生し、それを他の機器に取り込んだ場合、画像の左右に黒い帯が出る場合があります。

PCM(ピーシーエム)音声について

本機の音声サンプリング周波数は、
● 16bit 48kHz 2 トラック
● 12bit 32kHz 4 トラック
の 2 種類を選択して記録することができます。
16bit 48kHz 2 トラックでは、高音質で記録することができます。
アフレコする場合に撮影時の音声を残したいときは12bit 32kHz 4トラックで撮影してください。16bit 48kHz 2 トラックでアフレコすると撮影時の音声は消去されます。

サブコードについて

デジタルビデオの記録方式は、テープ上にサブコードという領域を確保し使用することができます。(左上図参照)
本機では、このサブコード領域に、
●タイムコード
●撮影時の年月日／時刻
●インデックス信号
などを記録しています。

オートフォーカス

オートフォーカス機能はレンズを自動的に前後に移動させ、ピントを合わせています。オートフォーカスは、以下のような特性があります。

●被写体の縦の線がもっともはっきり見えるように調整する
●よりコントラストの強いものに焦点を合わそうとする
●画面の中央部にしか焦点が合わない

このような特性のため、次のようなシーンではオートフォーカスはうまく働きません。マニュアルフォーカス(P60)で撮影してください。

❶遠くと近くのものを撮る

画面の中央に焦点が合うため、近くのものを撮ると、背景にピントが合いにくくなります。
遠くの山を背景に人物を撮る場合、両方に焦点を合わせることはできません。

❷よごれたガラスの向こうのものを撮る

よごれたガラスにピントが合ってしまうので、ガラスの向こう側のものに焦点が合いにくくなります。また、車の往来が激しい道路の向こう側を撮る場合も、横切った車にピントが合ってしまうことがあります。

❸キラキラと光るものが周りにある

キラキラ光るものに焦点が合ってしまうので、撮りたいものにピントが合いにくくなります。
海辺、夜景、花火、特殊なライトが輝いているところなどではピントがぼけることがあります。

❹暗い場所を撮る

レンズに入ってくる光の情報が少なくなるため、ピントが合いにくくなります。

❺動きの速いものを撮る

機械的にレンズを動かしているため、速い動きには追いつけなくなります。
例えば、激しく動き回る子どもを撮るときはピントがぼけることがあります。

❻コントラストの少ないものを撮る

コントラストの強いものや縦の線に焦点が合いやすいので、白い壁などコントラストや縦の線がないものには、焦点が合いにくくなります。

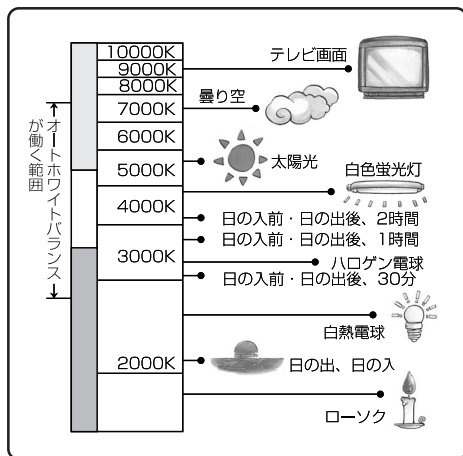
白バランス(ホワイトバランス)

ビデオカメラで撮影すると光源の影響を受け青っぽく撮れたり、赤っぽく撮れたりすることがあります。このような現象が起こらないようにホワイトバランスという調整をします。

ホワイトバランスとは、様々な光源の下での白い色を決めることです。太陽の光の下での白い色とはどれなのか、蛍光灯の光の下での白い色とはどれなのかを認識することによって、その他の色のバランスを調整します。白色はすべての色(光)の基本になるので、基準となる白色を認識することができれば、自然な色合いで撮ることが可能になります。

用語解説（つづき）

オートホワイトバランス

本機には数種類の光源の下での白色情報があらかじめ記憶されています。撮影時の光源がどのようなものか、白バランスセンサー(P15)とレンズからの情報によって判断し、記憶されているホワイトバランスの中から最も近いものを選びます。この機能のことをオートホワイトバランスといいます。
しかし、数種類の光源での白色情報しか記憶させていないので、それ以外の光源の下での撮影では、ホワイトバランスが正常に働きません。

オートホワイトバランスが働く範囲は、上図の通りです。範囲外での撮影では、映像が赤っぽくなったり、青っぽくなったりします。また、上図の範囲内にあっても、光源が複数の場合は、オートホワイトバランスが正常に働かない場合があります。その場合、白バランス(P62)を調整してください。

タイムコード

タイムコードとは、撮影(録画)したテープ上に記録される時間データのことで、時、分、秒、フレーム(１秒は約30フレーム)で表されます。タイムコードは撮影と同時に記録されているので、撮影した映像のテープ上での絶対位置を知ることができます。

・新しい(何も記録されていない)カセットを入れると、タイムコードはゼロから始まります。
・途中まで記録されているカセットを入れると、そこから続けてタイムコードが記録されます。(カセットそう入時はゼロの表示が出ることがありますが、撮影を始めると続きの値から表示します)

ただし、テープの途中に無記録部分があると、タイムコードは再びゼロから記録され始めます。その結果、テープを後で編集する場合に誤動作の原因となります。
したがって本機で撮影するときは、記録部分がとぎれないように、カメラサーチ(P56)やブランクサーチ(P56)をすることをおすすめします。

●タイムコードは、リセットできません。
●通常再生時以外では、タイムコードが表示されない(または、不正確になる)ことがあります。
●タイムコードに対応した編集コントローラーを使って編集をすると、正確な編集が可能になります。

カウンター表示
撮影や再生の経過時間を表示するためのものです。
カウンター表示は、自由にリセット(カウンター表示を0:00.00に戻す)することができます。したがって、撮影や再生を始めた位置でリセットしておけば、その時点からの経過時間を表示することができます。しかしタイムコードのように映像のテープ上での絶対位置を知ることはできません。

カウンターをリセットする方法には2種類あります:
● 「ヒョウジセッテイ」メニューの「カウンタリセット」を「する」に設定する(P32)
● リモコンのリセットボタンを押す

メモリー機能
メモリー機能を使うと、以下のことができます。

テープを任意の位置まで巻き戻す(早送りする)
❶ **「ヒョウジセッテイ」メニューの「カウンタモード」を「カウンタメモリ」にする(P32)**
❷ **後で戻りたい場面で、「ヒョウジセッテイ」メニューの「カウンタリセット」を「する」にする**
❸ **再生や撮影をする**
❹ **電源スイッチを「再生」にする**
❺ **巻戻しまたは早送り操作をする**
カウンターをリセットした位置付近で自動的にテープ走行が停止します。

アフレコ時に、自動的に編集を停止させる
❶ **アフレコを終了させたいところで静止画再生する**
❷ **「ヒョウジセッテイ」メニューの「カウンタモード」を「カウンタメモリ」にする**
❸ **「ヒョウジセッテイ」メニューの「カウンタリセット」を「する」にする**
❹ **アフレコを開始したい位置まで戻り、静止画再生する**
❺ **アフレコを開始するカウンターをリセットした位置で、自動的にアフレコが停止します。**

LPモード
LPモード(P42)では、SP(標準)モードの1.5倍の時間記録することができます。
デジタルビデオでは、LPモードで録画しても画質は劣化しませんが、以下のことにお気を付けください。
●他のデジタルビデオ機器で再生すると、モザイク状のノイズが出る場合があります。
●LPモードのないデジタルビデオ機器では、正常な再生とはなりません。
●アフレコ(P112)はできません。
●本機の性能を十分に生かすために当社の「LPモード」表示テープを使用することをおすすめします。

用語解説（つづき）

プログレッシブ機能

フォトショット撮影をしたときや、デジタル静止画機能を使ったときに、よりきれいな静止画(フレーム静止画)を撮る機能です。

通常、

単板式ＣＣＤビデオカメラの静止画は、フィールド静止画と呼ばれるもので、フレーム静止画に比べると、垂直解像度が約半分になり、きめ細かい静止画にはなりません。

(2つのフィールドで1フレームになります)

ビデオカメラの場合、動いている物を撮影しますので、通常は2つのフィールドに記録される画像は、それぞれ別のものが記録されることになります。
そのまま2つのフィールドの映像を、フレーム単位の静止画にすると、ずれのある画像になります。

そこで、

本機のフレーム静止画機能は、ずれのない高画質な静止画を撮影するために、
・ 絞りをシャッター動作させ、
・ フィールドメモリーを2個搭載し、制御しています。

実際には、

1 フォトショットボタンを押す
(または静止画ボタンを押す)
2 瞬間に、絞りを閉じ、次の映像がレンズから入ってこないようにする
3 同じ画像データを2つのフィールドメモリーに記憶するといった動作をします。

その成果として、

2つのフィールドにそれぞれ同じ映像を記録し、フレーム映像にするのでフィールド画像に比べると約1.5倍の解像度になり、しかもずれがありません。

●カードフォトショット時にプログレッシブ機能を使っても画質に影響はありません。
●プログレッシブ機能を使ってテープフォトショットした静止画をカードに画像伝送すると、画質が劣化する場合があります。

メモリー画像について

●記録可能枚数はおおよそのめやすです。細かいものや複雑な画像を記録すると、カードの消費メモリーが多くなるため、記録可能枚数は少なくなります。(枚数はめやすです。1枚記録したときに、残り枚数が2枚減ることや1枚も減らないことがあります)
●カード画像の画質を「エコノミー」に設定すると、シーンによってモザイク状になることがあります。

音楽再生について

●本機は、「MPEG-2 AAC」形式のデータを再生することができます。
本機で音楽を再生するためには、専用ソフトウェアを使ってSDメモリーカードにチェックアウト(音楽データを書き込むこと）する必要があります。(マルチメディアカードでは使えません)
(チェックアウト以外の方法で書き込まれた音楽データは、本機で再生することができません）

音楽再生時のお願い

・音楽再生は、内蔵スピーカーまたはヘッドホンでお楽しみいただけます。
・DVケーブルや映像/音声コードを使って外部機器で音を再生することはできません。また、外部機器につないでダビングした場合、映像だけがダビングされます。
・本機は再生専用機としてお使いになれます。曲の記録や消去などはできません。
ただし、本機のフォーマット機能を使うと、カード内の音楽データや画像データを含むすべてのデータが消去されます。
フォーマットする前に必ず、専用のソフトウェアで曲をチェックイン(SDメモリーカードからパソコンへ音楽データを戻すこと）しておいてください。
・本機でフォーマットしたカードに音楽を記録する場合は、専用のソフトウェアで再度フォーマットしてください。正常に音楽再生ができない場合があります。専用のソフトウェアを操作しているときにSDメモリーカードにアクセスできない場合は、SDメモリーカードを抜き差ししてやり直してください。フォーマットすると、すべてのデータが消去されますので、必要なデータはパソコンに保存しておくことをおすすめします。

故障？と思ったら(Q＆A)

電源関係

Q1：　電源が入らない。

A1-1：バッテリーやACアダプターは正しく接続されていますか。接続を確認してみてください。(P20、22)

A1-2：バッテリーは十分に充電されていますか。十分に充電されたバッテリーをお使いください。(P20)

Q2：　電源が勝手に切れる。

A2：　バッテリーの消耗やテープの摩耗を防ぐために、撮影の一時停止状態が5分以上続くと、自動的に電源が切れます。(P35)

Q3：　電源が入ってもすぐに切れる。

A3-1：バッテリーが消耗していませんか。バッテリー残量表示が点滅していたり、「バッテリーを取りかえてください」のメッセージが出ている場合は、バッテリーが消耗しています。バッテリーを充電するか、十分に充電されたバッテリーを付けてください。(P20)

A3-2：つゆつきになっていませんか。寒いところから暖かいところにビデオカメラを持ち込んだときなど、内部につゆつきが発生することがあります。この場合は、自動的に電源が切れ、カセット取り出し以外の操作はできなくなります。つゆつきがなくなるまでお待ちください。(P142)

バッテリー関係

Q1：　バッテリーの消耗が早い。

A1-1：十分に充電されていますか。ACアダプターで充電してください。(P20)

A1-2：低い温度のところで使っていませんか。バッテリーは、周囲の温度の影響を受けます。低い温度のところでは、使用時間が短くなります。(P140)

A1-3：バッテリーが寿命になっていませんか。バッテリーには寿命があります。寿命は使いかたによって変わりますが、十分に充電しても使用時間が短いときは、バッテリーの寿命です。(P140)

記録モード関係

Q1：　編集、デジタルビデオ機器からのダビング、別売のパソコン静止画キットの「DVスタジオ2」の使用時に誤動作する。

A1-1：同じテープ上に、

- SPとLP(記録モード)
- 12bitと16bit(音声記録モード)
- ノーマルとワイド
- 記録部分と無記録部分

などモードが混在して記録されていると、モードの切り換わるところで誤動作することがあります。編集などをする場合、モードが混在しないように記録してください。

A1-2：連写フォトショット撮影した画像を「DVスタジオ2」で自動取り込みしようとしませんでしたか。連写フォトショットの画像は自動では取り込めません。(P36)

故障？と思ったら(Q＆A)(つづき)

撮影関係

通常撮影時

Q1： 電源、カセットを正しく入れているのに撮影できない。

A1-1：カセットの誤消去防止つまみが開いていませんか。誤消去防止つまみが開いている(SAVE 側になっている)と撮影できません。(P25)

A1-2：カセットのテープ終端(テープの一番最後)になっていませんか。新しいテープに交換してください。(P24)

A1-3：電源スイッチを「撮影」にしていますか。「再生」、「カード再生」になっているときは撮影できません。(P34)

A1-4：つゆつきになっていませんか。つゆつき時は、カセット取り出し以外の操作はできなくなります。つゆつきがなくなるまでお待ちください。(P142)

A1-5：テープ/カード選択スイッチが「カード」側になっていませんか。「テープ」側にしてください。

Q2： 画面が急に変わった。

A2： デモが始まったのではないですか。デモモードを「スタンバイ/入」に設定し、カセットを入れずに電源スイッチを「撮影」にするとデモモードになります。通常は「切」にしてお使いください。(P129)

いろいろな撮影時

Q1： 映像が止まったままになっている。

A1-1：フォトショットボタンを押しませんでしたか。フォトショットボタンを押すと、約7秒間、静止画撮影します。約7秒後に撮影の一時停止状態に戻ります。(P36)

A1-2：静止画ボタンを押しませんでしたか。静止画ボタンを押すと撮っている映像が静止画になります。(P36)もう一度、静止画ボタンを押すと元に戻ります。

A1- 3：マルチ / 子画面ボタンを押しませんでしたか。押すと、マルチ画面または子画面表示となります。マルチ画面表示または子画面表示時にもう一度ポンと押すと、元に戻ります。

Q2： 自動でピントが合わない。

A2-1：マニュアルフォーカスモードになっていませんか。オートフォーカスモードにすると自動でピントが合います。

A2-2：オートフォーカスモードでピントが合いにくい場面を撮影していませんか。オートフォーカスでは、ピントの合いにくい場面があります。(P147)この場合はマニュアルフォーカスモードで手動でピントを合わすことができます。(P60)

A2-3：デジタル機能を「コウカンド」に設定していませんか。「コウカンド」にすると、フォーカスはマニュアルになります。(P68)

編集関係

Q1： アフレコができない。

A1-1：カセットの誤消去防止つまみが開いていませんか。誤消去防止つまみが開いている(SAVE 側になっている)と編集できません。(P25)

A1-2：LP モードで撮影した部分にアフレコしようとしていませんか。LPモードでは、テープ上のトラック幅がヘッド幅より狭いため、アフレコはできません。(P149)

表示関係

Q1： タイムコード表示がおかしくなる。

A1： 逆スロー再生をすると、タイムコード表示のカウントが一定にならないことがありますが、故障ではありません。

Q2： テープ残量表示が消える。

A2： フォトショット撮影、コマ送り、マルチモード画面表示(ストロボ)などをすると、一時的にテープ残量表示が消える場合があります。通常の撮影や再生を続けると元に戻ります。

Q3： テープ残量表示が実際のテープ残量と合わない。

A3-1：約15秒以下の連続撮影では、残量表示が正確に出ません。

A3-2：実際のテープ残量より約２～３分少ない表示が出る場合があります。

Q4： 機能表示(モード表示、残量表示、カウンター表示など)が出ない。

A4： メニューの「ヒョウジモード」が「切」になっていると、液晶モニターやファインダーのテープ走行状態、警告、日付表示など以外は消えます。

再生関係(映像)

Q1： 早送り再生、巻戻し再生をすると、モザイク状のノイズが出る。

A1： デジタル特有の現象です。故障ではありません。

Q2： テレビと正しく接続しているのに再生画像が出ない。

A2： テレビの入力切換えがビデオ入力になっていますか。テレビの説明書をよくお読みになり、接続したビデオ入力端子を選んでください。

Q3： 再生画像がきれいに映らない。

A3-1：本機のヘッドがよごれていませんか。ヘッドがよごれていると、再生画像がきれいに映りません。付属のデジタルビデオ用ヘッドクリーナーを使ってヘッドを清掃してください。(P142)

A3-2：映像 / 音声コードの端子部がよごれていると、画面にノイズが入ることがあります。やわらかい布でよごれをふき取ってから AV 入出力端子に接続してください。

A3-3：著作権保護の信号(コピーガード)が入っている映像を録画していませんか。このカセットを本機で再生すると、映像がモザイクになります。

再生関係(音声)

Q1： 本機のスピーカーから再生音声が出ない。

A1： 本機の音量調整が小さくなりすぎていませんか。再生時にマルチプッシュダイヤルを押し続けて、音量調整表示を出し、ダイヤルを回すと、音量を調整することができます。(P48)

Q2： ヘッドホンの右音声が聞こえない。

A2： 再生モードで「AV 入出力セッテイ」メニューの「AV タンシ」が「AV入出力」になっているとヘッドホンの右音声は聞こえません。ヘッドホンを使用するときは必ず「AV 出力 / ヘッドホン」にしてください。(P48)

故障？と思ったら(Q＆A)(つづき)

Q3：　音声が重なって聞こえる。

A3-1：「再生キノウ」メニューの「12bit 音声」を「ミックス」に設定していませんか。「音声キロク」モードを「12bit」にして撮影したテープにアフレコ編集すると、撮影時の音声と後から録音した音声を同時に重ねて聞くことができます。また、それぞれを別々に聞くこともできます。(P112)

A3-2：「再生キノウ」メニューの「音声キリカエ」を「ステレオ」に設定して主音声、副音声の入った映像を再生していませんか。主音声を聞く時は「L」、副音声を聞く時は「R」に設定してください。(P55)

Q4：　アフレコすると元の音声が消えてしまった。

A4：　16bit モードで撮影した部分にアフレコすると元の音声が消えてしまいます。元の音声も残したい場合は、撮影時に12bit モードで撮影してください。(P112)

Q5：　テレビ、本機のスピーカーとも再生音が出ない。

A5-1：アフレコしていないのにステレオ 2 にしていませんか。アフレコしていない場合は、ステレオ 1 に切り換えてください。(P112)

A5-2：可変速サーチになっていませんか。可変速サーチ中は音声は出ません。再生ボタンを押すと、通常の再生に戻ります。(P50)

Q6：　再生音に「カチッ」音が録音されている。

A6：　撮影中にプログレッシブフォトショットやプログレッシブ静止画にすると、本機から「カチッ」音がし、この音がテープに録音されてしまいます。撮影の一時停止中にプログレッシブフォトショットやプログレッシブ静止画にした場合は、「カチッ」音は録音されません。(P38)

カード関係

Q1：　メモリー画像がきれいに記録されない。

A1：　「エコノミー」にして、細かいものを記録していませんか。「エコノミー」で細かいものを記録すると、画像がモザイク状になることがあります。「ノーマル」または「ファイン」にして、記録してください。(P92)

Q2：　カードに記録された画像が消去できない。

A2-1：ロックがかかっていませんか。ロック設定をしていると消去できません。(P106)

A2-2：SDメモリーカードの場合、書き込み禁止スイッチが「LOCK」側になっていると消去できません。(P107)

Q3：　カードフォトショットをしていないのに「残 0 枚」と表示され、記録できない。

A3：　メモリー画像以外のデータ(タイトル・音楽データ)が多く記録されていませんか。

Q4：　カードのメモリー画像がおかしい。

A4：　データが壊れているおそれがあります。データは静電気や電磁波で壊れることがあります。大切な画像は、テープやパソコンなどにも記録するようにしてください。

Q5：　メモリー画像の再生中に「×」マークが表示される。

A5：　形式の異なる画像や壊れた画像を再生しています。(P96)

Q6：　カードをフォーマットしても使えるようにならない。

A6：　本機、またはカードの故障と思われます。お買い上げの販売店にご相談ください。

Q7：　メガピクセル画像なのに画面上できれいに見えない。

A7：　メガピクセル画像は、テレビや液晶モニター上では画質が劣化しますが、プリントするときれいに見えます。

カード関係(つづき)

Q8： メガピクセル画像をテープに記録したら画質が悪くなった。

A8： テープにはメガピクセル画像を記録することはできないので、画質が劣化しました。

Q9： メガピクセル画像をパソコンに取り込んだら画質が悪くなった。

A9： 画像の取り込みに、DV 端子(i.LINK)やデジタル静止画端子を使用していませんか。メガピクセル画像の場合は、カードのファイルをパソコンに記録してください。

その他

Q1： カセットの取り出しができない。

A1-1：電源の供給はされていますか。ACアダプターやバッテリーが正しく入っていますか。(P24)

A1-2：放電したバッテリーを使用していませんか。バッテリーを充電してから取り出してください。

A1-3：グリップベルトがひっかかっていると、カセットが出ないときがあります。(P24)

Q2： カセットの取り出し操作以外何も操作できない。

A2： つゆつきになっていませんか。つゆつきがなくなるまで待ってください。(P142)

Q3： リモコンが働かない。

A3-1：リモコンのコイン電池が消耗していませんか。新しいコイン電池と交換してください。(P28)

A3-2：リモコンの設定は合っていますか。リモコンと本機の「リモコン」設定が合っていないと、リモコンを操作しても動作しません。

Q4： 電源が入っているのに何も操作できない。

A4-1：DPOF設定内容の確認中ではないですか。設定内容の確認は時間がかかる場合があります。動作中ランプが消灯するまでお待ちください。(P111)

A4-2：RESET ボタン(P16)を押してください。それでも直らない場合は電源を外して 1 分ほどおいたあと、再度電源を入れ直してください。(動作中ランプが点灯中に上記の操作を行うとカードのデータが破壊されることがあります)

自己診断表示機能

本機は異常を知らせる自己診断表示機能があります。
液晶モニターまたはファインダーに表示(サービス番号)が出ますので、異常と思われる場合は、電源を一度「切」にし、再び「入」にしてください。それでも表示が消えないときは下表を参考に対応してください。

異常表示	本機の状態	対応のしかた
U10	つゆつきが起こっています。	表示が消えるまで待つ(P142)
U11	ヘッドがよごれています。	ヘッドをクリーニングする(P142)
F01·F02 F03·F04 F05	異常と思われます。	カセットの出し入れ操作をしてください。(P24) それでも表示が消えないときは、 修理をご依頼ください。
F31·F51 F52	異常と思われます。	修理をご依頼ください。

本機の状態によって、異常表示の番号は変わります。修理をご依頼の際には異常表示の番号(サービス番号)をお知らせください。(例えば、F01 と出ている場合は「F01」とお知らせください)
F01～F52の異常表示が出た場合、上記処置を行ってもその表示が消えないときは、お買い上げの販売店、または最寄りの修理ご相談窓口へご依頼ください。お客様での修理は、ご遠慮ください。

仕様

デジタルビデオカメラ

電　　源	DC 7.9/7.2 V
消費電力	録画時 4.2 W(ファインダー使用時)　5.2 W(液晶使用時明るさ：標準)

信号方式	NTSC 日米標準信号方式
録画方式	Mini DV 方式(民生用デジタル VCR SD 仕様)
使用テープ	6.35 ミリ幅デジタルビデオテープ
録画時間	最大 80 分(SP)120 分(LP)(DVM80 使用時)
テープ速度	SP 時：18.812 mm/ 秒　LP 時：12.555 mm/ 秒
映像記録方式	デジタルコンポーネント記録
音声記録方式	PCM デジタル記録：16 bit (48 kHz/2ch)　12bit (32 kHz/4ch)
撮像素子	CCD 固体撮像素子(総画素 102 万画素､動画 41 万画素､静止画 84 万画素(108 万画素記録))
レンズ	自動絞り 10 倍電動ズーム F1.8 (f=3.55 ～ 35.5 mm)マクロ付き(フルレンジ AF)
早送り・巻き戻し	約 2 分 20 秒(DVM60 使用時)
フィルター径	37 mm
ズーム	光学 10 倍・デジタル 25 倍・スーパーデジタル 100 倍
モニター	3 インチ広視野角液晶モニター(20 万画素)
ファインダー	電子カラービューファインダー
マイク	ステレオマイクロホン
スピーカー	20 mm 丸形 1 個
白バランス調整	自動追尾ホワイトバランス方式
標準被写体照度	1400 ルクス
最低照度	12 ルクス
S 映像出力	Y 出力：1 Vp-p 75 Ω C 出力：0.286 Vp-p 75 Ω
映像出力	1 Vp-p 75 Ω
音声出力	316 mV　　　インピーダンス 600 Ω
ヘッドホン出力	77 mV32 Ω負荷時(AV ミニジャック兼用)
デジタル静止画	デジタル静止画出力、制御信号入出力(転送レート：最大 115 kbps)
S 映像入力	Y 入力：1 Vp-p 75 Ω C 入力：0.286 Vp-p 75 Ω
映像入力	1 Vp-p 75 Ω
音声入力	316 mV　　　インピーダンス 10 k Ω以上
マイク入力	マイク感度 － 50 dB(0 dB=1V/Pa 1KHz)(ステレオミニジャック)
デジタルインターフェース	DV 入出力端子(i.LINK 、4pin)
外形寸法	幅 68 ×高さ 86 ×奥行き 159mm (レンズフード含まず)
本体質量	約 540g (レンズフード含まず)
使用時質量	約 680g (バッテリー：VW-VBD33 、テープ：AY-DVM60E 使用時) 約 620g (バッテリー：VW-VBD21 、テープ：AY-DVM60E 使用時) 約 660g (バッテリー：VW-VBD22 、テープ：AY-DVM60E 使用時) 約 750g (バッテリー：VW-VBD25 、テープ：AY-DVM60E 使用時)
推奨使用温度	0 ℃～ 40 ℃
許容相対湿度	10 %～ 80 %
バッテリー持続時間	21 ページを参照してください。
メモリー機能	
記憶メディア	マルチメディアカード･SD メモリーカード
画像圧縮方式	JPEG 準拠
記録枚数	1200x900 画素：　ファイン：約 25 枚、ノーマル：約 40 枚、エコノミー：約 65 枚 640x480 画素：　ファイン：約 110 枚、ノーマル：約 220 枚、エコノミー：約 440 枚 (マルチメディアカード(16MB)使用の場合) ファイン、ノーマル、エコノミーが混在している場合記録枚数が変わります。

保証とアフターサービス(よくお読みください)

修理・お取り扱い・お手入れなどのご相談は･･･
まず、お買い上げの販売店へお申し付けください

転居や贈答品などでお困りの場合は･･･

●修理は、サービス会社･販売会社の「修理ご相談窓口」へ！

●その他のお問い合わせは､「お客様ご相談センター」へ！

■ 保証書(別添付)

お買い上げ日･販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保存してください。

保証期間：お買い上げ日から本体１年間

■ 修理を依頼されるとき

この説明書をよくお読みのうえ、直らないときは、まず接続している電源を外して、お買い上げの販売店へご連絡ください。

● 保証期間中は

保証書の規定に従ってお買い上げの販売店が修理をさせていただきますので、恐れ入りますが、製品に保証書をそえてご持参ください。

● 保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。ただし、デジタルビデオカメラの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後 8 年です。

注)補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 修理料金の仕組み

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

- 技術料 は、診断・故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。
- 部品代 は、修理に使用した部品および補助材料代です。
- 出張料 は、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

ナショナル／パナソニック **お客様ご相談センター**

使いかた・お買い物のご相談は

フリーダイヤル（料金無料） **0120-878-365**（パナは 365日）

Help desk for foreign residents in Japan
Open : 9:00 - 17:30 (closed on Saturdays / Sundays / national holidays)
Tokyo (03) 3256 - 5444　　**Osaka** (06) 6645 - 8787

ナショナル／パナソニック **修 理 ご 相 談 窓 口**

修理のご相談は

ナビダイヤル（全国共通番号） ☎ **0570-087-087**（パナ パナ）

●お客様がおかけになった場所から最寄りの地区の修理ご相談窓口につながります。
呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。

●携帯電話・PHSからは最寄りの地区の修理ご相談窓口に直接おかけください。（ナビダイヤルはご利用頂けません）

ナショナル／パナソニック 修理ご相談窓口

北海道地区

札幌 札幌市厚別区厚別南2丁目17-7 ☎(011)894-1251	**帯広** 帯広市西19条南1丁目7-11 ☎(0155)33-8477	**函館** 函館市西桔梗589番地241（函館流通卸センター内）☎(0138)48-6631
旭川 旭川市2条通21丁目左1号 ☎(0166)31-6151		

東北地区

青森 青森市大字八ッ役字矢作1-37 ☎(017)739-9712	**岩手** 盛岡市羽場13地割30-3 ☎(019)639-5120	**山形** 山形市流通センター3丁目12-2 ☎(023)641-8100
秋田 秋田市御所野湯本2丁目1-2 ☎(018)826-1600	**宮城** 仙台市宮城野区扇町7-4-18 ☎(022)387-1117	**福島** 福島県安達郡本宮町字南ノ内65 ☎(0243)34-1301

首都圏地区

栃木 宇都宮市御幸町194-20 ☎(028)689-2555	**埼玉** 桶川市赤堀2丁目4-2 ☎(048)729-2102	**山梨** 甲府市下飯田2丁目1-27 ☎(0552)22-5171
群馬 高崎市萩原町沖中205-18 ☎(027)352-1109	**千葉** 千葉市中央区星久喜町172 ☎(043)208-6034	**神奈川** 横浜市港南区日野5丁目3-16 ☎(045)840-3155
水戸 水戸市柳河町309-2 ☎(029)225-0249	**東京** 東京都世田谷区宮坂2丁目26-17 ☎(03)5450-7431	**新潟** 新潟市東明1丁目8-14 ☎(025)286-7725
つくば つくば市花畑2丁目8-1 ☎(0298)64-8756		

中部地区

石川 石川県石川郡野々市町稲荷3丁目80 ☎(076)294-2683	**長野** 松本市大字笹賀7600-7 ☎(0263)58-0073	**岡崎** 岡崎市岡町南久保28 ☎(0564)55-5719
富山 富山市寺島1298 ☎(076)432-8705	**静岡** 静岡市西島765 ☎(054)287-9000	**岐阜** 岐阜県本巣郡北方町高屋太子2丁目30 ☎(058)323-6010
福井 福井市開発4丁目112 ☎(0776)54-5606	**名古屋** 名古屋市瑞穂区塩入町8-10 ☎(052)819-0225	**高山** 高山市花岡町3丁目82 ☎(0577)33-0613
		三重 久居市森町字北谷1920-3 ☎(059)255-1380

近　畿　地　区

滋賀	守山市勝部6丁目2-1 ☎(077)582-5021	**大阪**	大阪市北区本庄西1丁目1-7 ☎(06)6359-6225	**和歌山**	和歌山市中島499-1 ☎(073)475-1311
京都	京都市南区上鳥羽石橋町20-1 ☎(075)672-9636	**奈良**	大和郡山市椎木町404-2 ☎(0743)59-2770	**兵庫**	神戸市中央区琴ノ緒町3丁目2-6 ☎(078)272-6645

中　国　地　区

鳥取	鳥取市安長295-1 ☎(0857)26-9695	**出雲**	出雲市渡橋町416 ☎(0853)21-3133	**広島**	広島市西区南観音8丁目13-20 ☎(082)295-5011
米子	米子市米原4丁目2-33 ☎(0859)34-2129	**浜田**	浜田市下府町327-93 ☎(0855)22-6629	**山口**	山口市鋳銭司字鋳銭司団地北447-23 ☎(0839)86-4050
松江	松江市西津田2丁目10-19 ☎(0852)23-1128	**岡山**	岡山県都窪郡早島町矢尾807 ☎(086)292-1162		

四　国　地　区

香川	高松市勅使町152-2 ☎(087)868-9477	**高知**	南国市岡豊町中島331-1 ☎(088)866-3142	**愛媛**	松山市土居田町750-2 ☎(089)971-2144
徳島	徳島県板野郡北島町鯛浜字かや108 ☎(088)698-1125				

九　州　地　区

福岡	春日市春日公園3丁目48 ☎(092)593-9036	**大分**	大分市萩原4丁目8-35 ☎(097)556-3815	**天草**	本渡市港町18-11 ☎(0969)22-3125
佐賀	佐賀市本庄町大字本庄896-2 ☎(0952)26-9151	**宮崎**	宮崎県宮崎郡清武町下加納366-2 ☎(0985)85-6530	**鹿児島**	鹿児島市与次郎1丁目5-33 ☎(099)250-5657
長崎	長崎市東町1949-1 ☎(095)830-1658	**熊本**	熊本市健軍本町12-3 ☎(096)367-6067	**大島**	名瀬市矢之脇町10-5 ☎(0997)53-5101

沖　縄　地　区

沖縄	浦添市城間4丁目23-11	☎(098)877-1207

所在地、電話番号が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

0600

索引（アイウエオ順）

便利メモ（おぼえのため、記入されると便利です）

お買い上げ日	年　　月　　日	品　番	NV-C7
販　売　店　名	☎（　　　）		
お客様ご相談窓口	☎（　　　）		

松下電器産業株式会社
ビデオ事業部
〒571−8504 大阪府門真市松生町1番15号
放送システム事業部
〒571−8503 大阪府門真市松葉町2番15号

X0600Sa2080(　　　©)